

# 国際見本市会場（インテックス大阪）の改修方針等の 検討業務委託

報告書

---

**MRI** 三菱総合研究所

2025/12/1

インフラ・都市政策本部 都市イノベーショングループ

<b>1. 業務概要</b>	<b>4</b>
1.1 業務の背景・目的	5
<b>2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理</b>	<b>6</b>
2.1 インテックス大阪の施設概要	7
2.2 インテックス大阪の現状把握	9
2.3 展示会産業関係者ヒアリング調査	22
<b>3. 今後の展示会等の開催件数見込みの算出</b>	<b>28</b>
3.1 近年の展示会産業の動向(海外)	29
3.2 近年の展示会産業の動向(国内)	37
3.3 大阪IR区域整備計画の見通し	43
3.4 国や大阪府市のMICE戦略の動向	47
3.5 大阪府内における展示会等の開催件数	49
3.6 2058年を見据えた府内展示会等の開催件数見込み	50
<b>4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析</b>	<b>52</b>
4.1 比較対象都市の選定	53
4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況	55
4.3 IR-MICEの展示施設と公設展示施設の違い	67
<b>5. インテックス大阪における展示会・見本市開催の経済効果等</b>	<b>69</b>
5.1 見本市・展示会開催の経済波及効果	70
5.2 見本市・展示会による成果(事例分析)	71

---

<b>6. IR-MICE開業後を見据えたインテックス大阪の必要規模</b>	<b>73</b>
6.1 インテックス大阪の必要規模	74
<b>7. 今後の改修方法の比較</b>	<b>75</b>
7.1 インテックス大阪の改修方法等の比較	76
7.2 改修方法等の比較結果	80
<b>8. 最適な事業手法の検討</b>	<b>85</b>
8.1 インテックス大阪及び他都市MICE施設の運営形態/発注形態	86
8.2 インテックス大阪の改修後に想定される運営形態	90
8.3 再整備事業において想定される設計・施工・運営の発注形態	91
8.4 事業手法に関する建設会社・運営会社へのヒアリング	94
8.5 ヒアリング結果を踏まえた事業手法の考察	98

# 1. 業務概要

---

## 1.1 業務の背景・目的

## 1. 業務概要

# 1.1 業務の背景・目的

### はじめに

- 国際見本市会場(以下、「インテックス大阪」という。)は、関西一円における展示会産業の振興及び育成並びに中小企業のビジネス創出による大阪経済の発展に貢献するため、昭和60年(1985年)咲洲コスモスクエア地区に開業した西日本最大の展示会場である。
- これまで、ビジネス展示会を中心としたMICEの様々な大型催事に活用されており、2012年には世界最大級の国際金融会議「サイボス2012大阪」(金融関係者6000名参加、経済効果約100億円)の開催や、2019年には世界の主要国・機関の首脳・代表等が参加した「G20大阪サミット2019」など大型政府系国際会議も開催され、約7万㎡の展示空間を活用して、大阪関西における経済・産業の活性化、都市の国際競争力、ブランド力向上に大きく貢献してきた。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大による展示会等の開催件数減少や、テレワーク等のオンライン会議普及によるMICE産業への影響が懸念されたものの、パンデミック終了後においては、人との交流や大型取引における対面での商談など、新たなビジネス機会や産業創出の場としての展示会の重要性が再認識され、催事件数も力強く回復している。

### 業務の背景

- このように、インテックス大阪は、市内をはじめとする中小企業の販路拡大促進をはじめ、様々な産業・イノベーションを創出し、地域産業インフラとして必要不可欠な施設となっている。
- 他方で、開業から40年を迎え、施設全体の老朽化に加えて、各施設機能が主催者・来場者等のニーズや、現代の産業・技術に合わなくなっている。
- また、国内他地域の展示会・見本市会場において新設・改修・機能拡張等が進むなか、都市間競争力の低下も懸念される。
- 更に、隣接する夢洲には、2030年に開業予定の大阪IR-MICEの開業(当初は展示面積20,000㎡の予定)が予定されており、整備計画上では、事業期間中に段階的な拡張が予定されているところである。(2045年までに60,000㎡、2058年までに100,000㎡)このため、公設展示場としての役割を整理する必要がある。

### 業務の目的

- こうしたインテックス大阪の現状と課題や、展示会・見本市産業に関する現状や国際動向等に加え、IR-MICEと公設展示施設の役割分担等、インテックス大阪の政策的な位置付けを整理する。
- これらを踏まえ、求められる施設機能や必要規模を整理・検討し、今後の改修方法の比較と最適な事業手法の検討を行う。

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

---

- 2.1 インテックス大阪の施設概要
- 2.2 インテックス大阪の現状把握
- 2.3 展示会産業関係者ヒアリング調査

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.1 インテックス大阪の施設概要

#### ● 施設概要・展示室面積・会議室面積

##### < 施設概要 >

建物名	国際見本市会場(インテックス大阪)			
所在地	大阪市住之江区南港北1丁目5番102号			
地域・地区	準工業地域、準防火地域、咲洲コスモスクエア地区			
現運営者	インテックス大阪運営共同企業体 構成員：一般財団法人大阪国際経済振興センター 鹿島建物総合管理株式会社			
開業年月	1～5号館・管理棟・インテックスプラザ他：1985年5月、6号館：1993年10月 機械棟：1992年3月、中心頭駐車場：1995年3月			
敷地面積	121,240㎡(インテックス大阪) 7,700㎡(中心頭駐車場)			
構造・建物用途	(構造)S・RC・SRC (建物用途)展示場・事務所・駐車場			
建築面積	76,706㎡(インテックス大阪) 5,350㎡(中心頭駐車場)			
延床面積	132,663㎡(インテックス大阪) 21,789㎡(中心頭駐車場) 70,078㎡(展示面積)			
階数／床面積／展示面積	1号館	地上2階	6,460㎡	5,087㎡
	2号館	地上2階	7,965㎡	6,729㎡
	3号館	地上2階	6,110㎡	5,119㎡
	4号館	地上2階	7,942㎡	6,729㎡
	5号館	地上3階	11,495㎡	6,353㎡
	6号館	地下1階・地上5階	78,742㎡	40,060㎡
	管理棟	地下1階・地上2階	5,389㎡	—
	インテックスプラザ	地上1階	2,917㎡	—
	付属施設	地上2階	5,643㎡	—
	中心頭駐車場	地上4階	21,789㎡	—

※単位未満の端数処理により合計と内訳の計が一致しない場合がある

##### < 展示室面積 >

展示館	展示面積 (㎡)	小間数	天井高 (m)	床耐荷重 (t/㎡)
1号館	5,087	280	12	5
2号館	6,729	380	12	5
3号館	5,119	286	15	5
4号館	6,729	380	12	5
5号館-A	4,728	279	12	5
5号館-B	1,625	80	5	1
6号館-A	9,679	470	3.225~11.7	5
6号館-B	9,679	470	3.225~11.7	5
6号館-C	10,535	509	3.225~8	2
6号館-D	10,167	509	3.225~8	2
合計	70,078	3,643		

##### < 会議室面積 > (現況会議室面積) 計24室

会議室	面積 (㎡)	会議室	面積 (㎡)
管理棟2Fルーム1	22	6号館5FホールG	534
管理棟2Fルーム2	46	6号館5FホールH	595
管理棟2Fルーム3	46	6号館2Fルーム6-1	35
管理棟2Fルーム4	46	6号館2Fルーム6-2	22
管理棟2Fルーム5	22	6号館2Fルーム6-3	22
管理棟2Fルーム6	22	6号館2Fルーム6-4	14
管理棟計	204	6号館2Fルーム6-5	35
5号館2F会議室A	96	6号館2Fルーム6-6	22
5号館2F会議室B		6号館2Fルーム6-7	16
5号館2F会議室C	64	6号館2Fルーム6-8	14
5号館2F会議室D	55	6号館計	1,309
5号館2F会議室E	55	アーケード1 (ロフト1)	176
5号館2F国際会議場	414	アーケード3 (ロフト3)	176
5号館計	684	会議室総合計	2,549

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.1 インテックス大阪の施設概要

#### ● 施設配置等



- 総展示面積約7万m<sup>2</sup>
- 各展示館(1~6号館)は、インテックスプラザとスカイプラザを囲むように配置
- 5号館2階には国際会議ホール(196座席)と会議室A~E(50座席以下)が存在
- 特に4号館・5号館を機能高度化として検討対象としている



出所)インテックス大阪 施設案内, <https://www.intex-osaka.com/jp/organizer/guide/download/>, (2025年8月1日閲覧)

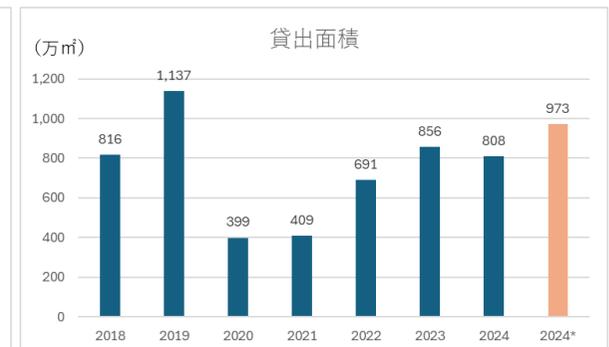
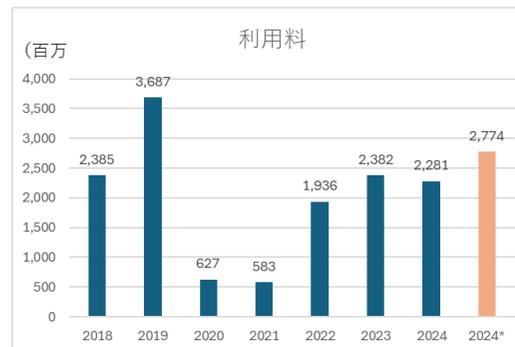
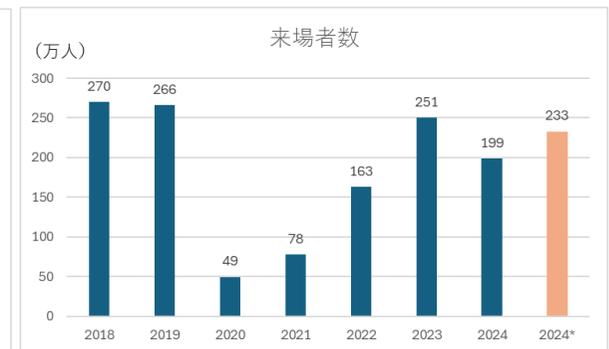
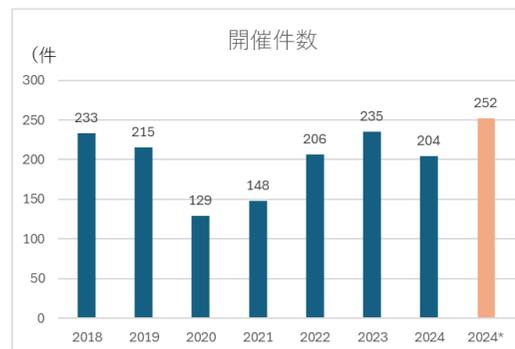
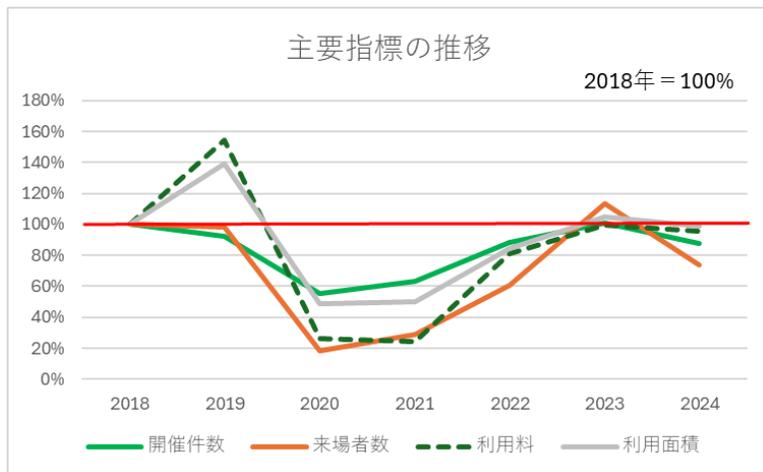
## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

# 2.2 インテックス大阪の現状把握

### 1) 主要な経営指標の状況

- インテックス大阪の主要な経営指標について、2024年6-8月が休館期間だったことを考慮すれば、コロナ禍前と同等又は上回る水準に急回復している。
- 2019年の貸出面積などの指標が開催件数と比較して高い理由はG20開催による。(別ページ参照)

### インテックス大阪の主要な経営指標の推移(2018年度-2024年度)



※ 4つの経営指標の図表のうち「2024\*」(オレンジ色)は、2024年度の休館期間(6-8月)も2023年度6-8月と同水準だった場合の数値としたもの。

#### 【留意事項】

- 2019年度は、G20大阪サミット開催に伴い4月末から7月中旬まで6号館を中心に利用
- 2024年度は、6月～8月の間、改修(電気系統)に伴い全館休館

出所)一般財団法人 大阪国際経済振興センター提供資料より当社作成

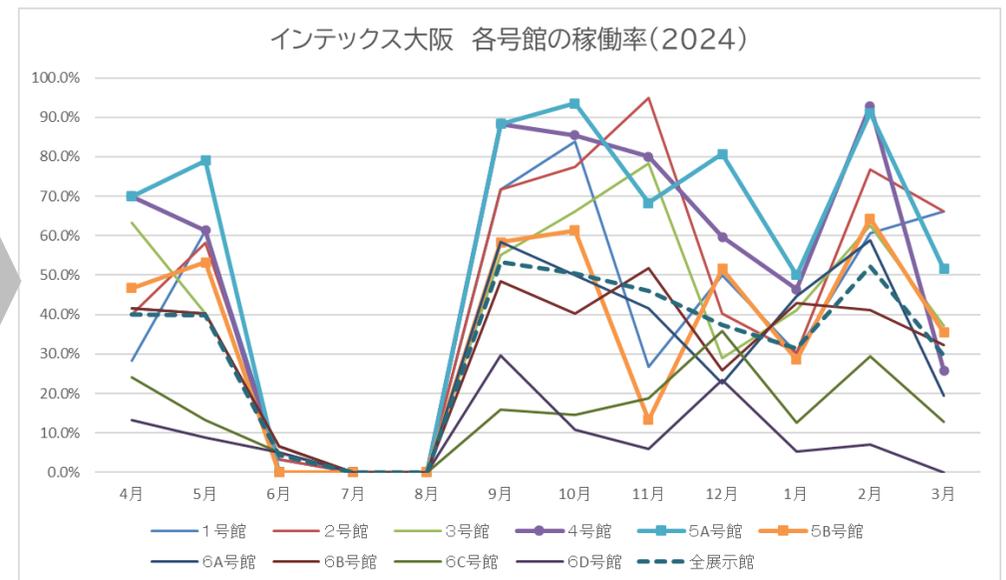
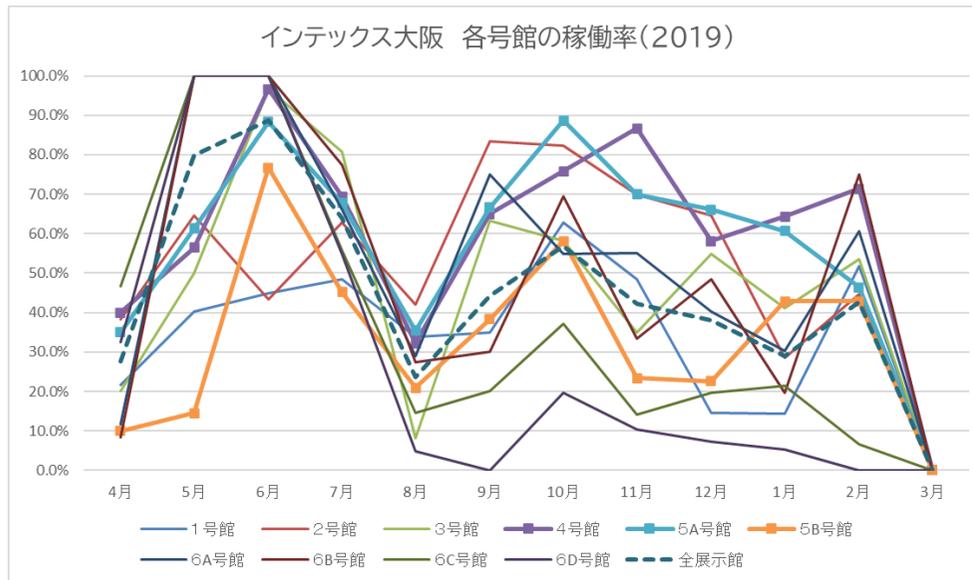
## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

# 2.2 インテックス大阪の現状把握

## 2) 各号館の稼働率

- 月別稼働率の状況は、コロナ前後も大きな変化はなく、年度末(3月前後)や決算期(8月前後)が閑散期となる。
- 年間を通じて稼働率が高いのは、5号館Aゾーン・4号館・2号館、一方で稼働率が低いのは、6号館Aゾーン～Dゾーンとなっている。

### インテックス大阪 各号館の月別稼働率(2019年度・2024年度)



#### 【留意事項】

- 2019年度：G20が開催(5-7月)、3月はコロナ禍により全館休館
- 2024年度：改修工事に伴う休館(6-8月)のため、5-8月の4カ月間は年平均の算出から除外

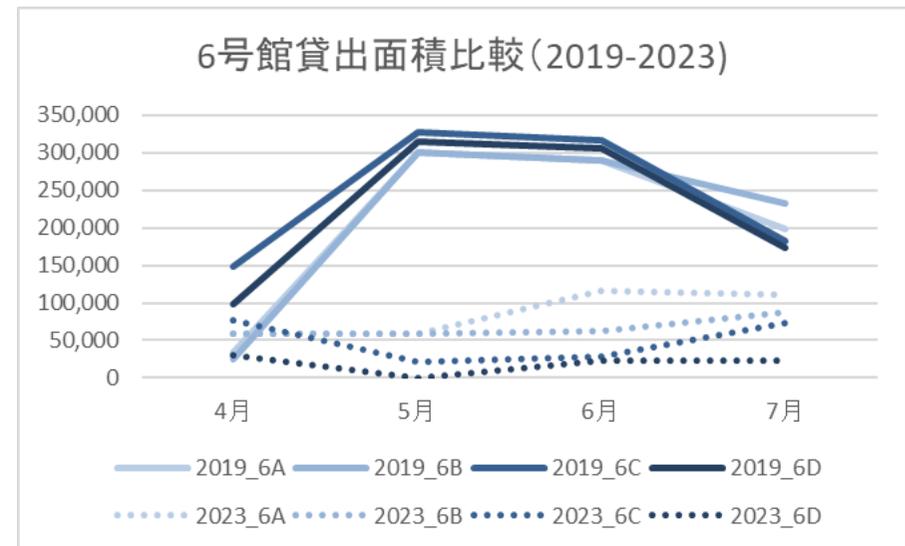
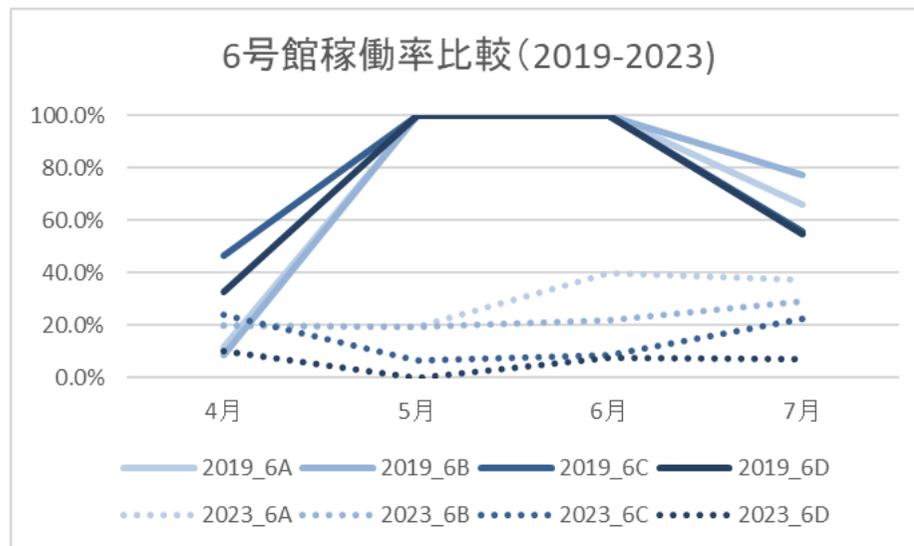
## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.2 インテックス大阪の現状把握

#### 3) 2019年の貸出面積が大きくなっている理由／6号館の利用状況

- 2019年は開催件数215件／貸出面積1137万㎡となっており、2023年の開催件数235件／貸出面積856万㎡と比較して、貸出面積が非常に大きくなっている。
- この要因として、6/28-29で開催されたG20大阪サミットとなっている。4/29-7/12の期間、6号館を中心に貸し出していたことで、例年最も稼働率が低い6号館の稼働率が高くなっていたことから、開催件数は例年通りであるものの、2019年は貸出面積・利用率共に近年過去最高となっている。
- 2019年と2023年の4－7月の6号館稼働状況を比較すると、4か月の6号館貸出面積は、2019年が353万㎡、2023年が88万㎡となっており、その差は265万㎡。2019年と2023年の年間貸出面積の差が281万㎡であることから、その差のほとんどがG20大阪サミット関連によるものである。
- 言い換えると、稼働率の低い6号館の利用拡大を図ることがインテックス大阪の収益向上には不可欠であると考えられる。

#### 6号館の利用状況比較(2019年度G20開催期間と2023年度通常利用期間)



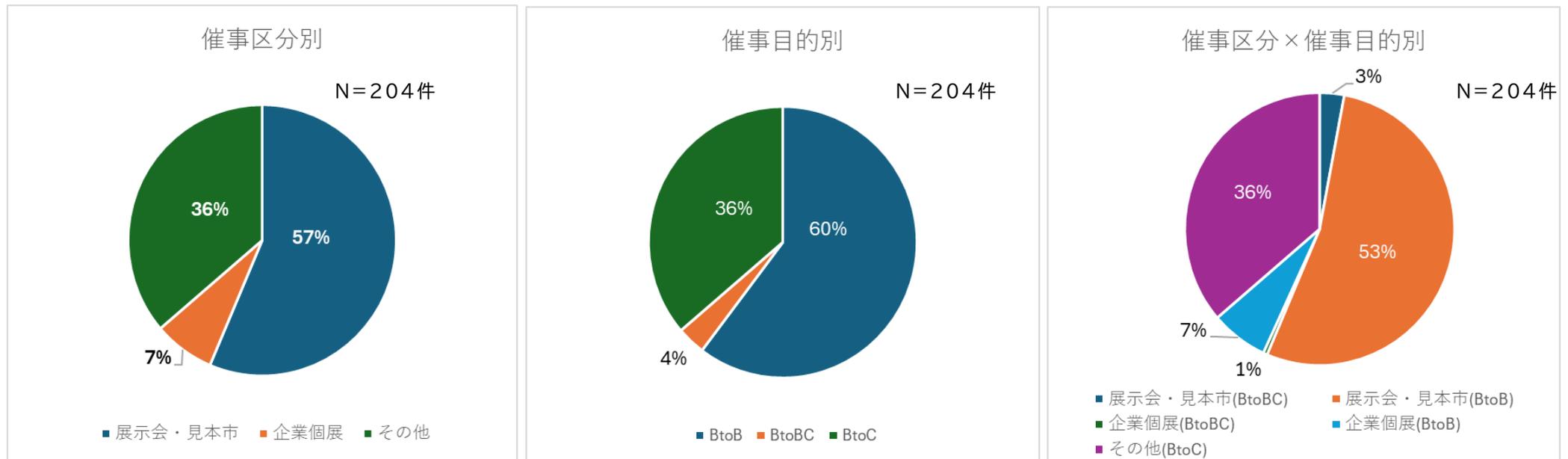
## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.2 インテックス大阪の現状把握

#### 4) 催事区分・催事目的別の開催状況

- 催事区分別では、展示会・見本市が全体の57%、その他が36%。
- 催事目的別では、BtoBが60%、BtoCが36%。
- 催事区分×催事目的別では、展示会・見本市(BtoB)が53%、その他(BtoC)が36%。
- インテックス大阪では、展示会・見本市が主な使われ方となっているものの、その他利用も稼働を支えている状況。

#### 催事区分・催事目的別の件数・割合(2024年度)



## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

# 2.2 インテックス大阪の現状把握

## 4) 催事区分・催事目的別の開催状況 - 詳細

### 催事区分・催事目的別の開催状況(2024年度)

#### ① 催事区分別集計

催事区分	催事目的	件数	新規	国際	合計		催事区分別割合 (%)		
					来場者(人)	展示面積(m <sup>2</sup> )	利用料	来場者	展示面積
展示会・見本市		115	4	9	808,671	4,023,812	45.6%	40.7%	49.8%
企業個展		15	0	0	104,470	795,435	9.8%	5.3%	9.8%
その他		74	0	0	1,073,020	3,264,271	44.6%	54.0%	40.4%
合計		204	4	9	1,986,161	8,083,518	100.0%	100.0%	100.0%

#### ② 催事目的別集計

催事区分	催事目的	件数	新規	国際	合計		催事目的別割合 (%)		
					来場者(人)	展示面積(m <sup>2</sup> )	利用料	来場者	展示面積
BtoB		123	4	9	794,636	4,454,740	52.2%	40.0%	55.1%
BtoBC		7	0	0	118,505	364,507	3.2%	6.0%	4.5%
BtoC		74	0	0	1,073,020	3,264,271	44.6%	54.0%	40.4%
合計		204	4	9	1,986,161	8,083,518	100.0%	100.0%	100.0%

#### ③ 催事区分×催事目的別集計

催事区分	催事目的	件数	新規	国際	合計		催事区分×催事目的別割合 (%)		
					来場者(人)	展示面積(m <sup>2</sup> )	利用料	来場者	展示面積
展示会・見本市	BtoBC	6	0	0	108,505	349,246	3.0%	5.5%	4.3%
展示会・見本市	BtoB	109	4	9	700,166	3,674,566	42.6%	35.3%	45.5%
企業個展	BtoBC	1	0	0	10,000	15,261	0.2%	0.5%	0.2%
企業個展	BtoB	14	0	0	94,470	780,174	9.6%	4.8%	9.6%
その他	BtoC	74	0	0	1,073,020	3,264,271	44.6%	54.0%	40.4%
合計		204	4	9	1,986,161	8,083,518	100.0%	100.0%	100.0%

出所)一般財団法人 大阪国際経済振興センター提供資料より当社作成

【留意事項】

- 2024年度:改修工事に伴う休館(6-8月)

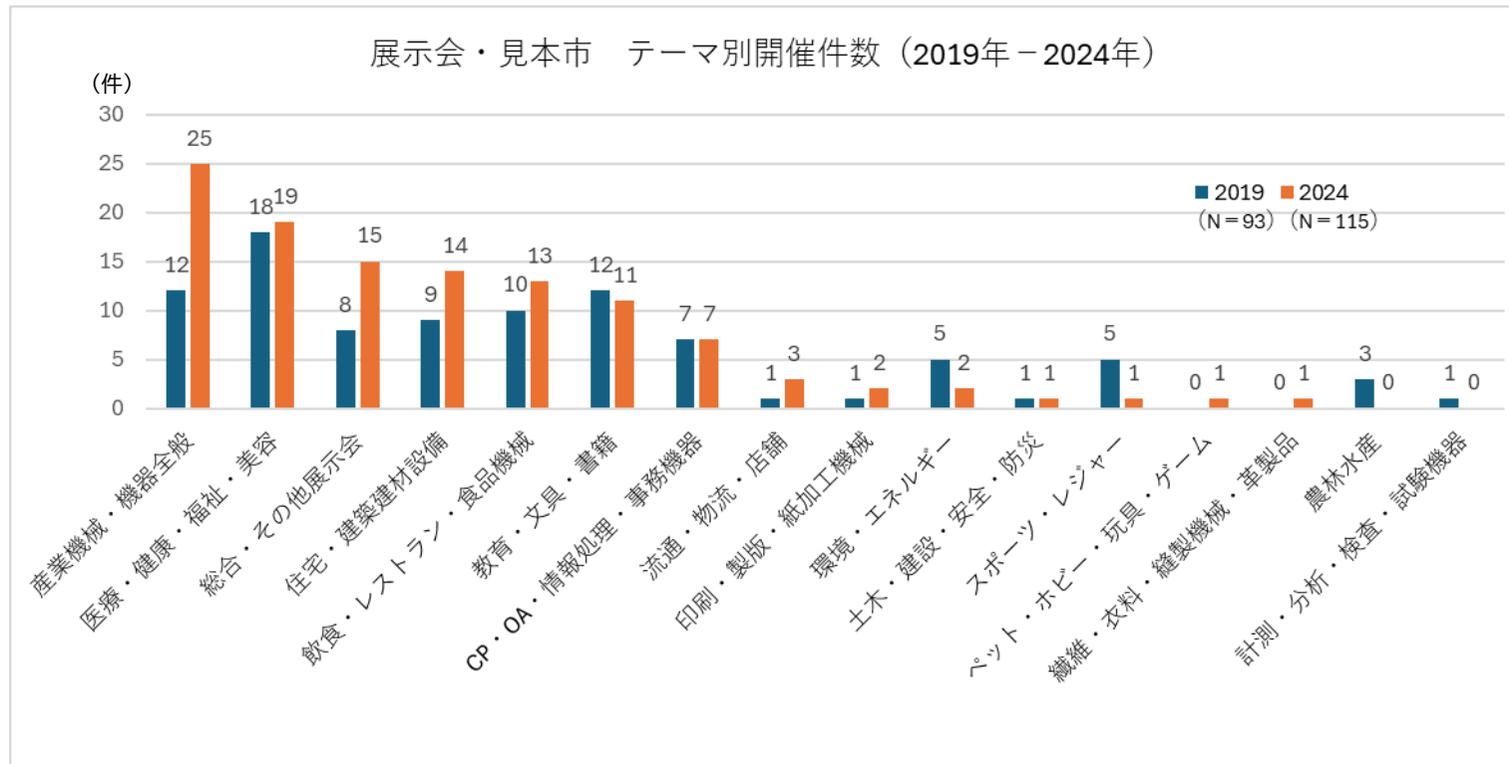
## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

# 2.2 インテックス大阪の現状把握

### 4) 催事区分・催事目的別の開催状況 - 詳細

#### 展示会・見本市のテーマ別開催状況(開催件数別)

- 2024年の開催件数は、「産業機械・機器全般」が最も多く、次いで「医療・健康・福祉・美容」が多い。ものづくりやヘルスケアといった大阪の重要産業における、展示会・見本市の産業振興への貢献が反映されている。



出所)一般財団法人 大阪国際経済振興センター提供資料より当社作成

#### 【留意事項】

- 2019年度：G20が開催(5-7月)、3月はコロナ禍により全館休館

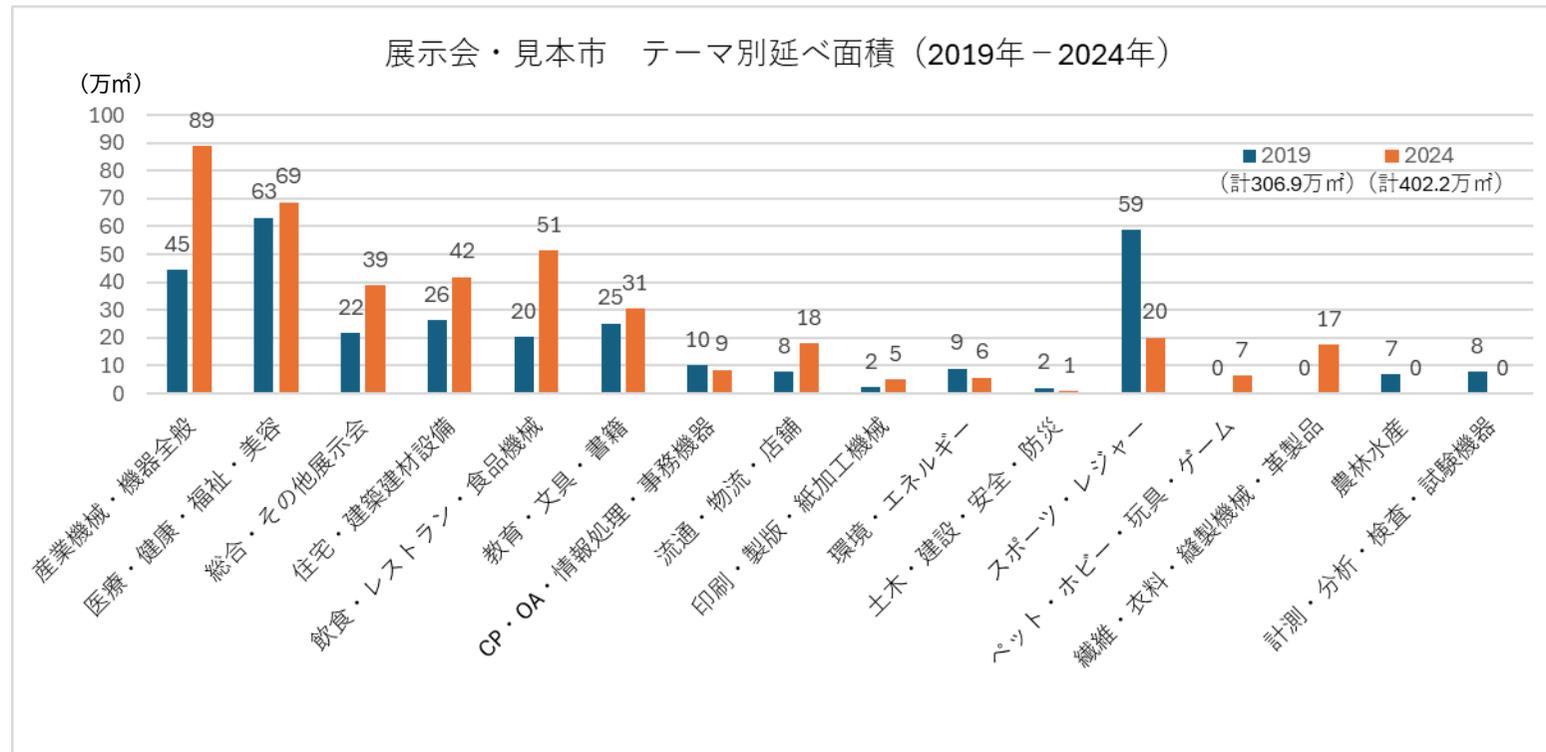
## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

# 2.2 インテックス大阪の現状把握

### 4) 催事区分・催事目的別の開催状況 - 詳細

#### 展示会・見本市のテーマ別開催状況(延べ面積)

- 開催延べ面積で見ると、開催件数と同じく「産業機械・機器全般」、「医療・健康・福祉・美容」の順で大きくなっている。
- スポーツ・レジャーの面積の減少は、2019年10月24－27日に開催された「ツーリズムEXPOジャパン2019 大阪・関西(日本旅行業協会)」及び関連催事が、全館を利用した大型展示会となっていたことが大きく影響。



#### 【留意事項】

- 2019年度：G20が開催(5-7月)、3月はコロナ禍により全館休館

出所)一般財団法人 大阪国際経済振興センター提供資料より当社作成

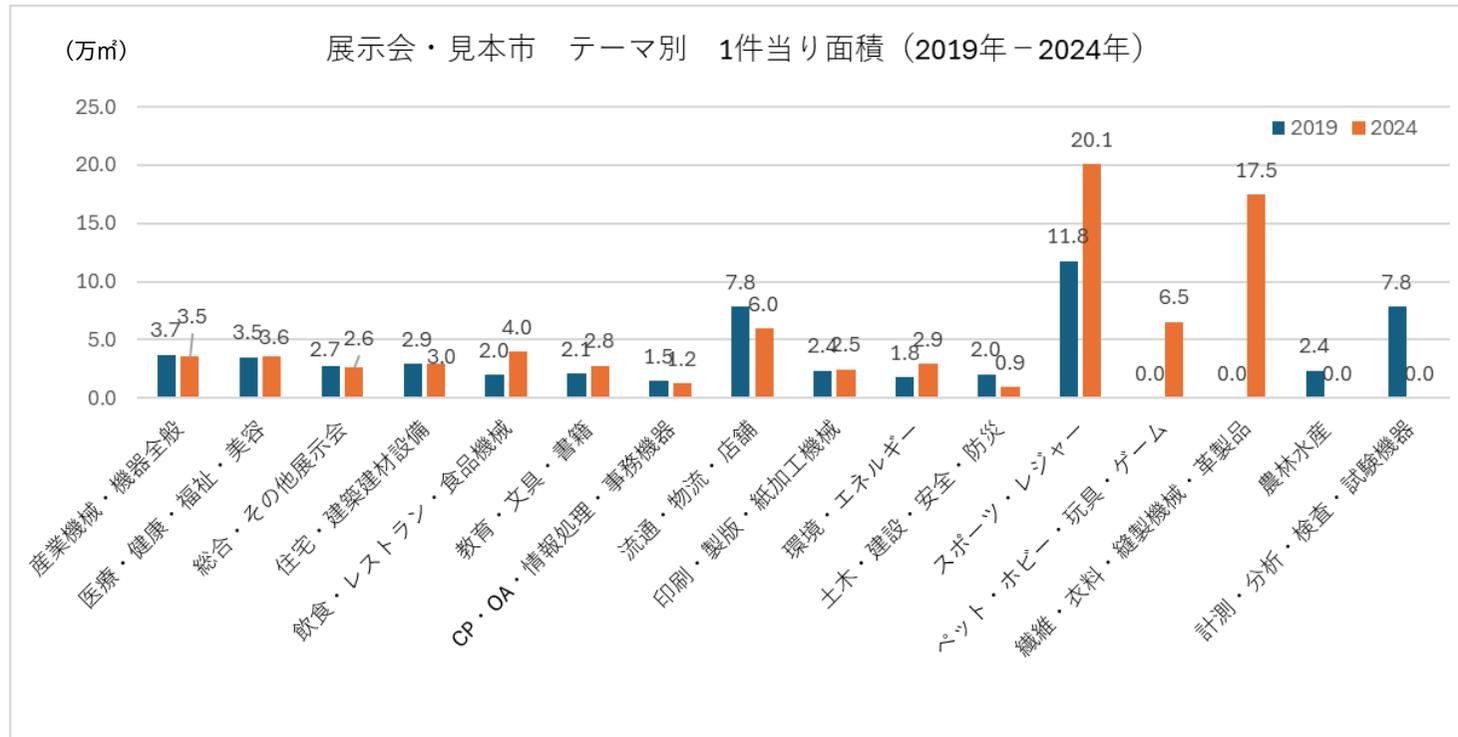
## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

# 2.2 インテックス大阪の現状把握

### 4) 催事区分・催事目的別の開催状況 - 詳細

#### 展示会・見本市のテーマ別開催状況(1件当り面積)

- 1件当り面積では、3万～4万㎡の催事が多い。(貸出面積×貸出日数の計算であり、1日当り面積ではない)
- 「繊維・医療・縫製機械・革製品」の面積の大きさについては、周期開催であり、4万～5万㎡/日規模の大型展示会「国際アパレル&ノンアパレル生産技術見本市(日本縫製機械工業)」が2019年には開催が無く、2024年に開催していたことが影響。
- 2024年の「スポーツ・レジャー」の1件当り面積が2019年と比較して約2倍となっているのは、2024年の同テーマの開催件数が「フィッシングショー-OSAKA2025」の1件のみであったため、平均値として大きくなっている。



#### 【留意事項】

- 展示会・見本市全体の延べ面積÷開催件数で算出
- 2019年度：G20が開催(5-7月)、3月はコロナ禍により全館休館

出所)一般財団法人 大阪国際経済振興センター提供資料より当社作成

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

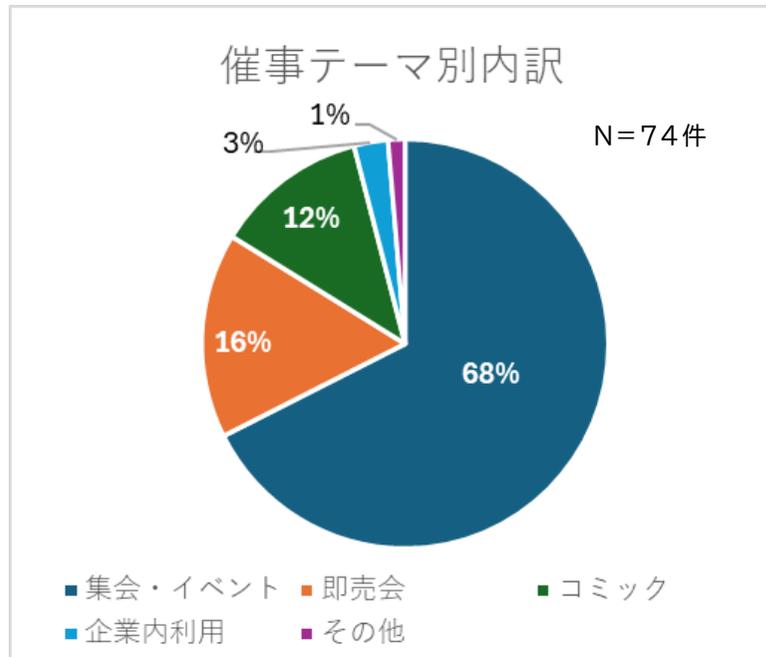
# 2.2 インテックス大阪の現状把握

### 5) 催事区分「その他」の開催状況

- その他の催事のうち、「集会・イベント」が68%と最も多く、次いで「販売会」が16%となっている。
- 「その他」の催事目的は、全てBtoCとなっており、キョードーエンタテインメントの音楽ライブイベント(ロックフェス)等は全館利用をするなど大規模開催も多くなっている。

#### 催事テーマ別内訳(2024年度)

#### 主な主催者の件数・テーマ・イベント内容(2024年度)



主催者	件数	テーマ	主なイベント
キョードーエンタテインメント	9	集会・イベント	音楽ライブイベント
マイナビ	8	集会・イベント	就活イベント
ケイ・コーポレーション	6	コミック	同人誌即売会
テレビ大阪	4	集会・イベント	展示・体験イベント
シーアイ・ショッピングサービス	4	即売会	ファミリーセール
夢番地	3	集会・イベント	音楽ライブイベント
Plus Colors	2	即売会	ドール・フィギュア販売会
関西コミティア	2	コミック	同人誌即売会
みどり会	2	即売会	会員優待販売会
サウンドクリエイター	2	集会・イベント	音楽ライブイベント

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.2 インテックス大阪の現状把握

#### 6) 主催者別の利用状況

- 主催者別に見ると、RX Japanが61件と全体の約3割を占めている。
- 次いで、キョードーエンタテインメント、テレビ大阪エクスプロ、マイナビとなっている。
- 最も多く展示会を主催するRX Japanの利用方法としては、同期間で関連イベントを複数号館を利用して開催しており、同一利用期間で絞ると年間9件の利用という状況になっている。

#### 主な主催者と年間利用件数(2024年度)

主催者	件数	構成比
RX Japan	61	29.9%
キョードーエンタテインメント	9	4.4%
テレビ大阪エクスプロ	9	4.4%
マイナビ	8	3.9%
ケイ・コーポレーション	6	2.9%
ブティックス	6	2.9%
日本食糧新聞社	6	2.9%
イノバント	4	2.0%
シーアイ・ショッピングサービス	4	2.0%
テレビ大阪	4	2.0%
日本経済新聞社	4	2.0%
夢番地	3	1.5%

主催者	件数	構成比
JP産業展協会	2	1.0%
Plus Colors	2	1.0%
エバーリッジ	2	1.0%
サウンドクリエイター	2	1.0%
シャディ	2	1.0%
セブン-イレブン・ジャパン	2	1.0%
ソーゴ大阪	2	1.0%
みどり会	2	1.0%
メッセフランクフルト ジャパン	2	1.0%
関西コミティア	2	1.0%
日本能率協会	2	1.0%

#### 【留意事項】

- 合計90者の主催者のうち、年間2件以上の利用がある上位28者を掲載
- 2024年度:改修工事に伴う休館(6-8月)

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

# 2.2 インテックス大阪の現状把握

## 7) 貸出面積が大きい主催者・イベント(1/2)

- 貸出面積が大きい主な主催者・イベントとしては、展示会や集会イベントが多くなっている。特に、貸出面積が大きい展示会は、関連イベントを同期間に同時開催することで、全館又は複数館を準備期間等含めて1週間程度利用している。

### 貸出面積が大きい主催者・イベント(2024年度)

主催者	催事名	利用号館	テーマ	貸出日数	貸出面積/日
ケイ・コーポレーション	SUPER COMIC CITY 関西30	1-6ABCD	コミック	2	70,078
交通タイムス社	第28回 大阪オートメッセ2025	1-6ABC	集会・イベント	7	59,910
RX Japan	第27回 ものづくり ワールド [大阪] ・第27回 設計・製造ソリューション展 [大阪]	1-6AB	産業機械・機器全般(金属加工・工作機械・FA・制御機器)	6	49,375
ケイ・コーポレーション	GOOD COMIC CITY 30大阪	1-6AB	コミック	1	49,375
キョードーエンタテインメント	FM802 35th ANNIVERSARY “Be FUNKY!!” ROCK FESTIVAL RADIO CRAZY 2024-レディクレ15th-	1-6AB	集会・イベント	7	49,375
RX Japan	第9回 [関西] 総務・人事・経理 Week ・第9回 [関西] 働き方改革EXPO	2-5A,6AB	教育・文具・書籍	6	42,663
メッセフランクフルト ジャパン	ビューティーワールド ジャパン 大阪	1-5AB・6B	医療・健康・福祉・美容	6	39,696
社会福祉振興・試験センター	第37回介護福祉士国家試験	2-4・6AB	集会・イベント	2	37,935
東京コミックコンベンション	大阪コミコン2024	1-5AB・屋外	集会・イベント	7	32,917
大阪釣具協同組合	フィッシングショー-OSAKA2025	3・4・6AB	スポーツ・レジャー	7	31,206
テレビ大阪エクスプロ	INTERMOLD2024	3-5A,6B	産業機械・機器全般(金属加工・工作機械・FA・制御機器)	7	23,617
マイナビ	就職EXPO大阪会場	1-5AB	集会・イベント	3	30,017

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

# 2.2 インテックス大阪の現状把握

## 7) 貸出面積が大きい主催者・イベント(2/2)

### 貸出面積が大きい主催者・イベント(2024年度)

主催者	催事名	利用号館	テーマ	貸出日数	貸出面積 /日
RX Japan	第5回マーケティングWeek-大阪2024- ・第5回 広告メディアEXPO【大阪】 ・第5回営業支援EXPO【大阪】	1-5A	総合・その他展示会	6	28,392
日本製パン製菓機械工業会	第29回 国際製パン製菓関連産業展	1-5A	食品・飲料・レストラン・厨房・食品 製造加工・包装機械	8	28,392
産報出版	2024 国際ウエルディングショー	1(半)・2-5AB	産業機械・機器全般(金属加工・工 作機械・FA・制御機器)	9	27,474
関西物流展実行委員会	第5回 関西物流展	4・6AB	流通・物流・店舗	6	26,087
ヤマゼンクリエイト	2024大阪どてらい市	4(半)・6AB・屋 外	産業機械・機器全般(金属加工・工 作機械・FA・制御機器)	7	25,623
ポケモン	ポケモンカードゲームチャンピオンズリーグ2025大阪	6A(半)・CD	集会・イベント	5	25,542
マイナビ	仕事研究&インターンシップEXPO 大阪会場	6AB・C(半)	集会・イベント	2	24,626
マイナビ	仕事研究&インターンシップEXPO 大阪会場	3・6AB	集会・イベント	2	24,477
ジャンボびっくり見本市協催委員会	第50回 ジャンボびっくり見本市	6CD・屋外	産業機械・機器全般(金属加工・工 作機械・FA・制御機器)	4	23,602
日本縫製機械工業	国際アパレル&ノンアパレル生産技術見本市 (JIAM 2024 OSAKA)	2-5A	繊維・衣料・縫製機械・革製品	8	23,305
RX Japan	第12回高機能素材Week【大阪】 ・第12回 FILMTECH JAPAN【大阪】	2(半)	産業機械・機器全般(金属加工・工 作機械・FA・制御機器)	6	22,371
サントリーホールディングス	サントリーソフトバレーボール2024 近畿大会	6CD	集会・イベント	2	20,702

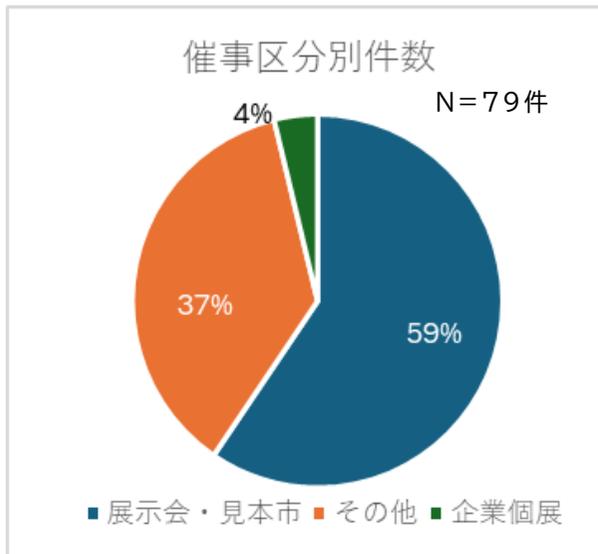
## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

# 2.2 インテックス大阪の現状把握

### 8) 4・5号館の利用状況(2024年度)

- 4・5号館を利用した催事は年間79件(全体204件の約4割がいずれかを利用)となっている。
- 催事区分は、全体傾向と大きく変わらず、展示会・見本市、その他利用が中心となっている。
- 主催者別も全体とは大きな変化はない。
- 会場の使われ方(組合せ)としては、稼働率の高い5号館Aゾーン、4号館を中心とした他館との組合せが多い。
- なお、5A(半)、4(半)となっているのは、半館利用の意味であるが、RX Japanなどが関連テーマを同一期間利用する場合の会場の1つとして半館利用をしている。大阪国際経済振興センターの集計上は1件との扱いとなるが、実態としては、他館との組合せで利用されている状況。

催事区分別件数



主な主催者と年間利用件数

主催者	件数	構成比
RX Japan	22	28%
ケイ・コーポレーション	6	8%
キョードーエンタテインメント	5	6%
日本経済新聞社	4	5%
ブティックス	4	5%
夢番地	3	4%
テレビ大阪エクスプロ	3	4%
マイナビ	3	4%
メッセフランクフルト ジャパン	2	3%
テレビ大阪	2	3%

4・5号館の利用形態

号館の組合せ	件数	構成比
5A(半)	12	15.2%
4・5AB	11	13.9%
4(半)	10	12.7%
5A	7	8.9%
4	6	7.6%
5B	4	5.1%
5AB	4	5.1%
1-6AB	2	2.5%
4・5A	2	2.5%
2(半)・5AB	1	1.3%

【留意事項】

- 2024年度:改修工事に伴う休館(6-8月)
- 主な主催者と年間利用件数:合計35者の主催者のうち、年間2件以上の利用がある上位10者を掲載
- 4・5号館と他館の組合せ:利用件数が多い上位10のパターンを記載

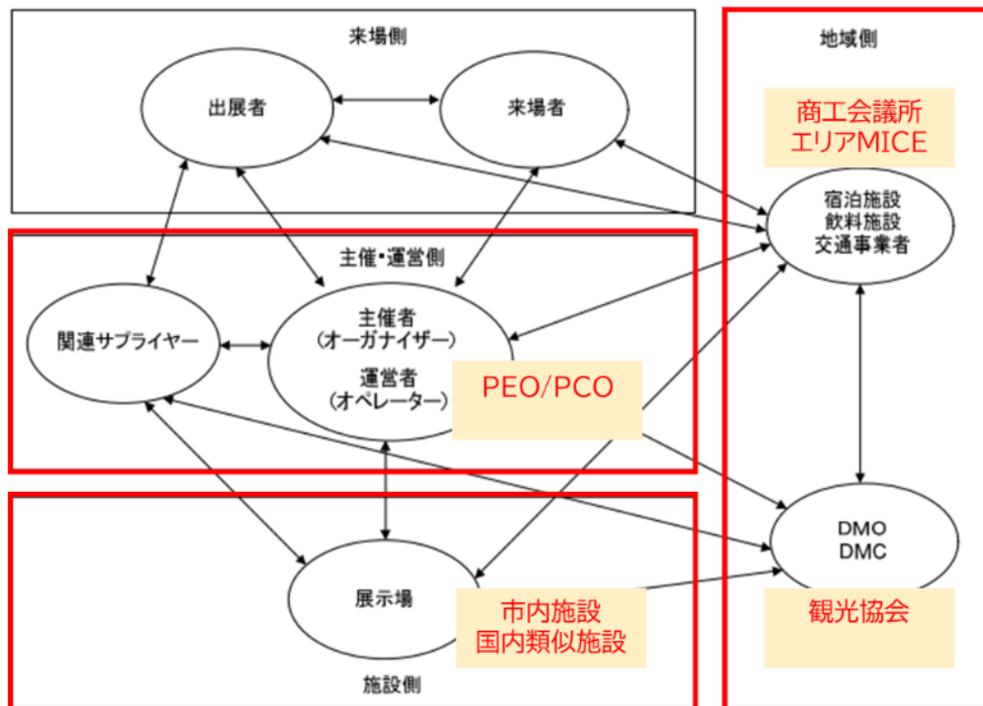
## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.3 展示会産業関係者ヒアリング調査

#### 1) ヒアリング対象者の選定

- 展示会産業の関連主体であるそれぞれの立場からインテックス大阪の現状・課題・今後の方向性をヒアリング
- 主催者や会場により扱う展示会の質が異なるため、主催者および施設については複数主体を選定
- 大阪MICE戦略の具体施策にも位置づけられる「エリアMICE」の展開についても関係者の意見を把握するため、商工会議所や観光協会もヒアリング対象に選定

図表 展示会産業の関連主体



主体の種類	定義・役割
主催者 (PEO/PCO)	展示会の全体的な管理・運営を行う主体。企画・計画をはじめ、開催地選定や広報、設営、運営、次年度のセールスまで幅広く関与する。
市内施設/国内類似施設	展示会会場となる施設を管理・運営する主体。貸館機能が基本。
商工会議所/エリアMICE組織	展示会会期中やその前後に、関係者が利用する施設などの周辺産業。本件では、事業者を会員に持つ商工会議所等を対象に調査。
観光協会	展示会等の誘致活動や開催支援を行う公的組織。地域のマーケティング活動の1つとして、主催者に対して展示会の誘致活動や開催支援を行う。

出所) 経済産業省「展示会産業概論」(平成26年3月)より当社作成

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.3 展示会産業関係者ヒアリング調査

#### 2) ヒアリング結果の概要(PCO/PEO)

- 展示会産業の関連主体であるそれぞれの立場からインテックス大阪の現状・課題・今後の方向性等をヒアリング

項目		意見・コメント
展示会産業の動向		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2024年までに、コロナ禍前の状況にほぼ回復している状況。</li> <li>・ オンラインやハイブリッド会議は一般化しているが、リアル開催の真剣度・重要性が高まっている。</li> <li>・ 展示会開催が東京に集中する傾向はあるが、地方版として、また災害リスク等を踏まえ大阪で開催することがある。</li> </ul>
インテックス大阪への評価	ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議・セミナーが付随した展示会需要に対応するには、会議室のリニューアル・追加整備が必要。</li> <li>・ 主催者や講師の控室が必要。</li> <li>・ 荷捌き用の待機場が足りない。</li> <li>・ 各展示館が独立しているため、使いづらさがある。</li> <li>・ 4・5号館の一体利用・分割利用が可能になると、利便性が高まり展示会場としての印象が変わる。</li> <li>・ 6号館の裏側に、バス乗り場等の交通インフラを整えば使いやすくなる。</li> <li>・ 床面の水平化、雨漏り対策、LED化、バリアフリー化等は必須の対応項目。</li> </ul>
	ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常設の飲食施設の内容・サービスを改善すべき。</li> <li>・ 展示館の貸出時間については、現行制度が良い／時間区分を変更すべき／時間を延長すべきと、異なる意見がある。</li> </ul>
大阪・ベイエリアのまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内中心地やコスモスクエア駅から最寄り駅までのアクセスが悪い。</li> <li>・ 質の高いホテルや飲食施設が不足している。</li> <li>・ 関西には主催者に対してMICE会場の調整を担う機関がない。インテックス大阪が利用できない場合など、関西圏で代替施設を探すのは困難であるが、近隣の施設同士で連携・紹介いただく仕組みがなく融通が利かないことが課題。</li> </ul>
改修・建替えの事業手法等について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改修等の工事期間に、大阪で展示場利用面積が減ってしまうことは絶対に避けて欲しい。改修等の工事期間における代替施設の用意など何かしら対応策が必須。</li> <li>・ 大阪だけでなく、全国展示会場の工事の状況、スケジュール感を把握・調整したうえで改修等の工事を行ってほしい。</li> </ul>
IR-MICEについて		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IRとインテックス大阪は、催事の種類・テーマを分けて運用できる可能性がある。</li> <li>・ IRもインテックス大阪と同程度以上の規模がないのであれば、展示会場としてはインテックス大阪を使うことになる。</li> <li>・ どれくらいの催事がIR-MICEに流れるかは、IR-MICEがどの程度知名度を獲得できるかによる。</li> </ul>

出所)当社によるヒアリング

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.3 展示会産業関係者ヒアリング調査

#### 2) ヒアリング結果の概要(市内施設/国内類似施設)

- 展示会産業の関連主体であるそれぞれの立場からインテックス大阪の現状・課題・今後の方向性等をヒアリング

項目		意見・コメント
展示会産業の動向		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンラインやハイブリッド開催が普及したが、規模が縮小することではなく、海外からの引き合いも含め、展示会は回復している。</li> <li>・ 開催分野、種別についてはコロナ禍前と変化はない。</li> </ul>
インテックス大阪への評価	ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ セントラルキッチンやバンケットがあると国際会議の誘致がしやすい。</li> </ul>
	ソフト	—
大阪・バイエリアのまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展示会の開催地が東京に集中する傾向はコロナ禍前と同様。</li> <li>・ IRの開業をきっかけに、大阪・神戸・京都のエリアとしてMICEを盛り上げていければよい。</li> </ul>
改修・建替えの事業手法等について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大規模改修工事等の際には、展示会場側と行政、工事業者での十分な調整が必要であり、展示会主催者に対する適切な情報提供や、工事期間中についても利用可能な(工事対象以外の)展示館への利用誘導など、主催者からのオーダーに対して柔軟に対応していくことが必要。</li> <li>・ インテックスの規模では他施設で替えが効かないため、代替となる仮施設などを設けるべき。</li> <li>・ 大阪府内全体の動きをとらえて改修等の工事時期を決めていくべき。</li> </ul>
IR-MICEについて		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主催者は、展示会場が公設か民設かという違いではなく、規模や機能で会場を選んでいる。</li> <li>・ アフターコンベンションでの活用など、IR-MICEとの連携方法も検討していく必要。</li> </ul>

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.3 展示会産業関係者ヒアリング調査

#### 2) ヒアリング結果の概要(商工会議所/エリアMICE/観光協会)

- 展示会産業の関連主体であるそれぞれの立場からインテックス大阪の現状・課題・今後の方向性等をヒアリング

項目		意見・コメント
展示会産業の動向		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍でオンライン環境が整備されたが、現在でも対面での機会が好まれる傾向がある。</li> <li>・ 競争相手は海外都市であり、会場面積の規模だけでは誘致できなくなっている。</li> <li>・ 東京で開催している催事を大阪で開催する傾向がこの10年～15年で増えている。</li> </ul>
インテックス大阪への評価	ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議室が少ない。200～300人規模の会議室があるとよい。</li> <li>・ 搬入用車両の待機場が不足。</li> <li>・ LED化、床面の凹凸の改修、通信環境の整備、サステナビリティへの対応などが必要。</li> </ul>
	ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設改修等の後は、施設の利用料金の改定も検討が必要。</li> <li>・ 長期的なMICE誘致の体制(人材確保)等が必要。</li> </ul>
大阪・ベイエリアのまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中ふ頭駅周辺がさびれており、導線なども高揚感にかけろ。</li> </ul>
改修・建替えの事業手法等について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改修等の工事期間に伴う長期間休館の影響として、既存の催事が休館中に移った別の展示会場から戻ってこないことが懸念される。</li> </ul>
IR-MICEについて		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療や製薬など分野によっては、IR-MICEよりも公設展示場を好む可能性があるということも聞く。</li> </ul>

出所)当社によるヒアリング

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.3 展示会産業関係者ヒアリング調査

#### 3) ヒアリング結果から得られた4・5号館改修等のポイント

- 4・5号館改修等の検討にあたっては、①展示面積(関西圏の産業展示会場供給の維持)、②会議室・セミナールーム(多様化するMICE需要への対応)、③柔軟な展示会利用による様々な規模への対応等により、展示会市場の拡大への対応だけでなく、展示会の多様化への対応も可能となる。

項目	意見・コメント
展示面積の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各館長寿命化を行っても(4・5号館を建替えしない場合)1～5号館は2050年、6号館は2058年に大阪市の「施設のあり方検討のための試行ガイドライン」が定める施設耐用年数(65年)を迎える。</li> <li>● 世界的にみても、日本の展示会場は面積規模が小さく、稼働率が高すぎて新規展示会の参入が非常に困難な状況。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 仮に会場が空いていても開催時期が合わないことや、競合展示会と重複するなど機会損失が生じている。また、完売している既存展示会も、面積規模を拡大できずに困っている状況もある。</li> </ul> </li> </ul>
床耐荷重	<ul style="list-style-type: none"> <li>● IR-MICEの設計は床耐荷重は2t/㎡以上となっており、インテックス大阪が担ってきた産業展示会(特に重量物)の展示が出来ない可能性もある。インテックス大阪としては、今後も産業展示会の開催可能な面積を一定確保していく必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 製造業系展示会は、床耐荷重5t/㎡以上という条件付きでの申し込みが多い。</li> <li>➢ 床耐荷重に制約が出るのは、超大型実機を持ち込む展示会でも一部の出展企業であり、重量の均等化などの対策案もあるため、必ずしも大きな問題にはならない可能性。</li> <li>➢ 床耐荷重よりも、インテックス大阪はアスファルトのため、アンカー固定出来ないこと、床の水平が取れないことが大きな問題。</li> </ul> </li> </ul>
会議室・セミナールーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インテックス大阪の会議室は、国内の主な展示会場の中でも最も古い印象で、来場者・出展者からも非常に驚かれる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 4・5号館を建替える場合には、2階建てにして、セミナー会場と会議室を入れるなどの検討余地もあるのではないかと。他方で、2階建てにするならば展示面積を拡大する方が主催者需要があるとも考えられ、検討段階では更に精査していく必要。</li> </ul> </li> </ul>
柔軟な展示会利用(可動壁による分割・一体利用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 同一主催者が複数催事をまとめて開催する近年のトレンドや、展示会の大型化、中規模展示会などの新規誘致を図っていくうえでは、4・5号館の一体利用や稼働壁によるフレキシブルな利活用を実現することが必要。</li> <li>● 中小企業等が出展しやすい中規模展示会(1万㎡未満)を、今後も開催しやすく、稼働を高めるには、複数催事が開催できるような分割利用を可能とすることも必要。</li> </ul>
各館との接続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現状の4・5号館では、通路の位置がズレていることが非常に使いづらく、場内の柱まわりも多いため小間も設計しづらい。</li> <li>● 6号館への連絡通路も他展示館との位置がズレている。例えば、4号館と6号館の間を接続するなど、搬出動線を検討することも必要。</li> </ul>

## 2. 現状のインテックス大阪の課題と主催者ニーズの整理

### 2.3 展示会産業関係者ヒアリング調査

#### 4) 6号館の稼働率向上に向けた課題と対応の方向性

- 6号館の稼働率向上に向けては、**来場者動線(インテックス大阪入口からの距離や待機場所不足)や、搬出入経路(C・Dゾーン)など来場者・主催者に選ばれるためには、運用上の工夫では解決困難な施設面の課題**が大きい。

項目	課題に関するコメント	課題を踏まえた対応の方向性(案)
展示面積	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>各ゾーンが約1万㎡と大きい</b>ため、規模の小さな主催者需要への柔軟な対応が難しい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 分割利用による稼働率向上を検討する場合でも、現状は空間として分離することは出来ない構造となっている。</li> </ul> </li> <li>● 展示会場の予約状況等を踏まえ、主催者に対して、利用する展示館の変更を依頼するとしても、他都市の展示会場(東京ビッグサイトや幕張メッセ等)と異なり、<b>各展示館の面積・形状が異なることからレイアウト変更や予算の制約もあり、展示館の変更は難しい。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 4・5号館の改修等の際、6号館Bゾーンの接続性を改善(屋根や連絡道の設置等)を検討。</li> <li>➢ 3号館と屋外展示場、6号館Aゾーンの接続性、利用方法を改善する。</li> <li>➢ 屋上駐車場直結、ホールや会議室が備わっているなど6号館の特徴を活かす(会議併設型展示会の誘致等)。</li> </ul>
搬出入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>6号館3階Dゾーンへの搬入は、Cゾーンを経由する必要</b>がある。</li> <li>● A・Bゾーンはバックヤードが不足、C・Dゾーンはバックヤードが無い<b>ため、搬出入のしづらさも課題</b>となっている。C・Dゾーンは、片方をバックヤードに使用することもある。</li> <li>● 出展者の搬出入車が屋上駐車場へ入庫してしまい、催事終了直後にエレベーター待ちの列が出来てしまう事がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 3階C・Dゾーンは、バックヤードがないため、展示館の一部分をバックヤードとして活用するなどの工夫を検討・周知する。</li> </ul>
来場者・車両の待機場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>6号館は待機車両場所・来場者の待機場所不足</b>があり、特に6号館3階はその点が解消できないことが稼働率向上を凶るうえでの課題である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 来場者が、展示会等の開始前(開場前)に待機する場所が無い。</li> <li>➢ 6号館3階は、使用していない会場を待機場所として活用することもある。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 4・5号館改修等に併せて搬出入車両の待機場拡張、車両動線の見直しにより出展者の利便性向上を凶るとともに、来場者動線の見直し、滞留場所の創出などを検討。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>インテックス大阪の入口から最も遠いため、来場者動線を考えると主催者としては利用会場の候補になりづらい。</b></li> <li>● 2階へのエレベーターがなく人荷用で代用している(バリアフリー対応の課題)。</li> <li>● 未活用のスペースもある(厨房、元厨房事務所(北側)、倉庫、チケットBOX(南側))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 会場全体のサイン・動線計画を改善</li> <li>➢ 4・5号館改修等に併せてバス乗降場所の設置や人の動線計画も検討する。</li> <li>➢ 未活用スペースの活用方法を検討・主催者向けに提案する。</li> <li>➢ 低利用設備(会議室・ホール)の利活用方法を検討する。</li> </ul>

## 3. 今後の展示会等の開催件数見込みの算出

---

- 3.1 近年の展示会産業の動向(海外)
- 3.2 近年の展示会産業の動向(国内)
- 3.3 大阪IR区域整備計画の見通し
- 3.4 国や大阪府市のMICE戦略の動向
- 3.5 大阪府内における展示会等の開催件数
- 3.6 2058年を見据えた府内展示会等の開催件数見込み

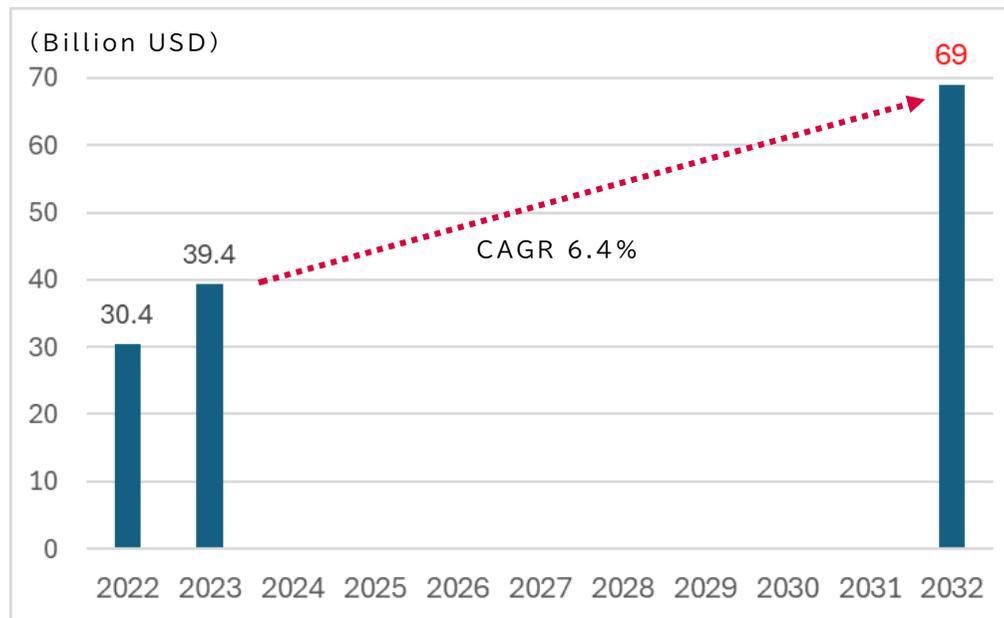
### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.1 近年の展示会産業の動向(海外)

### 1) 展示会市場規模の予測

- アメリカの民間調査会社によると、2023年の展示会市場規模は約39.4億米ドルで評価され、2032年には69億米ドルまで成長すると予測されている。(2023年から2032年では年平均成長率(CAGR)6.4%)
- 展示会産業は、出展企業がより効果的に国際市場に接続する事を支援する重要なプラットフォームとして機能し、イノベーション促進だけでなく業界全体の成長を牽引すると言及されている。
- また、世界的なトレンドとして、ハイブリッドイベントの普及に伴うAR・仮想ディスプレイ等の最先端技術の活用や、持続可能性への転換についても指摘されている。

展示会市場規模の予測(2024-2032年)



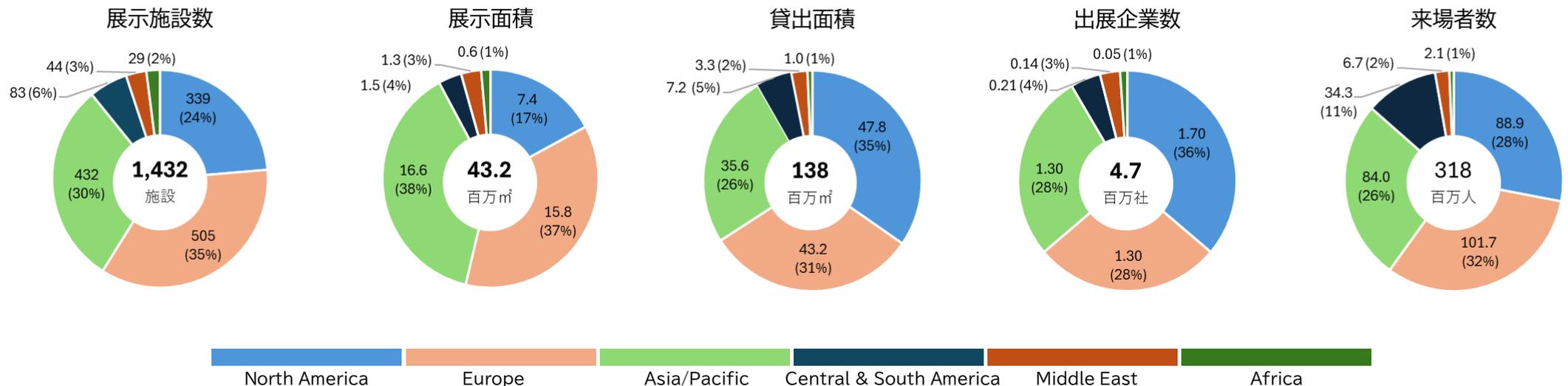
### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.1 近年の展示会産業の動向(海外)

### 2) 国際展示会市場における主要指標比較(2024年)

- 展示施設数は、全世界で1432施設となっており、そのうちAsia/Pacificが505施設(約35%)と最も多くなっている。
- 展示面積では、Europeが16.6百万㎡(38%)と最も大きく、1施設当りの面積規模が大きくなっている。
- 貸出面積では、North Americaが47.8百万㎡(35%)と最も大きく、同じく出展企業数でも1.7百万社(36%)と最も多くなっている。来場者数では、Asia/Pacificが101.7百万人(32%)と最も多い。

#### 国際展示会市場における主要指標(2024年)



出所) UFI"Global Exhibition Industry Statistics May 2025"  
 Venue data: UFI/jwc World Map of Exhibition Venues, January 2025  
 Exhibitions markets: UFI, May 2025 より当社作成

※ 調査対象施設は、総床面積5,000平方メートル以上の会場としている

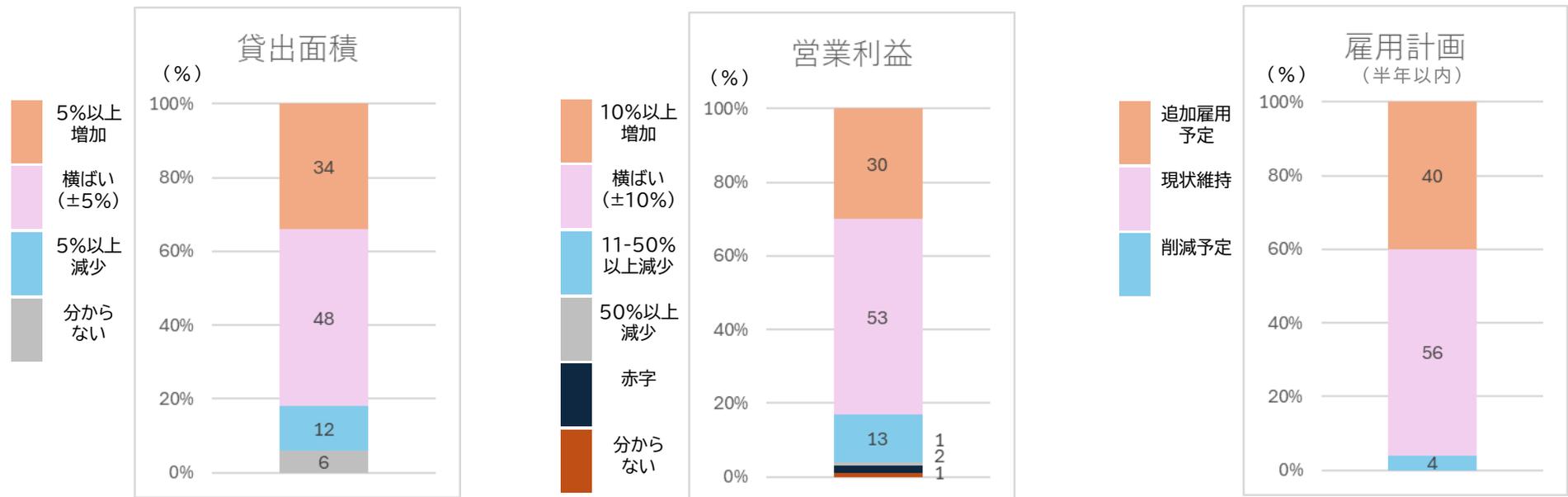
### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.1 近年の展示会産業の動向(海外)

### 3) 2025年の国際展示会市場における経営状況見込み

- 展示会関連企業※に対するアンケート調査によると、2025年(対前年比)の各経営指標は、貸出面積、営業利益ともに、8割以上の企業が増加又は横ばいの見込みである。また、雇用についても40%が追加雇用の予定となっている。
- 各国別の調査結果を参照すると、Asia/Pacificでは、各国・地域の企業による回答傾向が異なっている。インドとマレーシアでは、各経営指標が増加するとの回答が60-70%であるが、オーストラリアでは40%が横ばい見込み、中国とタイは40-50%程度が減少見込みと回答している。

各経営指標に関する2025年の見込み(前年比)



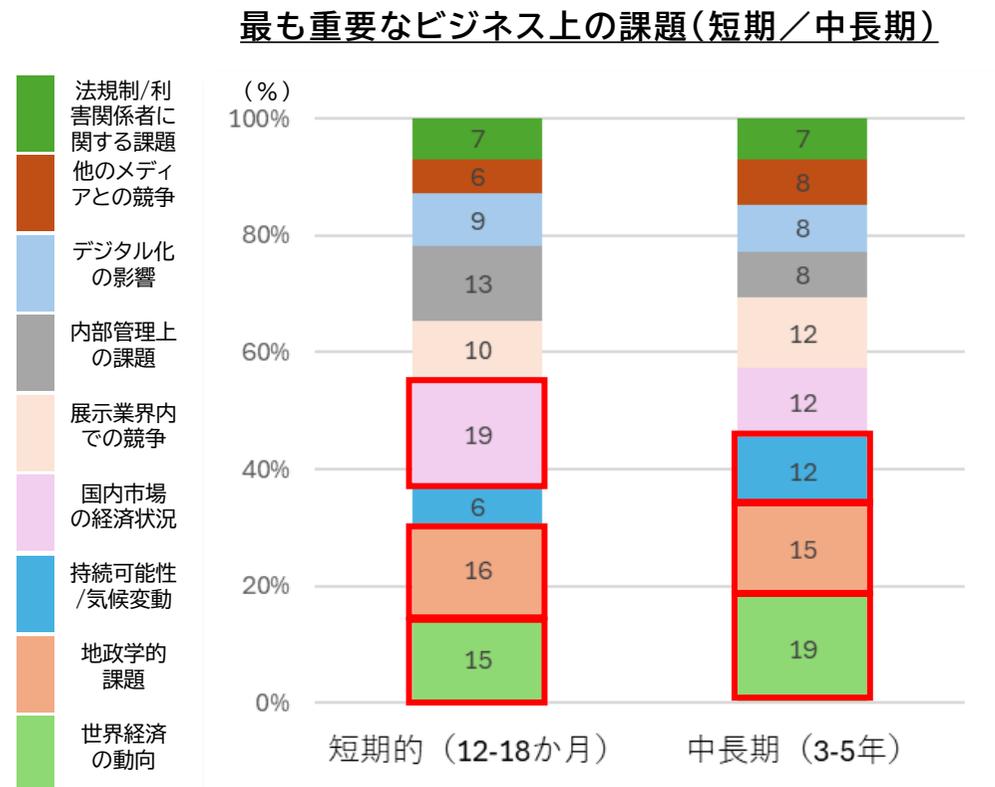
※ アンケート調査は、UFIが各国・地域の業界団体等と連携し、58カ国・地域、世界58カ国・地域の展示会関連企業(主催者、展示会場、関連サービス提供者・サプライヤー) 386社に対して実施したもの。日本に関しては日本展示会協会が協力しており国内4社が回答している。(個社名は非公開)

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.1 近年の展示会産業の動向(海外)

### 4) 最も重要なビジネス上の課題(短期/中長期)

- 短期的には、「国内市場の経済状況(19%)」が最も重要な課題となっており、次いで「地政学的課題(16%)」「世界経済の動向(15%)」となっている。
- 他方で、中長期的には、「世界経済の動向(19%)」が最も高く、次いで「地政学的課題(15%)」「持続可能性/気候変動(12%)」となっている。「持続可能性/気候変動」は、中長期的な重要課題として捉える企業の割合が高い。



※ アンケート調査は、UFIが各国・地域の業界団体等と連携し、58カ国・地域、世界58カ国・地域の展示会関連企業(主催者、展示会場、関連サービス提供者・サプライヤー)386社に対して実施したもの。日本に関しては日本展示会協会が協力しており国内4社が回答している。(個社名は非公開)

※ 1%未満は四捨五入しているため全て合計しても100%とならない。

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.1 近年の展示会産業の動向(海外)

### 5) 各地域の展示施設の整備状況推移(2011年～2024年)

- 世界全体では、過去13年間で施設数(20%)、展示面積(33%)と展示施設の整備が進んでいる。
- 地域別では、北米及び欧州が減少・横ばいとなる一方で、アジア・パシフィックでは、施設数(135%)、展示面積(152%)と急激に整備が進んでいる。

各地域の展示施設の整備状況推移(2011年～2024年)

地域	2011		2024		増加率	
	展示施設数	面積	展示施設数	面積	展示施設数	面積
	施設	百万㎡	施設	百万㎡	施設	百万㎡
World	1,197	32.6	1,432	43.2	20%	33%
North America	389	7.9	339	7.4	-13%	-6%
Europe	496	15.6	505	15.8	2%	1%
Asia/Pacific	184	6.6	432	16.6	135%	152%
Central & South America	70	1.3	83	1.5	19%	15%
Middle East	33	0.8	44	1.3	33%	63%
Africa	25	0.5	29	0.6	16%	20%

出所) 2024年: UFI/jwc World Map of Exhibition Venues, January 2025  
 2011年: UFI"THE 2011 WORLD MAP OF EXHIBITION VENUES"  
 より当社作成

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.1 近年の展示会産業の動向(海外)

### 5) 各地域の展示施設の整備状況推移(2011年～2024年)

- 施設規模別件数で見ると、大規模施設(10万㎡以上)が51%増加、中規模施設(2万～10万㎡)が30%増加、小規模施設(5千～2万㎡)が12%の増加となっており、大規模な展示施設の整備が進んでいる。

各地域の展示施設の整備状況推移(2011年～2024年)

地域	2011				2024				増加率			
	小規模	中規模	大規模	合計	小規模	中規模	大規模	合計	小規模	中規模	大規模	合計
World	752	390	55	1197	843	506	83	1432	12%	30%	51%	20%
North America	292	91	6	389	240	94	5	339	-18%	3%	-17%	-13%
Europe	304	156	36	496	314	152	39	505	3%	-3%	8%	2%
Asia/Pacific	74	98	12	184	190	204	38	432	157%	108%	217%	135%
Central & South America	48	22	0	70	60	23	0	83	25%	5%	-	19%
Middle East & Africa	34	23	1	58	39	33	1	73	15%	43%	0%	26%

出所) 2024年: UFI/jwc World Map of Exhibition Venues, January 2025  
 2011年: UFI"THE 2011 WORLD MAP OF EXHIBITION VENUES"  
 より当社作成

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.1 近年の展示会産業の動向(海外)

### 参考) 10万㎡以上の展示施設一覧(1/2)

- 全83件の大規模展示施設一覧は次のとおり。うち、全体の約4割となる33件が中国の展示施設となっている。
- 東京ビッグサイトは、規模別順位では56位となっている。

#### 世界の大規模展示施設(10万㎡以上)一覧

No.	Name of the venue	City	Country	Total sqm
1	China Import & Export Fair Complex (Pazhou Complex)	Guangzhou	China	504,000
2	National Exhibition and Convention Center	Shanghai	China	470,000
3	Shenzhen World Exhibition & Convention Centre	Shenzhen	China	400,000
4	National Convention and Exhibition Center	Tianjin	China	400,000
5	Messe Hannover (Deutsche Messe)	Hannover	Germany	392,453
6	Messe Frankfurt	Frankfurt/Main	Germany	372,073
7	Fiera Milano (Rho Pero)	Milano	Italy	345,000
8	Kunming Dianchi Convention & Exhibition Center	Kunming	China	300,000
9	Xiamen International Expo Center	Xiamen	China	300,000
10	Koelnmesse	Cologne	Germany	285,000
11	Messe Duesseldorf	Duesseldorf	Germany	262,727
12	Paris Nord Villepinte	Paris	France	250,000
13	McCormick Place	Chicago	United States	241,548
14	Las Vegas Convention Center	Las Vegas	United States	236,214
15	China Kitchen Capital International Convention and Exhibition Center	Binzhou	China	230,000
16	Feria Valencia	Valencia	Spain	223,090
17	Crocus Expo	Moscow	Russia	215,960
18	Porte de Versailles	Paris	France	212,545
19	Western China International Expo City	Chengdu	China	205,000
20	Fira de Barcelona - Gran Via	Barcelona	Spain	203,106
21	BolognaFiere	Bologna	Italy	200,000
22	Chongqing International Expo Center	Chongqing	China	200,000
23	Shanghai New International Expo Centre	Shanghai	China	200,000
24	Messe Muenchen	Muenchen	Germany	200,000
25	Feria de Madrid / IFEMA	Madrid	Spain	200,000
26	Orange County Convention Center	Orlando	United States	190,936
27	Expo Center City (Messe Berlin)	Berlin	Germany	190,000
28	The NEC	Birmingham	United Kingdom	186,000
29	Nuernberg Messe	Nuremberg	Germany	180,000
30	Xiamen International Conference & Exhibition Center	Xiamen	China	170,000
31	Investimenti S.p.A. / Fiera di Roma	Roma	Italy	167,000
32	Verona Fiere	Verona	Italy	155,000
33	Nanjing International Expo Center	Nanjing	China	150,000
34	Hongdao International Conference & Exhibition Center	Qingdao	China	150,000
35	Wuhan International Expo Center	Wuhan	China	150,000
36	Ptak Warsaw Expo	Warszawa	Poland	143,000
37	MCH Messe Schweiz / Messe Basel	Basel	Switzerland	141,000
38	Jinan Yellow River International Convention and Exhibition Center	Jinan	China	140,000
39	Jiangxi Nanchang Greenland Expo Center	Nanchang	China	140,000
40	EUREXPO	Lyon	France	139,019

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.1 近年の展示会産業の動向(海外)

### 参考) 10万㎡以上の展示施設一覧(2/2)

#### 世界の大規模展示施設(10万㎡以上)一覧

No.	Name of the venue	City	Country	Total sqm
41	IMPACT Arena, Exhibition and Convention Center	Bangkok	Thailand	137,000
42	Georgia World Congress Center	Atlanta	United States	135,678
43	Qingdao International Expo Center	Qingdao	China	134,000
44	GD Modern International Exhibition Center	Dongguan	China	130,000
45	Hefei Binhu International Convention and Exhibition Center	Hefei	China	130,000
46	Rimini Fiera - Italian Exhibition Group	Rimini	Italy	129,000
47	Yiwu International Expo Centre	Yiwu	China	126,400
48	Dubai International Convention & Exhibition Centre	Dubai	UAE	122,000
49	Fuzhou Strait International Conference & Exhibition Center	Fuzhou	China	120,000
50	Qingdao Cosmopolitan Exposition	Qingdao	China	120,000
51	Fiere di Parma	Parma	Italy	120,000
52	Tuyap Fair and Congress Center	Istanbul	Turkey	120,000
53	Messe Stuttgart	Stuttgart	Germany	119,800
54	Feria de Zaragoza	Zaragoza	Spain	118,391
55	Fira de Barcelona - Montjuic	Barcelona	Spain	118,011
56	Tokyo Big Sight (Tokyo International Exhibition Center)	Tokyo	Japan	116,540
57	Brussels EXPO	Brussels	Belgium	115,000
58	Xinjiang International Convention and Exhibition Center	Urumqi	China	115,000
59	Changsha International Convention and Exhibition Center	Changsha	China	114,000
60	Veletrhy	Brno	Czech Republic	112,207
61	RAI Amsterdam	Amsterdam	The Netherlands	112,200
62	Leipziger Messe	Leipzig	Germany	111,300
63	Chengdu New International Convention and Exhibition Centre (Century City)	Chengdu	China	110,000
64	Messe Essen	Essen	Germany	110,000
65	Bharat Mandapam Convention Center	New Delhi	India	110,000
66	Korea International Exhibition Center	Goyang	South Korea	108,011
67	Bilbao Exhibition Centre / BEC	Bilbao	Spain	108,000
68	New China International Exhibition Center - Chaoyang Hall	Beijing	China	106,800
69	ExCeL London	London	United Kingdom	106,122
70	Hainan International Convention and Exhibition Centre	Haikou	China	106,000
71	Palexpo Geneva	Geneva	Switzerland	106,000
72	Shenyang International Exhibition Center	Shenyang	China	105,600
73	Porto Antico di Genova	Genova	Italy	105,600
74	Shenzhen Convention & Exhibition Center	Shenzhen	China	105,000
75	Expocentre Fairgrounds	Moscow	Russia	105,000
76	Poznań International Fair	Poznań	Poland	104,139
77	Mandalay Bay Resort & Casino	Las Vegas	United States	102,255
78	Changchun International Conference & Exhibition Center	Changchun	China	100,000
79	Guangdong Tazhou International Convention and Exhibition Center	Foshan	China	100,000
80	Shangxi Xiaohu International Convention and Exhibition Center	Taiyuan	China	100,000
81	Airshow China Exhibition Center (China International Aviation & Aerospace Exhibition Center)	Zhuhai	China	100,000
82	Singapore Expo Convention and Exhibition Centre	Singapore	Singapore	100,000
83	Istanbul Expo Center (IFM)	Istanbul	Turkey	100,000

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

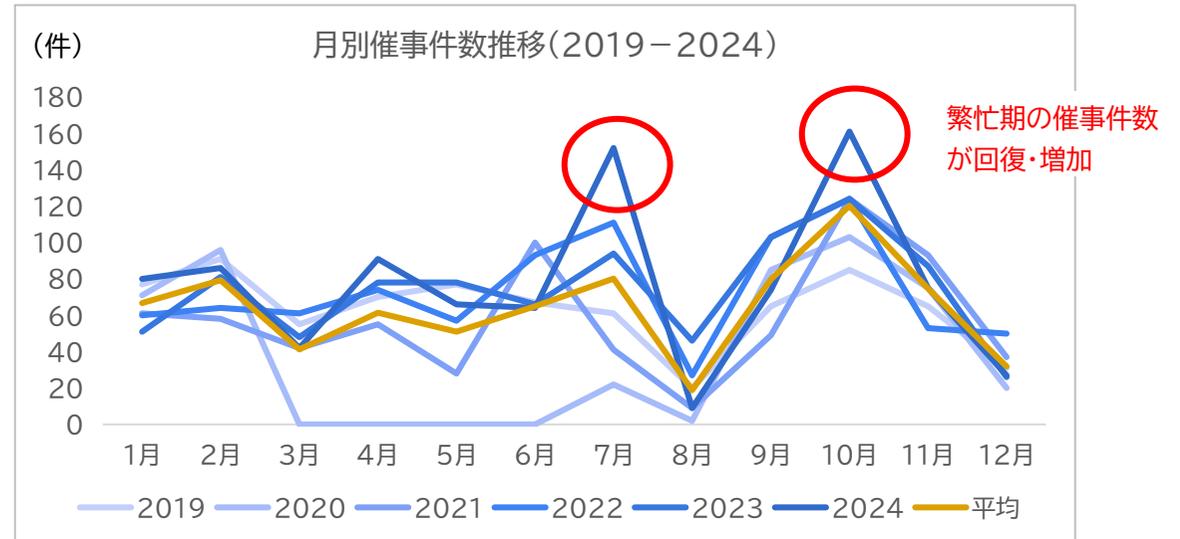
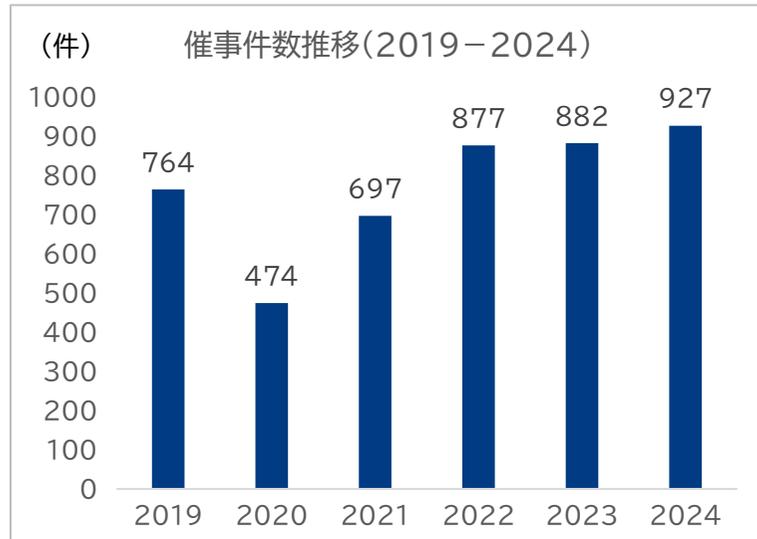
## 3.2 近年の展示会産業の動向(国内)

### 1) 催事件数はコロナ禍から回復、年間では繁忙期の件数がさらに増加する傾向

- 国内の展示会件数は2021年以降右肩上がり推移。
- 年間の繁忙差が大きく、2024年では従来の繁忙期に催事件数がさらに増加。展示会場のキャパシティが変わらない場合、今後の開催件数増加はストップすることが予想される。

図表 月別の催事件数推移(2019-2024)

年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2019	77	91	55	70	77	67	61	20	65	85	65	31	764
2020	71	96	0	0	0	0	22	2	85	103	75	20	474
2021	61	58	42	55	28	100	41	9	49	124	93	37	697
2022	60	64	61	74	57	93	111	27	103	124	53	50	877
2023	51	81	48	78	78	66	94	46	103	124	87	26	882
2024	80	86	42	91	66	64	152	9	74	161	75	27	927
平均	66.7	79.3	41.3	61.3	51.0	65.0	80.2	18.8	79.8	120.2	74.7	31.8	770.2



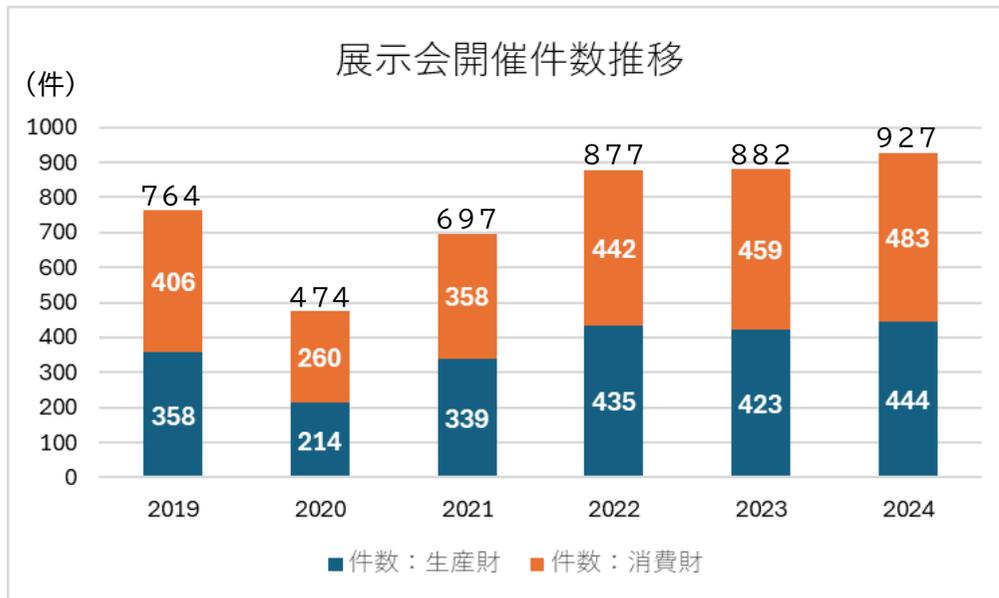
### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.2 近年の展示会産業の動向(国内)

### 2) 展示会開催件数はCAGR3.9%(2019-2024)で増加。地域別では関東で約7割が開催

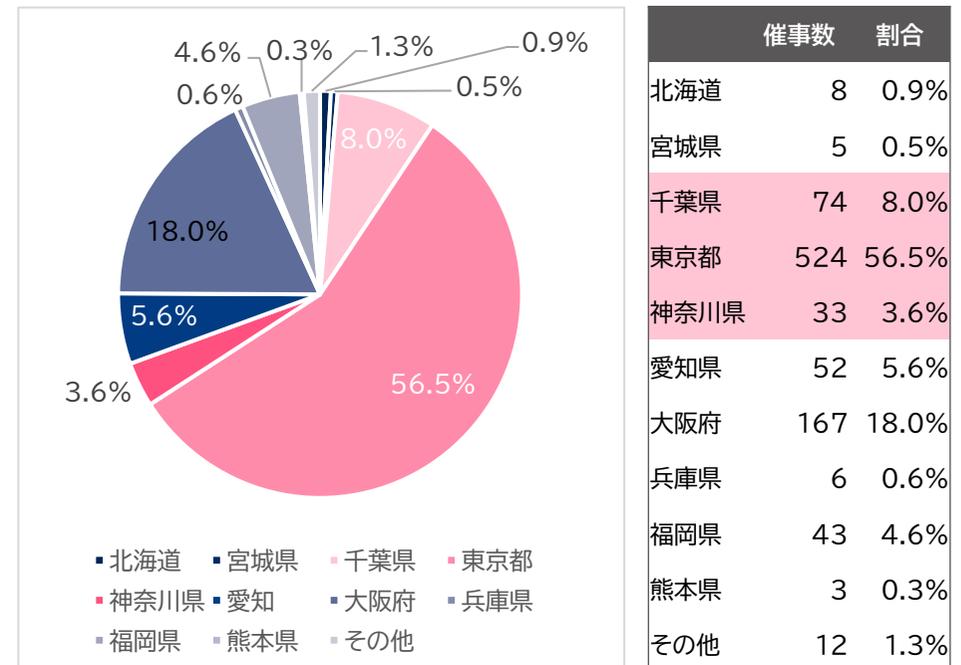
- 展示会開催件数は、CAGR3.9%の水準で増加。  
※2011年-2024年のCAGRでも3.8%
- 他方、開催件数の地域別内訳では、大阪府が全国2位となっているものの、東京都524件と千葉県(74件)、神奈川県(33件)を合わせた関東で全体の68.1%が開催されており、関東一局集中となっている。

図表 展示会開催件数推移(2019-2024)



項目	CAGR(%)
出展件数	3.9%
生産財	4.4%
消費財	3.5%

図表 開催件数の地域別内訳(2024年)

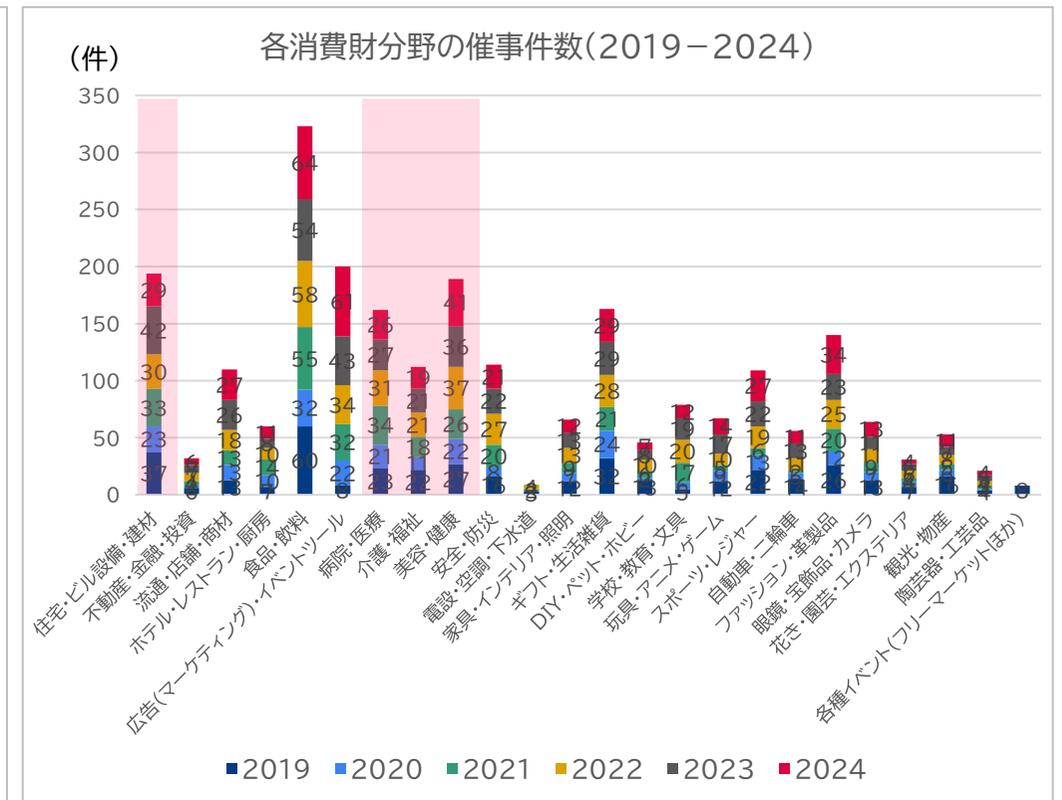
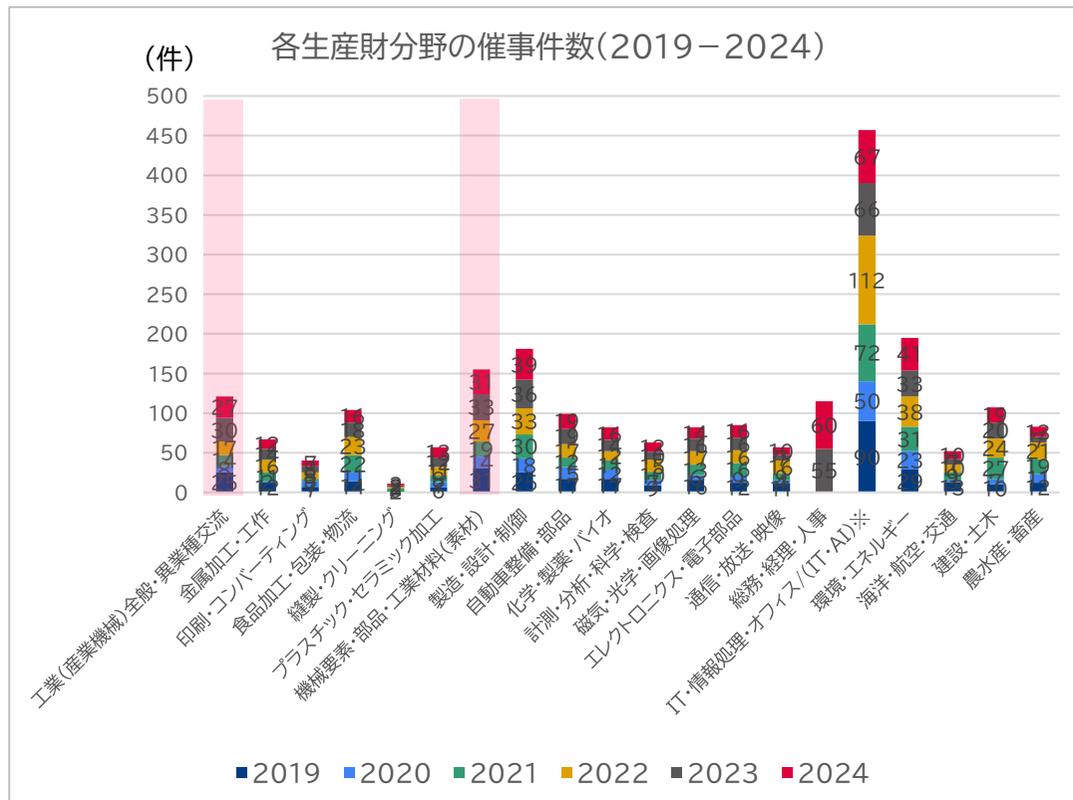


### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.2 近年の展示会産業の動向(国内)

### 3) コロナ禍前後で、分野の分布に大きな変化はないが、IT分野、食品・飲料分野、広告分野の件数が多い

- 生産財では、製造やIT分野の催事が多く、消費財では食品・飲料の催事が多い。
- 生産財分野において、インテックス大阪では産業機械分野が最も催事数が多いため、全国的に多いIT分野については、開催できていない理由や誘致可能性の検討が必要。
- 代表的なIT系展示会のCEATEC、デジタルサイネージジャパン(DSJ)等は幕張メッセや東京ビッグサイトで開催・関西未進出。Interop Tokyoは、過去に開催実績があるものの近年は関東のみで開催。



\*ピンク:インテックス大阪で開催の多い分野 \*2023年より「IT・情報処理・オフィス」は「総務・経理・人事」と「IT・AI」に分割  
出所)ピーオーピー「EventBiz」年間統計より当社作成

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

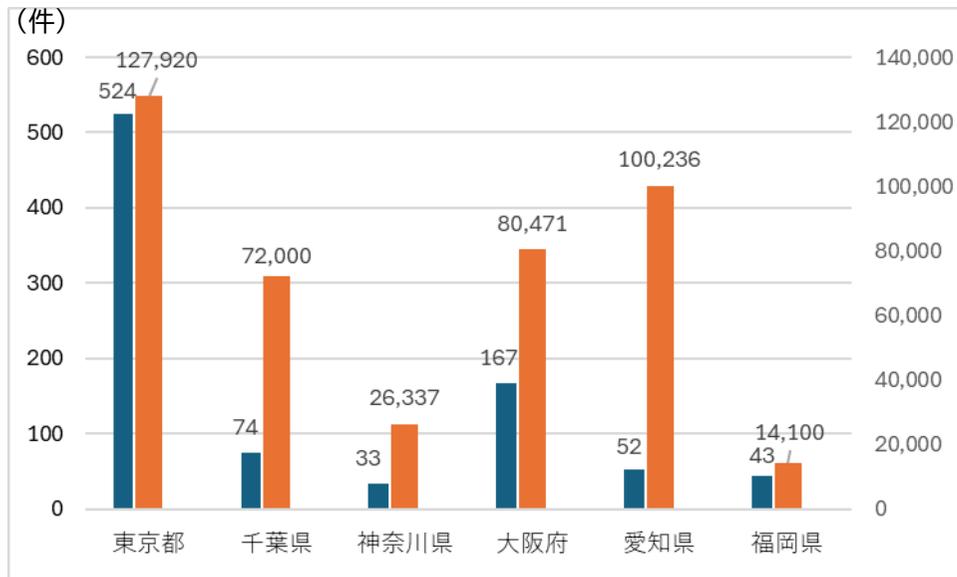
## 3.2 近年の展示会産業の動向(国内)

### 4) 大阪府は展示会開催件数は全国2位であるが展示会場面積では愛知県より小さい

- 大阪府は、都道府県別展示会開催件数では、東京都に次いで全国2位となっている。
- 他方、主要な展示会場面積で比較すると、大阪府(80,471㎡)は、愛知県(100,236㎡)よりも小さい状況。
- なお、ポートメッセなごや(愛知県名古屋市)では、現在2029年の引き渡しを目指して第2展示館改築事業を進めているところ、将来的な新第2展示館の東側への増築も見据えた計画としている。

出所)「名古屋市国際展示場第2展示館改築事業 要求水準書」

図表 各都府県の展示会開催件数・会場面積\*比較(2024年)



\*会場は、各都道府県の主な展示会場を比較(右図表参照)

図表 各都府県の主な展示会場面積(2024年)

都府県	合計面積	主な展示会場	展示面積
東京都	127,920	東京ビッグサイト	115,420
		サンシャインシティ	12,500
愛知県	100,236	ポートメッセなごや	40,236
		Aichi Sky Expo	60,000
大阪府	80,471	インテックス大阪	70,078
		ATCホール	5,550
		マイドーム大阪	4,843
千葉県	72,000	幕張メッセ	72,000
神奈川県	26,337	パシフィコ横浜	26,337
福岡県	14,100	マリンメッセ福岡	14,100

出所) ピーオーピー「EventBiz」年間統計及び各展示会場HPより当社作成

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.2 近年の展示会産業の動向(国内)

### 5) 主要な展示会の開催規模は拡大傾向にあり、1つの要因は複数展示会の同時開催

- 展示会規模は2019年と比較して拡大傾向
- 規模拡大の要因の1つとして、複数展示会の同時開催があげられる

主要な展示会の2019年と2024年の展示面積比較

展示会名	2019		2024	
	会場	展示面積	会場	展示面積
JIMTOF(日本国際工作機械見本市) ※隔年開催のため2018年データを使用	東京ビッグサイト	98,540㎡	東京ビッグサイト	118,540㎡
国際ロボット展	東京ビッグサイト	60,900㎡	東京ビッグサイト	77,660㎡
ビューティーワールドジャパン ウエスト	インテックス大阪	27,880㎡	インテックス大阪	39,696㎡
CEATEC	幕張メッセ	47,250㎡	幕張メッセ	54,000㎡ ※JAPAN MOBILITY SHOW BIZWEEK 2024と同時開催
Interop Tokyo	幕張メッセ	35,140㎡ ※AWS Summit と同時開催	幕張メッセ	35,775㎡ ※デジタルサイネージ ジャパン 2024 APPS JAPAN 2024 画像認識 AI Expo 2024 と同時開催

出所) 各展示会の開催実績より当社作成

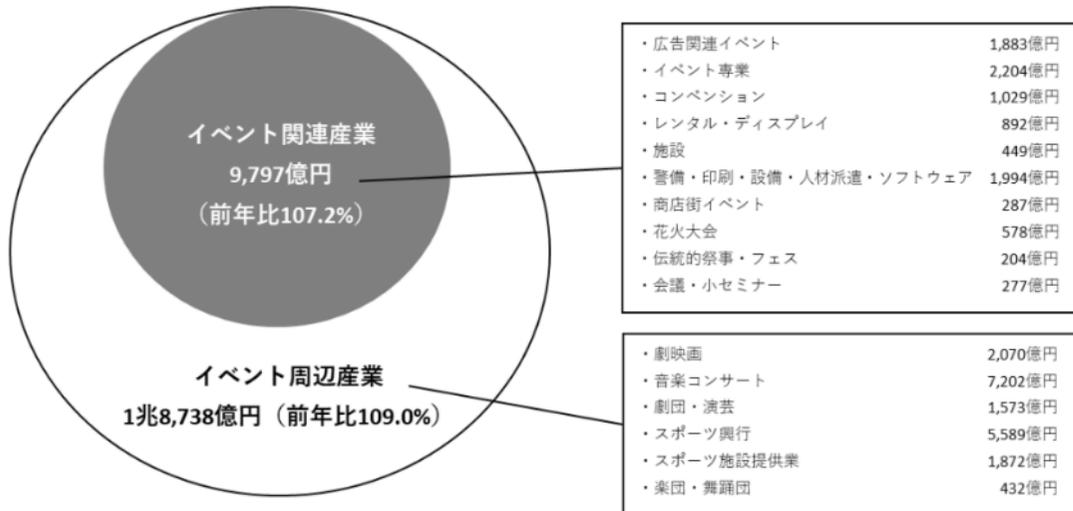
### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.2 近年の展示会産業の動向(国内)

### 6) 参考: イベント産業の動向

- 日本イベント産業振興協会によると、2024年のイベント周辺産業(劇映画・音楽コンサート・スポーツ興行等)の産業規模は**1.9兆円**とされている。
- 2019年から2024年の年平均成長率(CAGR)は、**イベント周辺産業全体で2.5%**、**音楽コンサートは8.9%**となっている。
  - インテックス大阪で開催される「その他」催事では「音楽コンサート」が最多となっている。

2024年イベント産業規模推計(総計) 2兆8,535億円(前年比108.3%)



イベント周辺産業の規模(億円)と年平均成長率(%)

産業	2019年(億円)	2024年(億円)	CAGR(%)
イベント周辺産業	16,545	18,738	2.5%
劇映画	2,612	2,070	-4.5%
音楽コンサート	4,712	7,202	8.9%
劇団・演芸	2,862	1,573	-11.3%
スポーツ興行	3,726	5,589	8.4%
スポーツ施設提供業	2,125	1,872	-2.5%
楽団・舞踊団	508	432	-3.2%

出所) 各日本イベント産業振興協会「2024年イベント産業規模推計」より当社作成

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.3 大阪IR区域整備計画の見通し

### 1) 大阪IRの概要

- 大阪IRは、2030年開業を目指して整備中。全8施設で構成される1つに展示等施設が含まれ、展示面積2万㎡が予定されている。なお、2045年に6万㎡、2058年までの事業期間中に10万㎡へと段階的拡張が予定。
- 大阪IRの意義に掲げた観光分野の基幹産業化に関連する目標として、世界水準のMICE拠点形成が位置づけ。

IR事業の名称	大阪・夢洲地区特定複合観光施設設置運営事業(大阪IR)	
IR施設の名称	MGM大阪	
土地賃貸借期間	35年間(2023~58年)	
IR施設の所在地	大阪府大阪市此花区夢洲中1丁目の一部	
土地概要	敷地面積	約49.2万㎡(敷地A及びB)
	都市計画区域/用途地域	市街化区域/商業地域
	建ぺい率/容積率	80%/400%
	防火地域	準防火地域

意義	<b>◆大阪の更なる成長に向けて</b> > 成長産業である観光分野の基幹産業化 > ポストコロナにおける観光需要の回復・反転攻勢に転じる取組み > 世界中から新たに人・モノ・投資を呼び込むIRの導入は不可欠
	<b>◆世界水準のオールインワンMICE拠点の形成</b> > 大阪・関西の経済成長を牽引するMICEの新たな誘致・開催 等 <b>◆国内外の集客力強化への貢献</b> > 大阪における訪日外国人旅行者数や旅行消費額の更なる増加 等 <b>◆日本観光のゲートウェイの形成</b> > 大阪IRへの来訪者を各地に送り出し、IR立地に伴う集客効果を各地に相乗的に波及

### IR構成施設の概要

施設種別	延床面積	施設構成・規模
国際会議場施設	約3.7万㎡	最大会議室 6,000人以上収容
展示等施設	約3.1万㎡	展示面積 2万㎡ 関西イノベーション・ラボ
魅力増進施設	約1.1万㎡	ガーデンシアター、関西ジャパンハウス 三道体験スタジオ、 ジャパン・フードパビリオン 関西アート&カルチャーミュージアム
送客施設	約1.3万㎡	関西ツーリズムセンター バスターミナル、フェリーターミナル
宿泊施設	約28.9万㎡	客室 約2,500室 レストラン、プール、フィットネス 大浴場、バンケット等
エンターテインメント施設	約1.3万㎡	夢洲シアター 約3,500席
飲食・物販・サービス等施設	約31.0万㎡	飲食施設、物販施設、駐車場、 エネルギーセンター等
カジノ施設	約6.5万㎡	※カジノ行為区画は総延床面積の3%以内
総延床面積	約77万㎡	—

### IR施設の位置図・ゾーニング計画



出所) 大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画より当社作成

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.3 大阪IR区域整備計画の見通し

### 2) 展示等施設の概要

- オールインワンMICE拠点として、国際会議場及び展示等施設が一体となった施設を構成
- 多様な展示会・見本市への対応と、国際水準の施設とするため、各機能が高水準であり付帯施設も多く設置
- 継続的なITインフラや空間設備の投資・修繕のため、国際会議場と併せて毎年約2億円の予算が確保される計画

#### IR-MICE施設における整備の考え方

- 国内展示会の大半が20,000㎡以下で開催され、展示会需要は、既存展示会の誘致よりも、地域の産業・経済の需要、動向等を踏まえて新たに創出、開催規模は地域の市場規模に応じて調整される特性を踏まえ、20,000㎡程度の展示場を整備
- 国内外の競合施設に対する競争力を確保する上では、国内には無い、国際会議場施設、宿泊施設、飲食・物販・サービス施設及びエンターテインメント施設等を併設したオールインワンのMICE拠点の強みを活かすとともに、**日本での開催実績のない展示会の受入れに向け、展示会オーガナイザーの信用力と主催者に対する施設利用料等を含めた柔軟な価格提案**といった施設運営に対する柔軟性を確保することが重要
- 展示会等の多様な催事開催と参加者の来訪インセンティブ向上により国際的な競争力を確保するため、オールインワンMICE拠点として付加価値の高いサービス提供(バンケット、ユニークベニュー、インセンティブツアー等)や、**MGMの豊富な実績・知見を含めたIR事業者ならではの運営**に取り組む

#### ② 展示等施設の機能

- 約1万㎡ごとに分割可能な可動間仕切りを設置し、分割又は一体利用を可能とする
- 1万㎡以上の無柱空間(部屋の内部に柱が無い空間)を確保
- 床耐荷重は、概ね2t/㎡以上を確保し、重量物展示や設営・搬出入作業の効率等を踏まえ設定
- 展示ホール床面(ビット部分を除く)はアンカーボルトの打設に対応
- 天井高は、概ね8m以上を確保、多様な演出や設営・搬出入作業を効率化
- 天井に吊物機構(約3～500kg/1か所)の吊荷重対応の吊物機構を格子状に設置
- 展示ホールごとに主催者用の専用事務スペースを配置(展示面積には算入しない)

主な機能・仕様	概要
可動間仕切り	展示ホール間に約1万㎡ごとに分割可能な可動間仕切りを設置
床下ビット	給排水・電源等を配備するための床下ビットを設置
アンカーボルト打設	アンカーボルトの打設に対応(ビット部分を除く)
天井吊物機構	1か所あたり300～500kg程度の吊り荷重に対応できる吊物機構を格子状に設置
主催者用事務スペース	展示ホールごとに専用の事務スペースを設置

#### ① 展示等施設の規模・種類

- 2ホール一体利用可能な展示面積2万㎡規模の施設構成

NO.	展示ホールの名称	床面積・仕様					
		床面積(計画値)	床面積(暫定計画値)	ホール間仕切り	アンカーボルト	床耐荷重(ビット部分除く)	高さ(梁下)
1	ホールA	約9,800～12,000㎡	9,884㎡	可動式	打設可能	2t/㎡以上	8m以上
2	ホールB	約10,000～12,000㎡	10,167㎡				
合計		約19,800～24,000㎡	20,051㎡				

#### ③ 附帯するその他施設の床面積

- MICE専用のキッチンを設置、バンケットサービスの利用が可能な機能を備える
- 搬出入車両の展示ホール内への進入、短時間での効率的な荷捌き作業、展示会開催日前後の夜間を活用した搬出入等に対応できる仕様
- 必要に応じて、夢洲・舞洲等のIR区域周辺エリアにおいて、搬出入車両の一時待機場所として活用できる提携駐車場や駐車スペースを確保(周辺道路への交通負荷軽減・搬出入の円滑化)
- 交流促進によるイノベーション創出等のためコワーキングスペース・ビジネスラウンジを整備

NO.	主な附帯施設	床面積(計画値)	床面積(暫定計画値)
1	ホワイエ(中廊下) ※国際会議場施設と共通	約14,100～19,500㎡	14,528㎡
2	厨房・倉庫等 ※国際会議場施設と共通	約5,000～8,000㎡	6,528㎡
3	コワーキングスペース・ビジネスラウンジ・主催者用事務スペース等	約700～1,520㎡	1,241㎡

#### ④ 設備投資の具体的な項目

- 国際観光拠点の維持、催事のバーチャル化等への対応も見据え、時勢に応じ最先端で高利便な設備・機能を備えるため、経常的な施設の修繕に加えて、設備更新を含む様々な再投資を実施する
- 例)施設空間や各種設備の修繕・更新等、内装、各種備品及びデジタルコンテンツ等の更新等

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.3 大阪IR区域整備計画の見通し

### 3) 大阪IRによる展示会・見本市の誘致・府内関連施設等との連携に関する考え方

- 大阪及び日本で開催実績のない海外展示会等の新規展示会開催に向けた取組みが想定されており、誘致促進にあたっては会場運営側(IR事業者)のリレーション活用や展示会オーガナイザー(PEO等)に対する共催提案も検討されている。
- また、インテックス大阪を含む府内関連施設との有機的な連携もされており、計画上是競合施設ではなく対象等の棲み分けをしつつ、市場を拡大する方向で整理されている。

図表 大阪IRによる展示会・見本市の誘致・府内関連施設等との連携に関する考え方

誘致方針・ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>大阪での開催実績が無い展示会・イベント</b>を積極的に誘致促進</li> <li>● 大阪・関西が強みを有する産業領域(ウェルネス、スポーツ、テクノロジー、環境、エネルギー、観光等)の展示会、主催者</li> <li>● <b>関心表明書を取得している展示会</b>、IR事業者が主催者と<b>既にリレーションを有する展示会</b>及び<b>大阪IRで新たに創出予定の展示会の誘致・開催</b></li> </ul>
誘致に向けた戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大阪での開催実績が無い展示会・イベントの誘致促進に向けた<b>柔軟な価格提案</b>を実施</li> <li>● 日本で開催実績のない展示会は、<b>展示会オーガナイザーに対して共催等を積極的に提案</b>し、誘致促進を図る</li> <li>● 大阪府・市、大阪観光局等とも連携し、集客に寄与する業界団体を紹介する等のサポートを行うことで、通常は開催のハードルが高い展示会の初回開催を積極的に推進</li> </ul>
府内施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開催日程の重複、展示会の規模、展示会の内容等に応じて、<b>国際見本市会場及び近隣にある中小の展示等施設に対する催事の紹介又は共催の提案等</b>を行い、<b>大阪での展示会開催機会の拡大</b>につなげる</li> <li>● 大阪IRが<b>アフターMICEのコンテンツ</b>として<b>エンターテインメント</b>を提供する等、幅広い連携を進めていく</li> </ul>

出所) 大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画より当社作成

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.3 大阪IR区域整備計画の見通し

### 4) 大阪IRによる展示会・見本市のIR開業後の開催件数見込み

- 展示会等の開催件数は、開業3年目で46件と想定されている。大阪及び日本で開催実績のない海外展示会等の新規展示会開催に向けた取組みが想定されており、誘致促進にあたっては会場運営側(IR事業者)のリレーション活用や展示会オーガナイザー(PEO等)に対する共催提案も検討されている。
- また、インテックス大阪を含む府内関連施設との有機的な連携もされており、計画上是競合施設ではなく対象等の棲み分けをしつつ、市場を拡大する方向で整理されている。

図表 大阪IRによる展示会・見本市の開催件数及び内訳の見込み(開業3年目まで)

展示施設	項目	現状 (2019実績)	開業1年	開業2年目	開業3年目
大阪IR	開催件数	—	13	43	46
	うち展示会*2	—	12	41	44
府内他施設*1	開催件数	170	170	170	170
	うち展示会*2	136	136	136	136

催事タイプ	開催回数 (回)	平均参加者 規模(人)	平均参加 日数(日)
一般展示会・イベント	30	7,500	2.0
ローカルイベント	14	10,000	1.3
eスポーツイベント	1	7,500	2.2
フードイベント	1	7,500	1.7
合計/平均	合計46	平均8,261	平均1.7

\*1 「府内他施設」の開催件数について、国際見本市会場における2019年度の催事開催件数が将来も継続すると想定して算出されている。なお、2019年度開催実績については、大阪国際経済振興センターが把握している数値とは異なる。(同一主催者・同一会期で開催される催事は合算して1件とカウント(大阪IR独自による算出のため、大阪国際経済振興センター提供の数値とは一致しない。))

\*2 ISO基準の「展示会」としており、具体的には一般展示会やイベント、ローカルイベントは展示会件数に含めているが、その他のIR誘致対象としているeスポーツ、フードイベントは対象外としている。

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.4 国や大阪府市のMICE戦略の動向

### 1) 観光庁『新時代のインバウンド拡大アクションプラン』（観光立国推進閣僚会議 R5.5決定）

- 観光庁では、これまでの「外国人観光客を呼び込む」という観点から更に視野を広げて、「**インバウンド需要をより大きく効果的に根付かせる**」方策を本アクションプランとして取りまとめ。
- 「I. ビジネス分野」では、**展示会・見本市への外国人参加者数をR7年にR1年比2割増加を目標**としている。

#### 新時代のインバウンド拡大アクションプラン 概要



【観光立国推進基本計画（第4次）の目標】 ①訪日外国人旅行消費額：早期5兆円達成／②訪日外国人旅行者数：2025年までに3200万人（2019年水準）超え

○これまでの「外国人観光客を呼び込む」という観点から更に視野を広げて、インバウンド需要をより大きく効果的に根付かせる方策を検討・取りまとめ

○以下3分野における約80の施策によって、国際的な人的交流を伴う取組の深化と掘り起しにより、インバウンドの着実な拡大を図る

#### I. ビジネス分野(40施策)

モノの流れだけでなくヒトの動きを促すことに注力し、日本を舞台とするビジネス交流の拡大を図りながら、国際的なビジネスネットワークの結節点として新たな価値の創造・発信と世界経済におけるプレゼンス向上を図る。

- 投資拡大の機会を捉えたビジネス交流の促進
  - ・ビジネス交流拡大にも資する国内投資の拡大や開発拠点の整備[1]
  - ・海外企業経営者層等の招へい・ビジネスマッチング拡大、国内外のスタートアップ・エコシステムのネットワーク強化等 [1]~[4]
- 国際金融センターの我が国における拠点化
- 外国人に対する粒子線治療等の医療の提供
- ビジネスマッチング等を通じた海外企業関係者等との交流拡大
  - ・世界的なVC等の招へいイベント開催[7]
- 国際会議、国際見本市等の積極的な開催・誘致
  - ・ジャパンモビリティショーや東京クリエイティブサロン等のグローバル化促進によるビジネス交流の拡大[15]
  - ・外資系企業や日本の大手企業等、グローバルに事業展開を行う企業会議の日本開催の促進 [16]
- 産業資源の活用による新たなビジネス交流需要の獲得
  - ・地域に眠るデザイン資源や、企業の倉庫に眠るアート等を発掘・可視化等を行い、ビジネスインバウンド客向けの延泊・地方送客のための新市場を創出[31]
- 人的交流の促進
  - ・国際的なリモートワーカー（デジタルノマド）呼び込みのためのビザ・在留資格などについて本年度中の制度化[36]
  - ・訪日プロモーションにおけるJNTO海外事務所と在外公館の連携強化[40]

- ✓ ビジネス目的での訪日外国人旅行消費額を2割増加（7,200億円（R1）⇒ 8,600億円（R7））
- ✓ 国際会議の開催件数（※教育・研究分野等で行われるものを含む）・アジアNo.1の開催国として不動の地位、世界5位以内（R12）
- ✓ 展示会・見本市への外国人参加者数を2割増加（139千人（R1）⇒ 167千人（R7））

#### II. 教育・研究分野(13施策)

大学等の研究力の強化、海外の研究拠点の呼び込み、国際学会の積極的な開催・誘致を図り、日本の大学や研究機関のレベルアップと国際頭脳循環の推進を図る。留学生の受入れ促進や教育の国際化により、教育分野の人的交流を促進する。

- グローバル・スタートアップ・キャンパス構想の推進
  - ・海外トップ大学等とも連携した、研究機能とインキュベーション機能を兼ね備えたグローバル拠点の創設[41]
- 世界トップレベルの研究人材の交流促進
  - ・10兆円規模の大学ファンドによる国際卓越研究大学への支援や、地域の中核大学・特定分野の強みを持つ大学の国際化の推進等により、2033年までに外国人留学生受入れ数40万人を実現 [47]~[49]
- 留学生等の積極的な受入れ
  - ・各国の学生の留学を巡る諸情報の収集・分析、リクルーティングや広報の強化、高校生の国際交流の促進、大学の国際化の推進等により、2033年までに外国人留学生受入れ数40万人を実現 [47]~[49]
- 国際学会の積極的な開催・誘致
  - ・国際卓越研究大学における国際学会開催数等の評価、海外のトップ研究者との国際共同研究の支援[50]
  - ・国際学会等の開催に向けた支援、関係者庁間の連携[51]
  - ・重要な学会等国際会議の主催者等への助成[53]

- ✓ 海外からの研究者の受入れ数を2割増加（13千人（R1）⇒ 16千人（R7））
- ✓ 科学技術・自然・医療・社会分野等に係る国際会議への外国人参加者数を2割増加（155千人（R1）⇒ 186千人（R7））

#### III. 文化芸術・スポーツ・自然分野(25施策)

文化芸術の国際発信強化とグローバル展開をビジネスの観点を取り入れつつ戦略的に進めるとともに、スポーツ産業の拡大に向けてビジネスの視点での施策を展開するほか、自然体験を楽しむ特色ある取組を全国各地で創出する。

- 海外向けコンテンツビジネスの育成・発展
  - ・個別の作品を超えて作家ごとの海外展開等を行う仲介者への支援や翻訳家の育成等によるコンテンツの海外展開支援[54]
  - ・官民連携によるトップアーティストの発掘、グローバルレベルでのキャリアを積み場への参加等の育成支援[56]
  - ・メディア芸術分野振興の中核となる国際拠点整備[57]
  - ・先進的なデジタル技術を活用したコンテンツ創出支援等による映像コンテンツ産業の海外展開推進・デジタル化[61]
  - ・海外に開かれた文化芸術拠点となる国際的なアートフェアの誘致等の拡大[62]
- スポーツコンテンツビジネスの国際展開・スポーツツーリズムの推進
  - ・バーチャル空間等の先端技術の活用によるスポーツ環境の向上、スポーツと他産業との連携による事業創出の推進[67]
  - ・プロスポーツ団体によるスポーツイベントを活用した観戦ツアー・競技体験・交流会等の特別なコンテンツの提供等[68]
  - ・海外の道場と繋ぐオンライン稽古やミニ武道体験等、武道等に着目したスポーツツーリズムを契機とした地方誘客の促進[69]
- ナイトタイム等におけるコンテンツの充実
  - ・美術館・博物館の早朝・夜間開館をはじめとした文化資源の活用、特別な体験の提供[71]
- 国際会議・国際見本市等の積極的な開催・誘致
  - ・世界遺産をはじめとする文化財の抜本的活用の促進[73]
- 少数限定の宿泊体験・体験型コンテンツの提供
  - ・民間提案による国立公園利用の魅力向上に向けた複数国立公園における具体的な事業構想の検討、先端モデル地域の決定[76]

- ✓ 世界のアート市場における我が国の売上額シェアを7位に引き上げ（ランク外（R1）⇒ 7位（R7））
- ✓ スポーツ目的の訪日外国人旅行者数を2割増加（229万人（R1）⇒ 270万人（R7））

本アクションプランのフォローアップを行い、進捗の点検と取組の一層の充実・強化を図る

出所) 観光庁HP  
([https://www.mlit.go.jp/kankocho/news03\\_000237.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/news03_000237.html))2025.9.9閲覧

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.4 国や大阪府市のMICE戦略の動向

### 2) 大阪MICE誘致戦略(R5.3決定)

- 大阪府及び大阪市共通の戦略として、令和5年3月に「大阪MICE誘致戦略」を策定。概ね10年後にめざす姿を『アジア・大洋州地域でトップクラスのMICE都市』とし、その実現に向けて、『取組みの方向性』『重点分野』『誘致のメインターゲット』『数値目標(KPI)』を設定。

#### 大阪MICE誘致戦略 ～アジア・大洋州地域でトップクラスのMICE都市をめざして～【概要版】

##### 【1】戦略策定にあたって

- MICE需要の本格的な回復を見据え、大阪がグローバルなMICE誘致競争に打ち勝つためには、大阪の持つ強みや優位性を活かし、積極的な誘致活動を進めていくことが不可欠。
- 大阪・関西万博の開催や統合型リゾート(IR)の立地をインパクトとし、今後の10年は世界水準のMICE都市を実現するチャンス。そのための取組指針として『大阪MICE誘致戦略』を策定し、大阪府、大阪市、大阪観光局、経済界等の連携強化のもと、“オール大阪による戦略的な取組み”を加速していく。

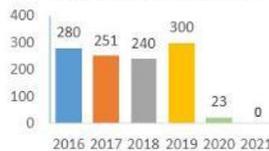
##### 【2】MICEを取り巻く環境の変化

- MICEの開催状況は、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年以降、国内外において中止や延期が相次いだ。2022年以降、各国の入国制限の緩和等により実地開催が増加。ICTを活用したオンラインと実地開催を融合したハイブリッド開催も定着した。
- 国内のMICE施設では、首都圏等において新たな施設設置や機能強化が進むほか、DMOによる助成等、様々なインセンティブを用意。国外では、韓国やシンガポール等アジア地域で10万㎡を超えるMICE施設が整備され、MICEの開催が増加するなど、グローバルな競争力を有するに至っている。

##### 【3】大阪の現状と課題

- 国際会議の件数は「G20大阪サミット」等が開かれた2019年に過去最高の開催件数(300件)となったものの、都道府県比較では5位にとどまった(東京都861件/1位)。2020年は、前年比で約9割減。以降、感染症の影響は続くが、オンライン開催が増加。2022年は、入国制限緩和等により実地開催も増加傾向にある。
- インテックス大阪や大阪府立国際会議場等、大阪市内を中心にMICE施設が立地している。統合型リゾート(IR)や万博記念公園に開業する大規模アリーナ等、競争力を有するMICE施設の整備が予定される。
- 大阪観光局や施設運営者等による助成等のインセンティブが用意されている。

【大阪の国際会議開催件数(100基準)】



MICEの誘致促進に向けて、大阪の持つ優位性を活かし、大阪が抱える課題を解決する取組みが不可欠

##### 活用すべき優位性

- 先進国一國並の経済規模、国内外からの交通アクセスが充実
- 優れたものづくりから最先端分野までの層の厚い産業と学術の集積
- 国際イベント等に対応できるMICE施設と豊富な開催実績(地域にぎわいづくり等)
- 大阪・関西万博の開催、統合型リゾート(IR)の開業等によるMICE需要の高まり
- 豊かな都市魅力(文化・観光・地域にぎわい)

##### 解決すべき課題

- MICE施設の機能強化(老朽化対応、大規模会議対応、ICT環境整備等)
- 誘致のための支援制度の充実
- 国内外に向けた情報発信・マーケティングの強化(都市プロモーション、国際的ネットワーク等)
- MICE専門人材の確保・育成
- MICE誘致・推進体制の強化

##### 【4】戦略の基本的な考え方と取組みの方向性

###### 【基本的な考え方】

- MICE開催地として大阪が世界から選択されるためには、万博や統合型リゾート(IR)の効果を活かし、付加価値の高い交流・体験の機会提供や大阪の都市魅力を活かした取組みなど、MICE主催者や国内外のユーザーを惹きつけるオンリーワンの取組みと情報発信が不可欠。こうした観点から、グローバルな競合都市に先んじて、国内外からのMICE誘致を進め、アジア・大洋州地域でトップクラスのMICE都市をめざす。

###### 【取組みの方向性】

- <方向性Ⅰ> 「大阪・関西万博」「統合型リゾート(IR)」のインパクトを最大限に活用する
- <方向性Ⅱ> 世界水準のMICE受入れ環境を整備する
- <方向性Ⅲ> 大阪の新たなまちづくり(コミュニティブランディング)をけん引する

###### 【重点分野と誘致ターゲット】

- MICEの誘致効果を最大化するため、→大阪が強みを有する5分野(「ライフサイエンス」「ものづくり」「環境・エネルギー」「国際金融都市」「スポーツ・食文化・エンターテインメント」)を重点分野として取り組む。→MICEのうち、経済波及効果が大きく、開催に伴う交流体験の機会や知的・人的ネットワークの創出、ビジネスチャンス等で特に期待される「C:国際会議」及び「E:展示会・イベント」を誘致ターゲットとする。

###### 【数値目標(KPI)】

- 取組期間の10年を2つのステージ[第1期(2023～27年度)、第2期(2028～32年度)]に分け、それぞれ数値目標(KPI)として、「国際会議ランキング」「経済波及効果」を設定する。



##### 【5】具体的な施策展開

- <施策①> MICE誘致・開催支援の強化
- <施策②> 情報発信・誘致プロモーションの強化
- <施策③> MICE施設の競争力強化
- <施策④> マーケティング・リサーチ機能の強化
- <施策⑤> 「エリアMICE」による受入れ環境整備、施設連携の強化
- <施策⑥> アフターMICEの充実
- <施策⑦> MICE人材の確保・育成
- <施策⑧> MICE効果の地域への波及、還元

##### 【6】オール大阪による推進体制の構築

- 大阪府、大阪市、大阪観光局、PCO/PEQ、ホテル・旅行団体、MICE施設、大学、経済団体等が参画する「オール大阪の推進体制」を構築
- MICE誘致の司令塔として本戦略を着実に実行するため、各主体の連携と役割に応じたMICE誘致活動を展開

出所) 大阪府HP  
([https://www.pref.osaka.lg.jp/o070070/toshimiryoku/osaka\\_mice\\_strategy/index.html](https://www.pref.osaka.lg.jp/o070070/toshimiryoku/osaka_mice_strategy/index.html))  
2025. 9. 9閲覧

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.5 大阪府内における展示会等の開催件数

### 1) 大阪府内の展示会開催件数に関する考え方

- 今後の大阪府内の展示会開催件数について、国内外展示会市場の成長見込み、府内展示会場の状況と考え方を踏まえて、2058年までの開催件数見込みを試算した。

図表 大阪府内の展示会開催件数に関する考え方

<p>展示会市場 成長見込み (国内外)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界全体の展示会市場は、今後もCAGR6.4%台での成長が見込まれる(大阪IRは海外展示会の誘致にも積極的)</li> <li>● 国内の展示会市場は、コロナ禍前後でCAGR3.9%で成長しており、2011年からの中期的期間でも3.8% ※参考指標ではあるが、経済産業省による『「2040年に向けたシナリオ」の定量化と2040年の就業構造推計について』では、RIETI産業構造推計モデルによる2040年に向けたGDP(名目)成長率は年率3.1%と見込んでいる 出所)「2040年に向けたシナリオ」の定量化と2040年の就業構造推計について(経済産業省) (<a href="https://www.mext.go.jp/content/20250618-mxt-sigakugy-000042937_08.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20250618-mxt-sigakugy-000042937_08.pdf</a>)2025.9.8閲覧</li> </ul>
<p>インテックス 大阪の状況 と考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大阪IRの誘致対象とする展示会・イベント等は、国内未開催の展示会などインテックス大阪とは異なる催事を想定</li> <li>● インテックス大阪については、2023年の面積稼働率は既に約50%(6号館除く)、日稼働率も約90%となっていることから、既に新規展示会の開催については余裕がない状況(新規開催の問合せも月数件程度断わっている)</li> </ul>
<p>開催件数 見込みの 試算シナリオ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● IR-MICEは、第1期(2万㎡)、第2期(6万㎡)、第3期(10万㎡)の各拡張段階では、最初の3年は第1期開業と同程度の増加率を見込み、その後は世界全体の市場成長率(年6.4%)で稼働率上限(70%)まで開催件数の増加を想定</li> <li>● インテックス大阪についても、稼働率向上に向けた経営努力と改修等による効果によって、全館稼働率が最大70%まで向上することを想定して試算</li> </ul>

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.6 2058年を見据えた府内展示会等の開催件数見込み

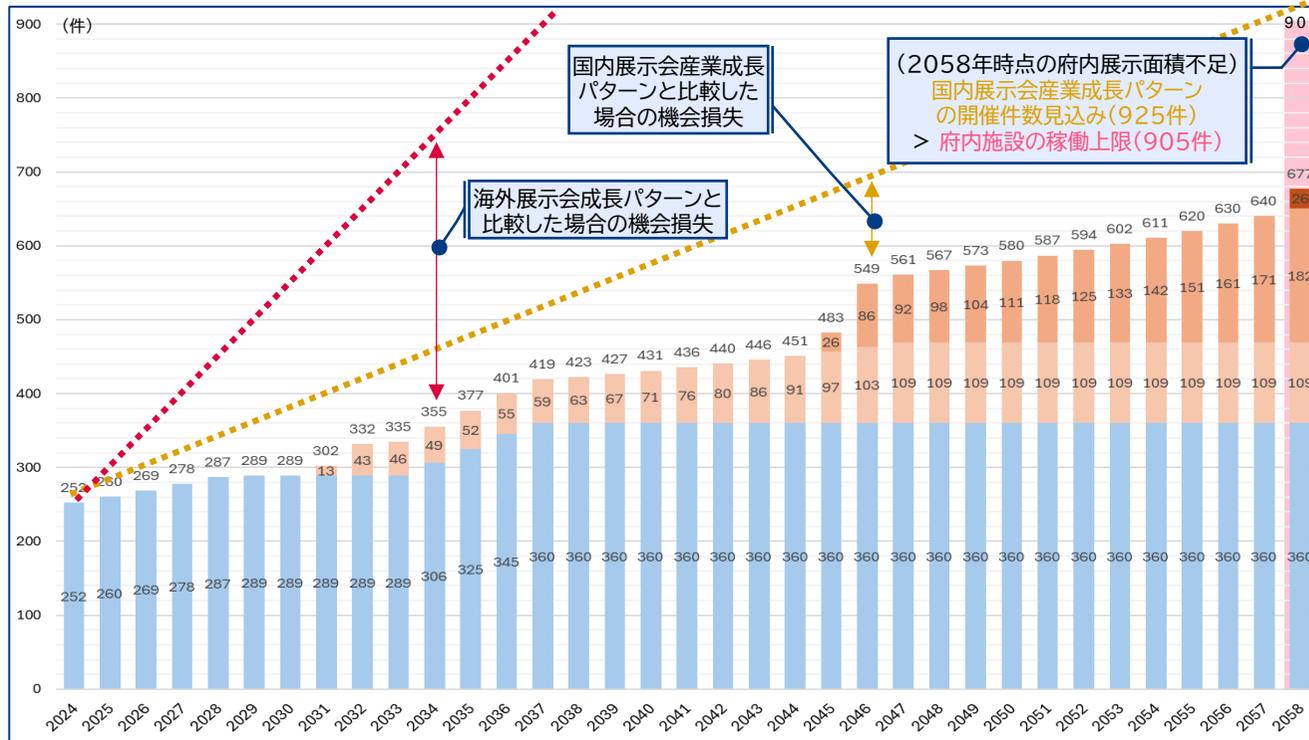
### 1) 2058年を見据えた府内展示会等の開催件数見込みの試算 【IR-MICEが2058年に10万㎡拡張の場合】

- 2058年の府内施設の稼働上限は905件／年と想定されるが、今後2058年までの府内展示会等の開催件数を試算したところ、国内展示会産業成長パターン(925件)、海外展示産業成長パターン(2,077件)で件数が増加した場合、供給が不足する見込みとなる。

▶ 試算上は、現在公表されている計画以外の展示面積拡張は想定はしていないため、既存施設の稼働率が開催件数の上限となる(供給制約)。このため、国内外の展示会産業成長率が今後も継続した場合の開催件数との差分を機会損失として示した。

図表 2058年を見据えた府内展示会等の開催件数見込みの試算結果

各シナリオの開催見込みと差分(機会損失)



- 本開催件数の見込みについては、国内展示会市場の成長率と、各施設の稼働率を考慮して算出しているため、海外・国内の成長が今後も継続すると考えた場合には、それぞれの差分が供給制約による機会損失となる。

#### 【各シナリオの開催件数見込みと差分(機会損失)】

- 府内施設の稼働上限(2058年):905件
- 国内展示会産業成長率に基づく開催件数見込み : 925件(△ 20件)
- 海外展示会産業成長率に基づく開催件数見込み : 2,077件(△1,172件)

- 国内展示会産業成長パターン(年3.9%成長)
- 海外展示会産業成長パターン(年6.4%成長)

- インテックス大阪
- IR-MICE 1期開業
- IR-MICE 2期開業
- IR-MICE 3期開業

出所) 各資料に基づき当社試算

### 3. 今後25年間の府内展示会等の開催件数見込みの算出

## 3.6 2058年を見据えた府内展示会等の開催件数見込み

### 2) 2058年を見据えた府内展示会等の開催件数見込みの試算結果

#### 参考 | 試算の前提条件等

##### 【インテックス大阪】

- 稼働率上限の設定 70%  
※第2回 特定複合観光施設区域整備推進会議(H29.5.10)経済産業省資料において展示場稼働率は7割程度が上限と記載  
※例として、週5日貸出した場合、残2日の日程では催事開催が困難であることや、催事入替対応(清掃等)、年間の法定点検日等もあり稼働率100%は実態として不可能
- 稼働率向上に向けた取組 将来的な稼働率最大70%に向けて、運営上の努力と施設改修等による効果を見込む  
※運営上の努力(空いている展示館の活用など利用効率の最大化等)や、施設改修等の効果(一体利用・分割利用等による柔軟性や、改修等と一体となった動線見直し等による開催件数増加)を想定

##### 【IR-MICE】

- 稼働率(2万㎡)・開催件数 年間 109件程度が上限と想定(2ホール・稼働率70%)  
① 1ホール稼働率100%(年) =  $365日 \div 4日(催事1件当り貸出日数) = 91.25件 \times 2ホール = 182.5件/年$   
② 全体の15%は2ホール一体利用催事と想定し、最大開催件数は155.1件/年  
③ 年間最大開催件数(稼働率70%想定) =  $155.1件 \times 0.7 \div 109件/年$  ※2058年10万㎡時点の年間最大開催件数 109件(2万㎡)  $\times 5 = 545件$   
※ 催事1件当り貸出日数4日の根拠 : 区域整備計画によるIR-MICE参加者数平均滞在日数想定が1.7日であることから、催事準備前後1日ずつ+催事2日(1泊想定)として4日と想定した。なお、インテックス大阪の貸出実績(中規模展示会)でも1件当りの貸出日数は平均4日程度となっている
- 開業4年目以降の増加率 IR区域整備計画では、開業3年目までしか開催件数は示されていないため、大阪IRが海外の展示会誘致等をターゲットとしていることを踏まえて、国際的な展示会市場の成長予測約6.4%と同水準で4年目以降開催件数が増加する事と想定した  
※しかし、上述のとおり、稼働率7割での開催件数(2万㎡の場合年間109件)を最大値とする
- 第2期・3期の拡張期 拡張後3年目までは第1期の増加率を採用、その後についても第1期と同じく6.4%かつ稼働率70%上限を想定

出所)各資料より当社作成

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

---

- 4.1 比較対象都市の選定
- 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況
- 4.3 IR-MICEの展示施設と公設展示施設の違い

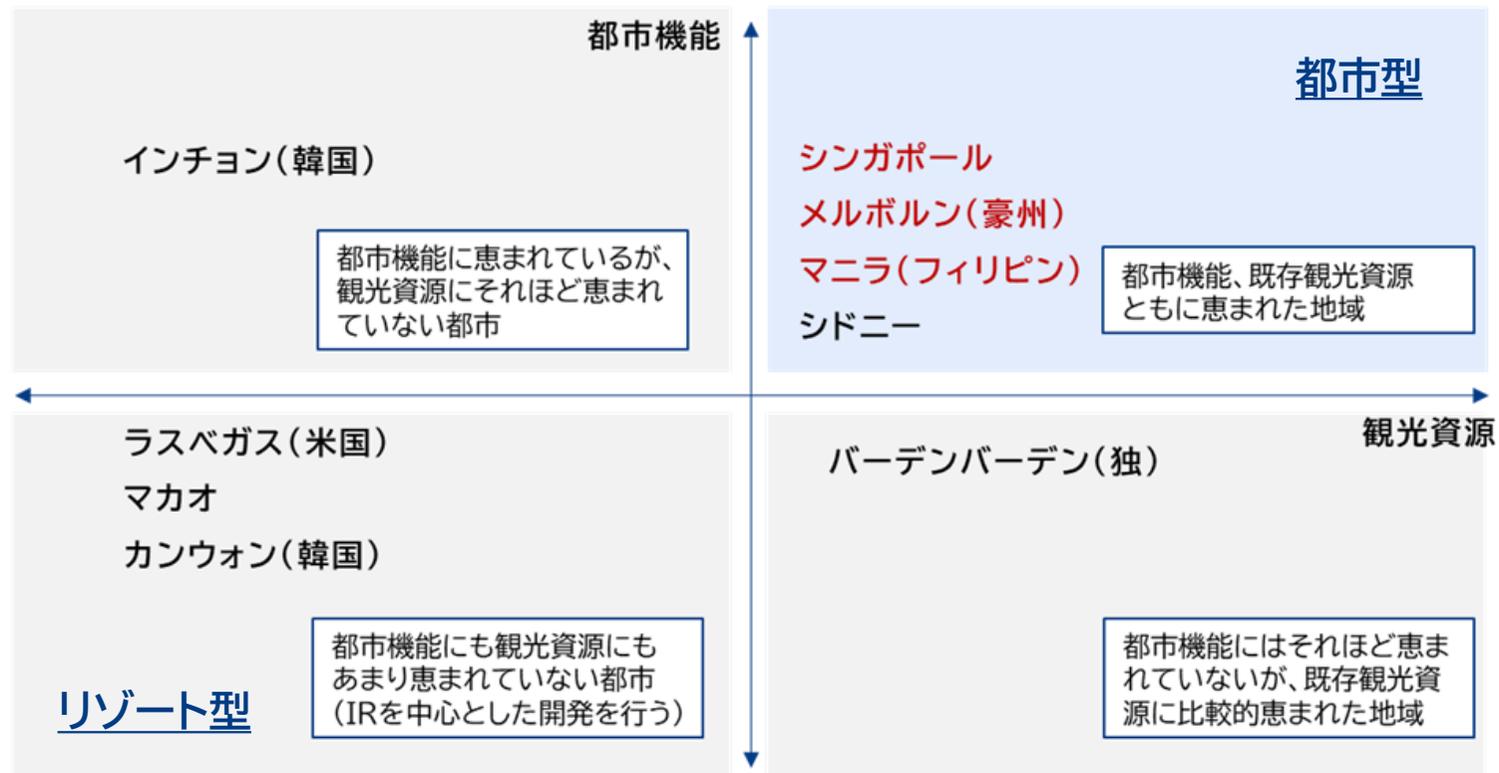
## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

### 4.1 比較対象都市の選定

#### 1) 都市機能と立地の面で大阪市と類似する特徴を持つ3都市を比較対象として選定

- 都市機能と観光資源等の立地の特徴から海外IR都市をリゾート型と都市型に整理。(図)
- 大阪市を都市型MICEの1つに位置付け、マニラ(フィリピン)、シンガポール、メルボルン(オーストラリア)を比較対象都市に選定

図表 海外事例の分類



## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

## 4.1 比較対象都市の選定

## 2)比較対象都市は、域内総生産に大きな差がなく、卸売・小売業やサービス業が主という点でも類似

都市名(国)	大阪市	シンガポール	マニラ圏 (フィリピン)	メルボルン圏 (オーストラリア)	
都市の概況	人口	279.5万人(2025年3月)	610万人(2025年6月)	1,400万人(2024年7月)	535万人(2024年6月) ※メルボルン圏
	面積	225.3km <sup>2</sup>	736.3km <sup>2</sup>	636km <sup>2</sup>	40km <sup>2</sup>
	域内総生産	19.4兆円(2021年・実質)	731.4億US\$ (2024年・実質) 【約113兆円】	9,878.8億ペソ(2023年・実質) 【約25兆9,970億円】	約1,140億豪ドル\$ (2024年・実質) 【約117兆円】
	主産業	医療・医薬、化学等の製造業 卸売・小売業	金融・保険、卸売・小売業、観光業などの サービス業	金融、BPO(カスタマーサポート、コールセ ンター)、小売業などのサービス業	金融保険、教育、医療社会サービス業
IR及びMICE施設の概況	IR関連法	特定複合観光施設区域の整備の推進に 関する法律	Casino Control Act 2006	PAGCORによる規制(大統領令 第 1067-A、1977年)	Casino Control Act 1991(ビクト リア州の法)
	IR施設(開業 年)	大阪IR(2030)	a.Marina Bay Sands(2010) b.Resorts World Sentosa(2010)	a. Solaire Resort & Casino (2014) b. City of Dreams Manila (2014) c. Okada Manila(2017) d. Resort World Manila(2009)	Crown Melbourne(1997)
	運営者	大阪IR株式会社	a.Las Vegas Sands/b.Genting Singapore	a. Bloomberry Resorts Co. b. Melco Resorts and Entertainment Co. c. Tiger Resort, Leisure and Entertainment, INC d. Travellers International Hotel Group	Crown Resorts Limited(クラウン・ リゾート社)
	公設展示施設	国際見本市会場	Singapore Expo(1999)	World Trade Center Metro Manila	MELBOURNE CONVENTION AND EXHIBITION CENTRE (MCEC)
	運営者	大阪国際経済振興センター	Constellar Venues Pte Ltd.	World Trade Center Management, Inc.	Melbourne Convention and Exhibition Trust(州政府直轄の公設 トラスト、MCET)
	事業手法	定期建物賃貸借(5年)	政府所有/管理運営民間(10年)	所有:Manila Exposition Complex, Inc.(政府系投資機関NDC が36%株式保有)/管理運営委託	所有・運営ともにMCETが担う
備考等		2012年の拡張により施設に新しいコン ベンション棟マックス・アトリアが追加	隣接するPasay Harbor Cityに26万m <sup>2</sup> のMICE施設建設中		

出所) 各都市の情報から当社作成

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

## 1) シンガポール

### ①都市概要

- ・人口:603.7万人(2024年央値)
- ・面積:735.7km<sup>2</sup>(2024.1.1)
- ・域内総生産:84,734US

### ②産業集積・戦略の特徴

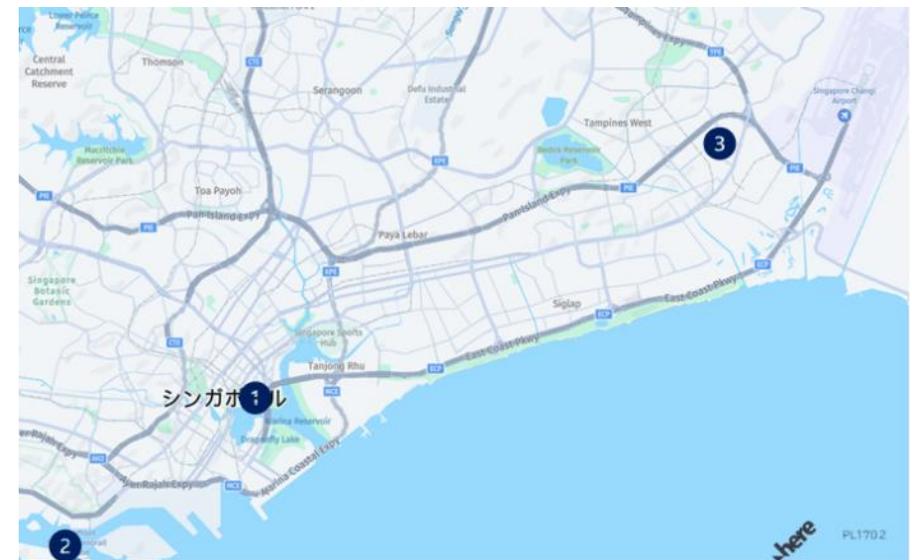
・主要産業:  
金融・保険、卸売・小売業、観光業などのサービス業

・今後の産業戦略:

- Industry Transformation Maps(ITM)を軸にして、先端製造・ヘルス/バイオ・デジタル/AI・金融/グリーンなど成長領域へ資本・人材・規制整備を集中。※1
- RIE2025(Research, Innovation & Enterprise 2025)で国家R&D資金の重点配分(デジタル、製造、ヘルス、都市ソリューション/サステナビリティ等)。産学官連携の商用化を加速。※2
- Singapore Green Plan 2030に沿い、カーボン削減・グリーン金融・循環経済を横串に公共調達・都市計画・税制/価格シグナルで民間投資を後押し。※3

### ③主なMICE施設

No	施設名	運営事業者	
1	マリーナベイサンズ(IR)	民間	Las Vegas Sands
2	Resorts World Sentosa(IR)	民間	Genting Singapore
3	Singapore EXPO	政府系子会社×民間	Constellar Venues Pte Ltd.



出所) ※1:シンガポール政府,「Industry Transformation Maps (ITMs)」, <https://www.mti.gov.sg/FutureEconomy/Industry-Transformation-Maps>(2025年9月8日閲覧)  
 ※2:シンガポール政府,「Research, Innovation and Enterprise 2025 Plan」, <https://www.nrf.gov.sg/rie-ecosystem/rie2025handbook/>,(2025年9月8日閲覧)  
 ※3:シンガポール政府,「Singapore Green Plan 2030」, <https://www.greenplan.gov.sg/overview/>(2025年9月8日閲覧)

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

## 1) シンガポール

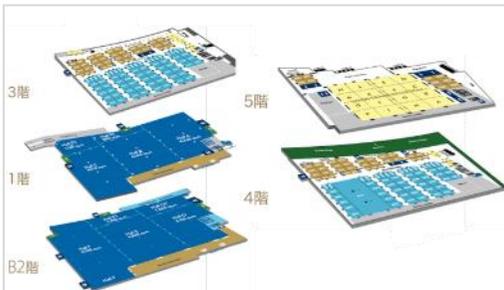
図表 主なMICE施設の施設概要

施設名	会議場施設規模	展示場施設規模	施設機能							
			会議施設	展示施設	ラウンジ	屋外イベントスペース	宿泊施設	飲食施設	駐車場	その他
マリーナバイサンズ (SANDS EXPO AND CONVENTION CENTRE)(IR)	90,000㎡	31,750㎡	○	○	○	○	○	○	○	アートサイエンス・ミュージアム、シアター、クラブほか
SingaporeEXPO	12,000㎡	123,000㎡	○	○	△	○	△	○	○	バドミントンホール、インドアラケットスポーツ、EX充電ハブ、フードトラック

※宿泊施設については、同じ建物内にある場合のみ○。別棟や近隣にある場合は△。

### SANDS EXPO AND CONVENTION CENTRE

#### 施設構成図



#### 主な催事

- Asia TV Forum
- Black Hat Asia
- Geo Connect Asia
- ITB Asia
- Medical Fair Asia, Medical Manufacturing Asia
- Milipol Asia
- Singapore Comic Con

出所) マリーナバイ・サンズ「ユニークな会場が揃った統合施設」(2025年9月5日閲覧)  
マリーナバイ・サンズ「FactSheet Sands Expo & Convention Centre 2024年8月」(2025年9月8日閲覧)

### 各施設の整備経緯

1999年:SingaporeEXPOが開業。その後2000年代初頭にホール数を10に拡張。

2010年:IRが開業。大規模国際会議の主要開催地となり、観光収入・来訪者数ともに大幅増加(観光収入49%増、来訪者20%増)

2010年代:MICE需要の増加に伴い、SingaporeEXPOでは会議室、VIPラウンジ、付帯施設を大幅リニューアル。IRは大きな改修なし。

2019年:SingaporeEXPOの会議・展示複合利用を強化。飲食・デジタル設備更新も実施。

2023年:コロナ後から急速に催事件数が回復。IRで年間1000件、SingaporeEXPOで年間600件規模まで回復。両者サステナビリティへの取組を進めている。

### SingaporeEXPO

#### 施設構成図



#### 主な催事

- Food & Hotel Asia
- Asia Tech x Singapore
- Singapore International Water Week(サンズと連携して開催)
- ITAP (Industrial Transformation Asia-Pacific)

出所) SingaporeEXPO「Getting Here MAP」,  
<https://www.singaporeexpo.com.sg/contact/getting-here>(2025年9月5日閲覧)

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

## 1) シンガポール

### IR-MICE施設と公設MICE施設の連携・競合の状況

- IR内MICE施設は、国際的な企業イベント、インセンティブ旅行、ハイエンド会議・展示会などを誘致し、カジノやホテル、エンタメと連携して「滞在型MICE」の需要を創出。
- 公設MICE施設は、産業系展示会や学術会議、政府系イベントなど、より公共性・専門性の高いMICEを担う。
- IR開業後も公設MICE施設の開催件数が減少することはなく、むしろ全体のMICE需要拡大により**共存・補完関係が強化**。

### 今後のMICE施設整備の動向

- シンガポール政府観光局は、2040年までの観光ロードマップ「Tourism 2040」で**MICEによる観光収入を3倍にする目標を設定**。
- 2025年半ばに、マリーナベイ・サンズは**拡張工事に着工し、2029年には15,000席のエンターテインメントアリーナ、追加のMICEスペース、ホテルタワー、屋上アトラクション等の開発を予定**。
- **都心部に新しいMICE施設を整備**予定であり、民間デベロッパーや施設の運営事業者と詳細を話し合っている段階。
- 積極的にMICEの誘致にも取り組み、「LSI Asia 2025」、「International Insurance Culture Festival (ICMF)」、「World Sleep Congress 2025」、「Passenger Terminal Expo Asia 2026」、「Sibos2027」などの5000人～7000人規模の催事の開催を控える。



出所)マリーナベイ・サンズの公表画像をもとに当社作成

出所)JETRO地域・分析レポート「国際連携を通じてハブ競争力強化 シンガポールのMICE都市戦略(2)」, <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2025/617da3932dc6d9b3.html>, (2025年9月9日閲覧)  
 Singapore Tourism Board「Speech by Ms Grace Fu, Minister for Sustainability and the Environment and Minister-in-charge of Trade Relations, at TIC 2025(2025年4月)」, <https://www.stb.gov.sg/about-stb/media-publications/speeches/speech-by-ms-grace-fu--minister-for-sustainability-and-the-environment-and-minister-in-charge-of-trade-relations--at-tic-2025>(2025年9月9日閲覧)  
 画像: マリーナベイ・サンズ, プレスリリース「素晴らしい成果と拡大計画で新たな地平を切り開く」(2025年9月9日閲覧)

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

## 2) マニラ圏

### ①都市概要

- ・人口:190.3万人(2024.7.1)
- ・面積:42.3km<sup>2</sup>
- ・域内総生産:9.94兆ペソ(2023年)

### ②産業集積・戦略の特徴

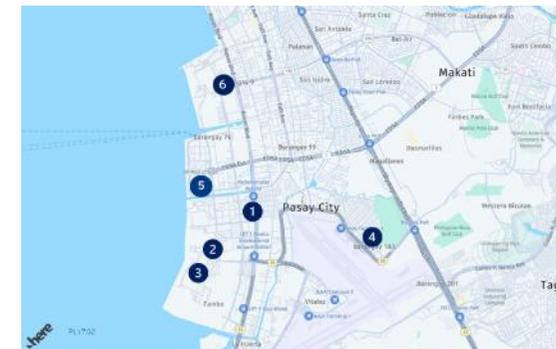
・主要産業:  
金融、BPO(カスタマーサポート、コールセンター)、  
小売業などのサービス業

・今後の産業戦略(フィリピン国家全体):

- 包摂的かつ持続可能な成長をめざし、**産業競争力強化・雇用創出・地方分散型開発**を重点に据える。※1
- フィリピン開発計画(PDP 2023-2028)では、**ICT/BPO、製造、農産加工、観光(含MICE)、クリエイティブ、グリーン経済**を重点成長分野に設定。マニラはBPO・ITサービスが最大の産業。※1
- 産業戦略(Inclusive Innovation Industrial Strategy)においても、**製造業振興とイノベーション加速**を狙い、**重点分野(エレクトロニクス、自動車、航空機部品、化学、食品加工等)**を特定。※2

### ③主なMICE施設

No	施設名	運営事業者	
1	City of Dreams Manila(IR)	民間	Melco Resorts and Entertainment Co.
2	Solaire Resort & Casino(IR)	民間	Bloomberry Resorts Co.
3	Okada Manila(IR)	民間	Tiger Resort, Leisure and Entertainment, INC
4	Resort World Manila(IR)	民間	Travellers International Hotel Group
5	SMX Convention Center Manila	民間	SMX Convention Specialist Corp.
6	WorldTrade Center Metro Manila	公的背景をもつ財団法人	World Trade Center Management, Inc.



出所) ※1:フィリピン政府,「Philippine Development Plan2023-2028」, <https://pdp.depdev.gov.ph/philippine-development-plan-2023-2028/>, (2025年9月8日)

※2:フィリピン政府,「Inclusive Innovation Industrial Strategy (i3S)」, <https://industry.gov.ph/dti-policy-briefs/>, (2025年9月8日閲覧)

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

## 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

## 2) マニラ圏

図表 主なMICE施設の施設概要

施設名	会議場施設規模	展示場施設規模	施設機能							
			会議施設	展示施設	ラウンジ	屋外イベントスペース	宿泊施設	飲食施設	駐車場	その他
SMX Convention Center Manila	8,350㎡	9,130㎡	○	○	—	—	△	○	○	—
World Trade Center Metro Manila	465㎡	11,300㎡	○	○	○	○	△	○	○	—

※宿泊施設については、同じ建物内にある場合のみ○。別棟や近隣にある場合は△。

## SMX Convention Center Manila

## 施設構成図



※フロア図は非公開  
出所)SMX Convention Center Manila HP, <https://www.smxconventioncenter.com/smx-manila/#facilities-2> (2025年9月5日閲覧)

## 主な催事

- Travel Tour Expo
- Philippine Fashion & Lifestyle Fairs
- Food & Drinks Asia

## World Trade Center Metro Manila

## 施設構成図



出所)World Trade Center Metro Manila,「CENTER OF ATTRACTION」, (2025年9月5日閲覧)  
World Trade Centers Association「Metro Manila, Events」,  
[https://www.wtca.org/locations/world-trade-center-metro-manila/events?archive\\_page=1](https://www.wtca.org/locations/world-trade-center-metro-manila/events?archive_page=1), (2025年9月8日閲覧)

## 主な催事

- Philippine Food Expo
- Inside Racing Bike Festival and Trade Show
- WORLDBEX
- Asian Defense and Security Exhibition

## 各施設の整備経緯

1996年:World Trade Center Metro Manila開業。建設、家具、国際モーターショーなどの主要展示会を年間200件以上継続開催。

2007年:SMX Convention Center Manila開業。消費財・観光・ビジネス展示等を年間数百件開催。

2010年代:複数IR施設(Solaire Resort & Casino、City of Dreams Manila、Okada Manila)が開業。

～2019年:IR-MICEでは、商談会や国際会議、企業会議を中心に開催。World Trade Center Metro Manilaは、ASEAN関連国際会議や展示会の開催地として地位を確立。

2023年:コロナ後は全体の催事件数が回復。改修は、ICT・サステナビリティなどが中心。

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

## 2) マニラ圏

### IR-MICE施設と公設MICE施設の連携・競合の状況

- IR内MICE施設は、「会議・インセンティブ・高級イベント」に特化しており、宿泊、カジノ、エンターテインメントを含む「オールインワン型体験」が売り
- 公設MICE施設は、産業見本市・BtoB展示に特化しており、特にインフラ、輸送、防衛、産業機械など大規模ブースが必要な分野で優位
- IR内MICE施設と公設MICE施設は直接競合よりも、用途別に**棲み分けている度合いが強く、共存関係**にあるといえる

### 今後のMICE施設整備の動向

- マニラ湾に新たに埋め立てられた島であるパサイハーバーシティでは、**新たにフィリピン国際展示センター(PIEC)の建設が決定している。**
- PIECは、**総展示面積269,000平方メートル**で、東南アジア最大の展示コンベンションセンターとなる。
- PIECプロジェクトは2つのパッケージに分かれており、パッケージ1には、2024年から2025年までの設計と詳細なエンジニアリング、基礎、構造、建築工事、および2つのパッケージの建設監理のためのコンサルティングサービスをカバーする170億ペソの予算が割り当てられている。パッケージ2には、2026年から2027年にかけて土木工事に100億ペソが割り当てられている。



図) 建設工事が開始された際の様子

出所) EEI Corporation, プレスリリース, <https://www.eei.com.ph/blogs-newsroom/eei-corporation-to-build-php157-b-mice-project-in-pasay-largest-in-sea/>, (2025年9月13日閲覧)

BusinessWorld, 「EEI bags phase 1 contract for exhibition center project in Pasay (2025年7月)」, <https://www.bworldonline.com/corporate/2025/07/08/683736/eei-bags-phase-1-contract-for-exhibition-center-project-in-pasay/>, (2025年9月13日閲覧)

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

### 3) メルボルン圏

#### ①都市概要

- ・人口:535.1万人(2024.6.30)※メルボルン圏
- ・面積:9992.6km<sup>2</sup>
- ・域内総生産:126,786m\$(2024)

#### ②産業集積・戦略の特徴

##### ・主要産業:

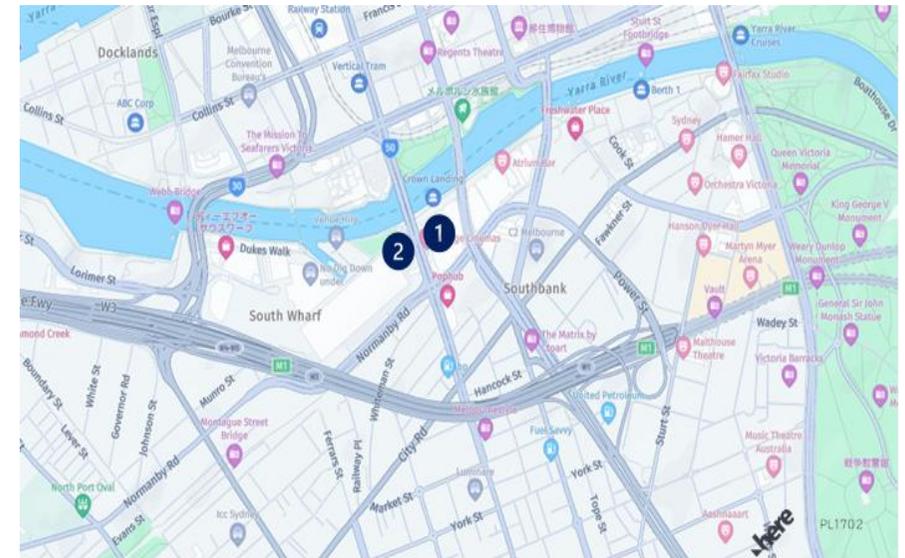
金融保険、教育、医療社会サービス業

##### ・今後の産業戦略:

- Victoria州の経済成長戦略(2024発表)では、重点産業分野として、先端製造業・防衛産業、医療技術・医薬品研究、サーキュラーエコノミー、デジタル技術、農業・アグリビジネスの5分野を中核に位置付ける。※1
- Invest Victoria(州投資誘致機関)も重点分野について、各分野に2000万ドルの基金を設立し、マッチング資金としてビクトリア州の新興企業やスタートアップに融資を提供することで、業界からの投資を促進。※2
- メルボルン市は豪州のMICEハブとして機能。Melbourne Convention Bureauと州政府は国際会議等誘致で協力。

#### ③主なMICE施設

No	施設名	運営事業者	
1	CrownMelbourne (IR)	民間	Crown Resorts Limited
2	MELBOURNE CONVENTION AND EXHIBITION CENTRE(MCEC)	州政府 100%出資の公的企業	Melbourne Convention and Exhibition Trust



出所) ※1:ビクトリア州政府,「Victorian Industry Policy」, <https://djsir.vic.gov.au/priorities-and-initiatives/industry-policy>, (2025年9月8日)

※2:ビクトリア州政府,「Victoria is giving business the certainty they need to invest, unlock growth and drive innovation」, <https://www.invest.vic.gov.au/news-and-events/news/2024/december/victoria-is-giving-business-the-certainty-they-need-to-invest-unlock-growth-and-drive-innovation>, (2025年9月8日閲覧)

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

## 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

## 3) メルボルン圏

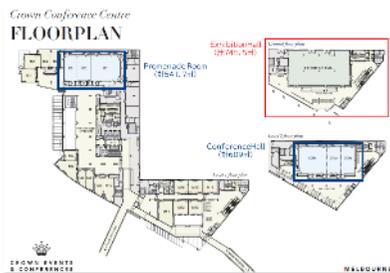
図表 主なMICE施設の施設概要

施設名	会議場施設規模	展示場施設規模	施設機能							
			会議施設	展示施設	ラウンジ	屋外イベントスペース	宿泊施設	飲食施設	駐車場	その他
Crown Melbourne	7,350㎡	745㎡	○	○	—	—	△	○	○	秘書サービス、インターネットワークステーション
MELBOURNE CONVENTION AND EXHIBITION CENTRE (MCEC)	70,000㎡	39,000㎡	○	○	—	△	○	○	○	祈禱室、芝生エリア

※宿泊施設については、同じ建物内にある場合のみ。別棟や近隣にある場合は△。

## Crown Melbourne

## 施設構成図



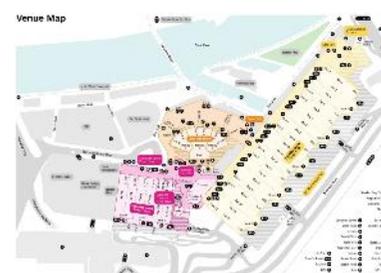
出所) MANDALAI「Crown's National Economic Contribution(2024年4月)」(2025年9月5日閲覧)

## 主な催事

- 企業主催の会議・研修
- Australian HR Awards、Financial Review Awards等の表彰イベント
- AFL Players' Association MVP Awards等のスポーツ関連アワード

## MCEC

## 施設構成図



出所) MCEC HP(<https://www.mcec.com.au/event-planning-resources/floor-plans-and-space-capacities>)2025年9月5日閲覧

## 主な催事

- ASEAN-オーストラリア特別首脳会議
- THE LUMEでの首相オリンピック晩餐会
- 国際遺伝学会議
- オーストラリア観光交流会 (ATE)

## 各施設の整備経緯

1993年:Crown Casino(Crown Melbourneのカジノ部分)が開業。1997年からホテル、シアター、商業施設を備える統合型リゾートとして本格稼働。VIPイベント中心。

1996年:MCE(展示施設)開業。国際見本市・博覧会・トレードショーを誘致し、年間数百件の催事を開催。

2009年:Melbourne Convention Centre(会議棟)が MEC 隣接地に開業。MCECとなる。国際会議や学会の件数が急増し、年間約800件。

2012年:Crown Conference Centre 拡張。ビジネスイベント件数が上昇。

2018年:MCEC の拡張完成。展示・会議スペース拡充。総面積が7万㎡となる。催事件数は年間1000件を超える。

2023年:コロナ後は全体の催事件数が回復。MCECは医療・バイオ、再生可能エネルギーが成長分野。Crown Melbourne は国際観光客回復によりVIPイベント、エンタメ公演が増加。

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

### 3) メルボルン圏

#### IR-MICE施設と公設MICE施設の連携・競合の状況

- IR内MICE施設は、ホテル併設のMICE施設であり、大規模な“**宿泊型**”の会議、ミーティング、セミナー、製品発表会、展示会、イベントに対応
- 展示ホール面積は745m<sup>2</sup>で、受付デスク・事務室・収納スペースを内蔵し荷役場へのアクセスも容易となっている
- 「インセンティブ、VIP・企業イベント」に強みを持っており、IRならではのラグジュアリー体験+宿泊一体型の体験を提供
- 公設MICE施設は、「大規模国際会議、見本市、学会」に特化しており、公共施設としての信頼性と大規模収容力を有する
- IR内MICE施設と公設MICE施設は隣接していることから、中規模会議では競合するものの、催事によっては展示会(MCEC)とレセプション(IR)で**機能を補完**

#### 今後のMICE施設整備の動向

- 2026年7月にホテル・シアター(1000席)・飲食店・展示施設(3700m<sup>2</sup>)等の複合施設「Nyaal Banyul Geelong Convention and Event Centre」が開業予定。ジーロング空港まで車で20分、メルボルン空港まで車で1時間の立地。
- 運営は、MCECと同じくMCEトラストが担う事となっている。 ※次ページ
- また、メルボルン中心部では**ホテル併設型MICE施設(中規模)**は複数整備が進められている。
- AC Hotel by Marriott Melbourne Ringwood(2025年開業予定)では、約400m<sup>2</sup>のミーティングルーム、Hilton Melbourne Square(2026年開業予定)では、計約2,800m<sup>2</sup>の会議・イベントスペース他、現在ボールルームを有するPark Hyatt Melbourne(2026年以降改修)がKSホテルズに買収され改修後新規開業が予定されている。

出所)CLM meeting and events news,「Second AC Hotels by Marriott property to open in Ringwood(2019年10月)」,  
<https://www.cimbusinesssevents.com.au/second-ac-hotels-by-marriott-property-to-open-in-Ringwood/>(2025年9月16日閲覧)  
 hospitalitynet「Hilton Melbourne Square(2019年6月)」, <https://www.hospitalitynet.org/announcement/41003056/hilton-melbourne-square.html>(2025年9月16日閲覧)  
 hospitality directory.com.au「Park Hyatt Melbourne sold for over \$200M in biggest hotel deal of 2025(2025年8月)」,  
<https://www.hospitalitydirectory.com.au/industry-news/22565-park-hyatt-melbourne-sold-for-over-200m-in-biggest-hotel-deal-of-2025/>(2025年9月16日閲覧)

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

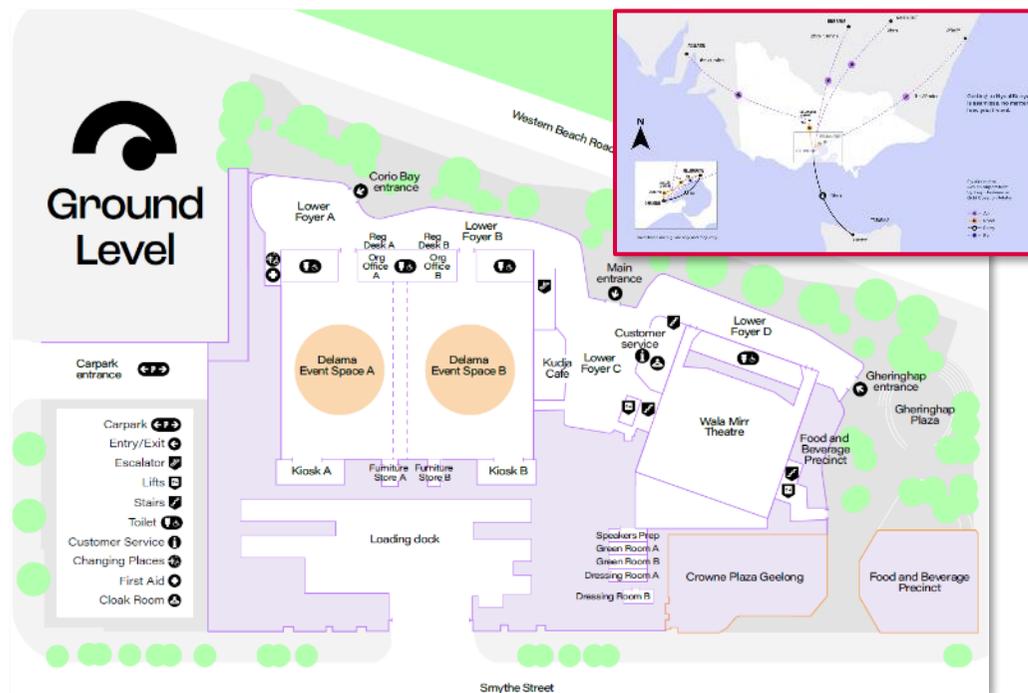
# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

### 3) メルボルン圏

#### Nyaal Banyul Geelong Convention and Event Centre

- 1,000席の劇場と3,700平方メートルの多目的スペースを備え、コミュニティ集会から大規模会議まであらゆるイベントに対応する複合施設。ショップ、多様な飲食店、公共広場、直結するクラウンプラザホテルが含まれている。
- 敷地内には200室のクラウンプラザホテルがあり、近隣には1,500室以上の客室もあり滞在空間が整備されている。

#### 施設レイアウト・アクセス



#### 施設構成

##### Wala Mirr Theatre

Space	Configurations					Dimensions			
	Theatre	Classroom	Cocktail	Banquet	Cabaret	Area (m <sup>2</sup> )	Length (m)	Width (m)	Height (m)
Tiered - 6m stage	1,004	-	-	-	-	-	25.6	29.2	10-12.9
Tiered - 6m stage (excluding balcony)	635	-	-	-	-	-	25.6	29.2	10-12.9
Tiered - 8m stage	956	-	-	-	-	-	25.6	29.2	10-12.9
Tiered - 8m stage (excluding balcony)	587	-	-	-	-	-	25.6	29.2	10-12.9
Flat floor - 6m stage	524	279	467	370	296	740	25.6	29.2	10-12.9
Flat floor - 8m stage	452	246	420	330	264	740	25.6	29.2	10-12.9

##### Delama Event Space

Space	Configurations						Dimensions			
	Theatre	Classroom	Cocktail	Banquet	Cabaret	Concert	Area (m <sup>2</sup> )	Length (m)	Width (m)	Height (m)
Delama Event Space A	624	339	743	400	320	689	891	36.9	23.9	10-12.9
Delama Event Space B	768	429	836	470	376	781	1,003	36.9	26.9	10-12.9
Delama Event Space A&B Combined	1,702	1,026	1,645	1,100	888	1,597	1,974	36.9	53.9	10-12.9

出所) Nyaal Banyul Geelong Convention and Event Centre・アクセス(<https://www.nyaalbanyul.com.au/gather-in-geelong/>)

施設構成(<https://www.nyaalbanyul.com.au/event-planning-resources/floor-plans-and-space-capacities>) 2025.9.16 閲覧

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

### 参考) ラスベガス

#### IRに不随する展示施設で最も大きい Mandalay Bay Convention Center(MGMの施設)

- Mandalay Bay Resort & Casino内の施設
- 総MICE施設面積:約195,000㎡、展示スペース:約96,900㎡ ※1
- ラスベガスのIR併設コンベンション施設の中で「展示ホール面積」が最も大きい。コンシューマーエレクトロニクスショー(CES)の分会場としても使われる。※2
- 実質的にIRに付随するMICE施設として世界最大の展示スペースを有する

#### Mandalay Bay Convention Centerでの催事

- MGMが運営するMICE施設全体として、**一般公開していないもの、商談やネットワーク構築を主目的としたもの、経営幹部や投資家、弁護士などのハイエンド層を対象にしたもの**、において利用されている。
- **医学、薬学系の催事も開催**
- Mandalay Bay Convention Centerは、その展示スペースの大きさを活かして**1万人以上の来場者がある大規模な催事**において利用される傾向  
例)PPAI Expo 2026(来場者約1万6千人)、Midyear Clinical Meeting 2025-ASHP(2万人以上)、TISE2026(The international Sufacture Event)(3万人以上) 等

出所)※1:MANDALAY BAY「CAPACITIES GUIDE」, <https://mandalaybay.mgmresorts.com/en/meetings-groups/meeting-convention-facilities.html>、(2025年9月18日閲覧)

※2:ComputerTimes「CES 2025: CES Unveiled Pre-Show Event」, <https://computertimes.com/2025/01/06/ces-unveiled-2025/>、(2025年9月18日閲覧)

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

# 4.2 各都市におけるIR-MICEの展示施設と公設展示施設の状況

### 参考) ラスベガス

#### IRに不随する展示施設で最も大きい Mandalay Bay Convention Center(MGMの施設)

- Mandalay Bay Convention Centerの南コンベンションセンターには、一体利用が可能な6つの展示スペースの Bayside Exhibit Halls(計約8万㎡)と、約1.7万㎡の展示スペースを持つShoreline Exhibit Hallがある。



出所)Mandalay Bay Convention Center “Capacities and Dimensions guide”(https://mandalaybay.mgmresorts.com/en/meetings-groups/meeting-convention-facilities.html)2025.9.18閲覧

## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

### 4.3 IR-MICEの展示施設と公設展示施設の違い

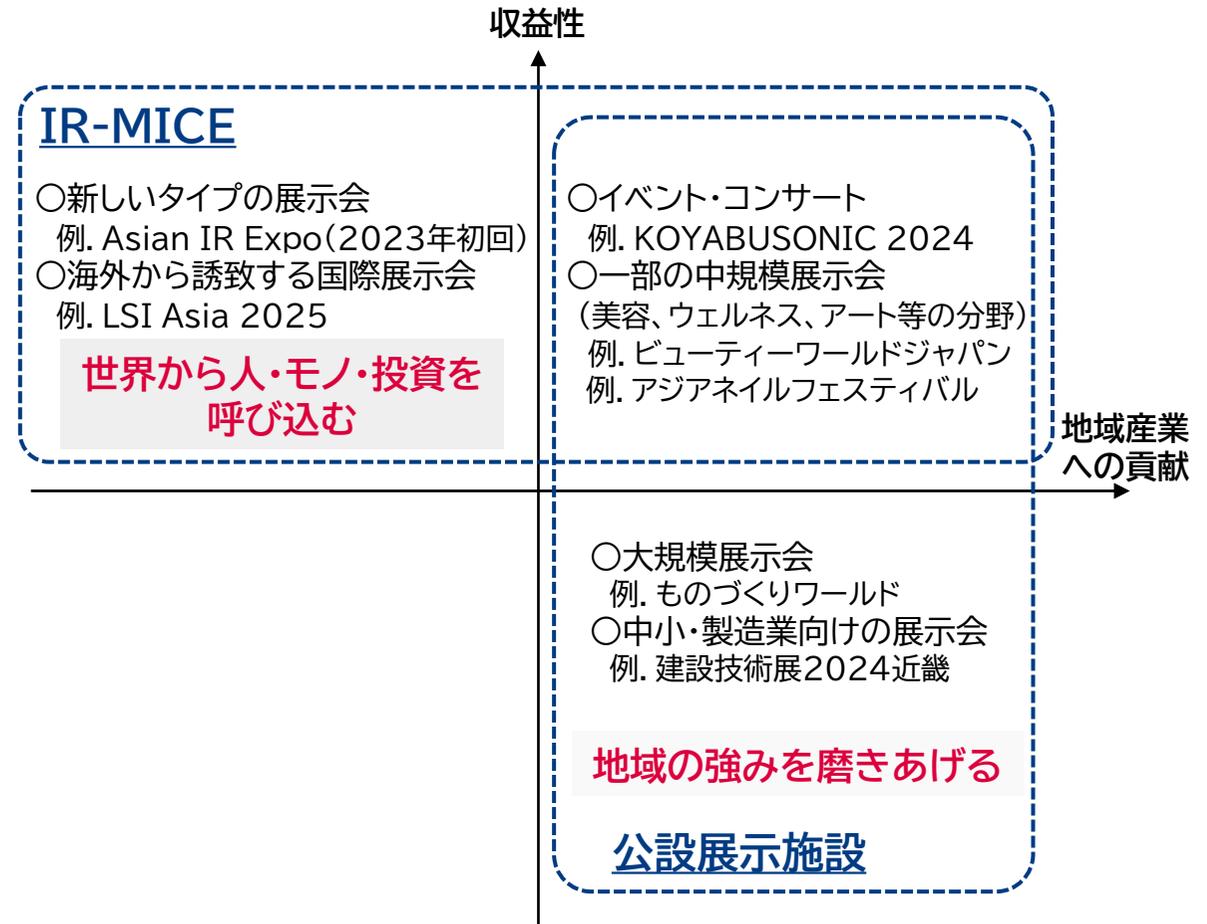
#### 1) IR-MICEの展示施設と公設展示施設の違い

- IR-MICEの展示施設と公設展示施設は、一部競合する領域はあるものの、基本的にはプラスのシナジーを生む協調的かつ相互補完的な関係。

図表 IR-MICEと公設展示施設の違い

	公設展示施設	IR-MICE
目的	地域産業への貢献	収益性(周辺事業収益含む)
催事内容	展示会中心	MICEいずれの催事も対象
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● BtoB中心</li> <li>● マス向け</li> <li>● 国内市場中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● BtoCも含む</li> <li>● ハイエンド向け</li> <li>● 海外市場も含む</li> </ul>
展示面積	大	小～中
料金	固定	変動
設備のグレード	汎用的	高機能／ラグジュアリー

IR-MICEの展示施設と公設展示施設の違い



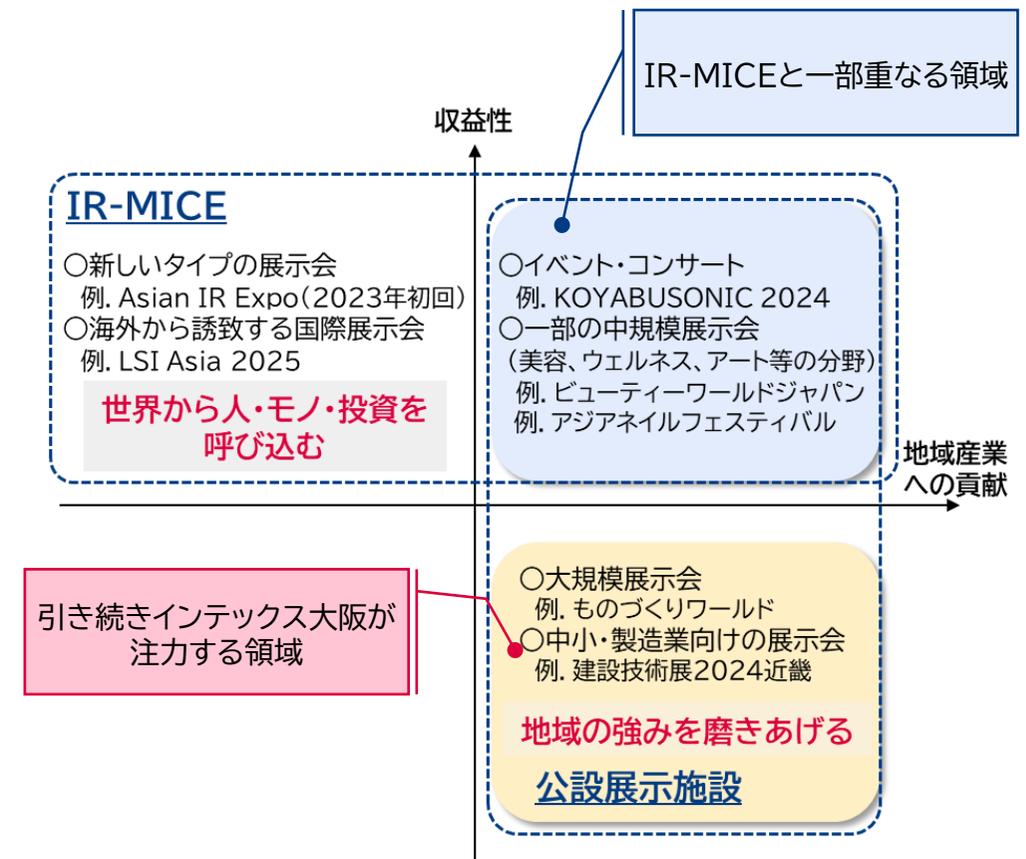
## 4. IR-MICEの展示施設と公設展示施設で開催される展示会等の違いの分析

### 4.3 IR-MICEの展示施設と公設展示施設の違い

#### 2) IR-MICE開業に伴うインテックス大阪の将来的な催事開催に向けて

- 大阪IR区域整備計画やIR-MICEの展示施設と公設展示施設の違いを踏まえると、今後もインテックス大阪が注力する催事は変わらないものと想定される。
- 他方、4.3 1)で整理したとおり、現在インテックス大阪で開催されている一部のイベント・コンサートや、中規模展示会については、IR-MICEに移転開催する可能性も考えられる。
- なお、役割を踏まえ3.6で整理したとおり、今後も大阪における展示会開催件数は増加していくものと考えられることから、大阪全体のMICE戦略を検討することで、国内市場における大阪開催のシェアをより拡大していく可能性があると考えられる。
- インテックス大阪はIR-MICEの開業によって生まれる新たな機会を活かすべきであり、またインテックス大阪の機能拡充はIR-MICEの開業が計画通り進展するための重要な要因となり得る。

#### IR-MICEとインテックス大阪の連携イメージ



出所) 当社作成

# 5. インテックス大阪における展示会・見本市開催の 経済効果等

---

- 5.1 見本市・展示会開催の経済波及効果
- 5.2 見本市・展示会による成果(事例分析)

## 5. インテックス大阪における展示会・見本市開催の経済効果等

## 5.1 見本市・展示会開催の経済波及効果

- 見本市・展示会の開催は、出展者や来場者による大阪市内等での消費や宿泊、出展ブース設置、展示物等の輸送、ケータリングサービス等、開催に伴い幅広い産業に対する経済的な波及効果がある。
- 加えて、見本市・展示会におけるビジネスマッチングによる関連産業の成長や、日本・大阪の国際的プレゼンスの向上といった効果も見込める。【参照：次頁以降の事例分析】

## 見本市・展示会開催の経済波及効果

- インテックス大阪で開催された見本市・展示会(2024年・115件)による大阪市への経済波及効果は644.3億円、粗付加価値誘発額は402.1億円、就業効果は119.1万人と試算される。
- また、大阪市の市町村税への税収効果は約7.6億円と試算される。

## 1. 生産誘発額・就業効果

指標	全国	大阪府	大阪市	単位
1.1 経済波及効果(1+2+3)	1,321.0	735.9	644.3	億円
総消費額	633.7	633.7	633.7	億円
1) 直接効果	606.0	465.0	414.9	億円
2) 間接1次波及効果	427.4	161.6	133.3	億円
3) 間接2次波及効果	287.7	109.3	96.2	億円
1.2 粗付加価値誘発額	709.8	447.0	402.1	億円
1.3 就業効果	272.3	152.3	119.1	万人・日

## (内)MICE関連主要業種への経済波及効果

主要業種	全国	大阪府	大阪市	単位
宿泊業	33.3	32.2	32.1	億円
飲食店	60.1	54.9	54.3	億円
対事業所サービス業	437.9	357.6	354.2	億円

出所) 観光庁「MICE開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデル」を用いて当社試算

## 2. 税収効果

税目	全国	大阪府	大阪市	単位
国税	71.9	46.1	42.0	億円
都道府県税	16.2	12.2	11.1	億円
市町村税	12.5	8.3	7.6	億円

- ※ 2024年度にインテックス大阪で開催された見本市・展示会115件を対象に試算。
- ※ 試算に用いたインプットデータは、大阪国際経済振興センターから提供頂いた2024年の催事開催実績データを元に作成。
- ※ 就業効果は、実雇用者数ではなく、仕事量の増加分を表しており、例えば、この値が3,650人・日の場合、10人を365日雇用できるだけの雇用増分があることを意味する。
- ※ 税収効果は、景気、税制度の変更等の条件より大きな影響を受けるため、実際の税収額と計算結果が大きく乖離する場合がある。

## 5. インテックス大阪における展示会・見本市開催の経済効果等

## 5.2 見本市・展示会による成果(事例分析)

## INTERMOLD 2022 / 金型展2022 / 金属プレス加工技術展2022

- ▶ **全国各地からの出展者・来場者による地域消費やビジネス交流、展示会を通じた関連市場の拡大に貢献**
- インテックス大阪で隔年開催されている「INTERMOLD・金型店・金属プレス加工技術展2022」では、全国から243社が出展し、4日間で約24,000人が来場、そのうち約8500人(約35%)が、近畿圏外から来場。
  - 金属関連の多様な業種が参加し、全国からの来場者とのビジネス交流・事業拡大に繋がっている。約95%の出展者が新規顧客獲得を目的とし、うち約4割が目的を概ね達成できたと回答。

## 展示会概要 ※3展合計

主催者 : テレビ大阪エクスプロ  
 利用号館 : 2号館・5AB号館  
 会期 : 2022年4月20日(水)～23日(土)  
 出展規模 : 243社・団体 563小間  
 来場者数 : 23,875人

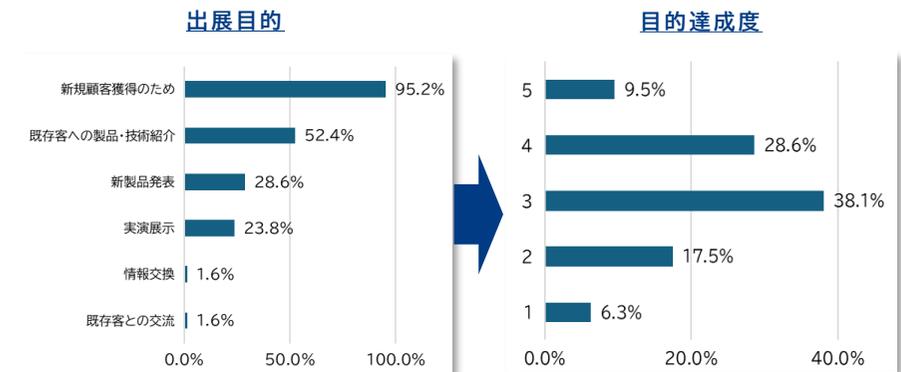
## 来場者業種分類



## 来場者数及び地域分布

	3展合計		INTERMOLD		金型展		金属プレス加工技術展	
	来場者数	割合	来場者数	割合	来場者数	割合	来場者数	割合
合計	23,875	100.0%	15,890	100.0%	4,166	100.0%	3,819	100.0%
近畿地区	15,374	64.4%	12,108	76.2%	3,262	78.3%	4	0.1%
其他地区	8,501	35.6%	3,782	23.8%	904	21.7%	3,815	99.9%
北海道地区	88	0.4%	16	0.1%	0	0.0%	73	1.9%
東北地区	3,241	13.6%	64	0.4%	4	0.1%	3,174	83.1%
関東地区	1,282	5.4%	969	6.1%	179	4.3%	134	3.5%
中部地区	2,174	9.1%	1,732	10.9%	400	9.6%	42	1.1%
北陸地区	270	1.1%	175	1.1%	87	2.1%	8	0.2%
中国・四国地区	742	3.1%	588	3.7%	150	3.6%	4	0.1%
九州・沖縄地区	260	1.1%	207	1.3%	46	1.1%	8	0.2%
海外	150	0.6%	16	0.1%	0	0.0%	134	3.5%
不明	294	1.2%	16	0.1%	37	0.9%	241	6.3%

## 出展目的と目的達成度(5段階)



出所) インターモールド振興会HPより当社作成 (<https://www.intermold.jp/2024/results/>)

## 5. インテックス大阪における展示会・見本市開催の経済効果等

# 5.2 見本市・展示会による成果(事例分析)

## 国際ウエルディングショー2024

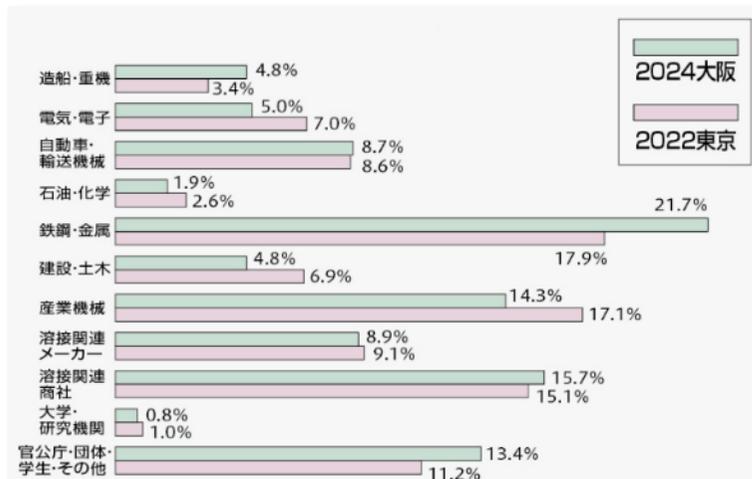
- 専門分野の先端技術ショーにより国内外の専門家(経営層・エンジニア)からアジアの技術ハブ都市として認知**
  - 国内外から345社(うち海外20カ国103社)が出品し、入場者数は100,307人(海外4,086人)と、材料加工を対象とした専門展示会として圧倒的な規模を実現
  - 来場者の大半がエンドユーザーの技術者であり、多業種・産官学からも注目され、アジアを始めとする世界各国から溶接に関するアジアのハブ展示会として地位を確立している

### 展示会概要

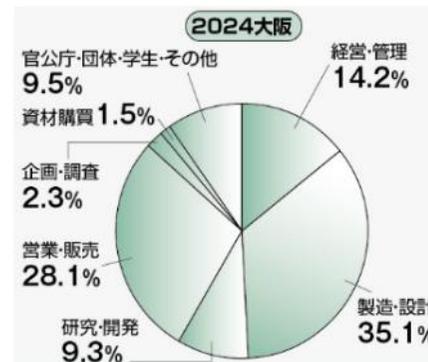
主催者	: 産報出版
利用号館	: 1~5号館
会期	: 2022年4月24日(水)~27日(土)
出展規模	: 345社(海外20カ国)
来場者数	: 100,307人



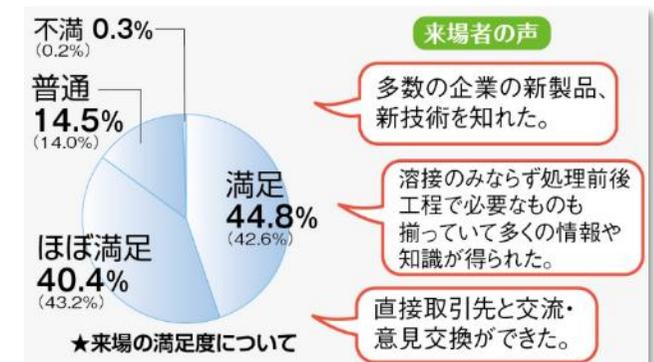
### 来場者の業種内訳



### 来場者の特性(職種)



### 来場者の満足度



出所)国際ウエルディングショーHPより当社作成(<https://weldingshow.jp/2026/past/data/>)

# 6. IR-MICE開業後を見据えたインテックス大阪の 必要規模

---

## 6.1 インテックス大阪の必要規模

## 6. IR-MICE開業後を見据えたインテックス大阪の必要規模

### 6.1 インテックス大阪の必要規模

【IR-MICEが2058年に10万㎡拡張の場合】

インテックス大阪は2058年時点でも展示会・見本市会場として一定規模が必要

- 2058年までの府内展示会等開催件数を、国内・海外の展示会市場の成長と、各施設の会場稼働率の上限を考慮して、国内外の展示会産業成長パターンとして試算すると、大阪での展示会場面積不足が懸念。(機会損失)
- このため、中長期的な社会経済の動向等によって、必要とされる展示面積は変化するものの、将来的な展示会需要を踏まえるとIR-MICEの段階的拡張後も公設展示場(インテックス大阪)は大阪に必要と考えられる。

図表 IR-MICE開業後を見据えたインテックス大阪の必要規模

施設名称	展示面積 【現状・計画】 (㎡)	2058年 開催件数上限 (件・年)	府内開催 可能件数 会場別 構成比	成長パターン別・会場別 2058年開催件数見込み		成長パターン別 各会場必要面積	
				国内展示※ (件数・年)	海外展示※ (件数・年)	国内展示※ (㎡)	海外展示※ (㎡)
インテックス大阪	70,078	360	39.8%	368	826	73,911	290,313
IR-MICE	100,000	545	60.2%	557	1,251	100,000	100,000
大阪府内 合計	170,078	905	100%	925	2,077	173,911	390,313

※ 図表中の「国内展示」「海外展示」は、それぞれ「3.6 2058年を見据えた府内展示会等の開催件数見込み」にて試算した、「国内展示会産業成長パターン(年3.9%成長)」「海外展示会産業成長パターン(年6.4%成長)」を示している。

出所) 各資料に基づき当社試算

## 7. 今後の改修方法の比較

---

7.1 インテックス大阪の改修方法等の比較

7.2 改修方法等の比較結果

## 7. 今後の改修方法の比較

# 7.1 インテックス大阪の改修方法等の比較

## 1) インテックス大阪の改修方法等の方向性

- 今後機能向上の対象とされている4・5号館の改修等の方向性として、「改修」「建替」について1～6章の調査内容、各方向性のメリット・デメリット、現状の制約条件を考慮した結果、本調査では、「改修」「建替」について、改修等のパターンを複数案作成し、今後の具体化に必要な事項の検討を深めていくこととした。

図表 インテックス大阪の改修等の比較

方向性	メリット	デメリット
改修	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建設費用(財政負担)が小さい</li> <li>● 休館期間(他号館への影響含む)が短い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● IR-MICEの全館開業(~2058年)まで施設の耐用年数が経過する</li> <li>● 長寿命化対応に限定されるため、外観改修や機能向上など施設の魅力を高めることが出来ない(来場者等への訴求が弱い)</li> </ul>
建替	<ul style="list-style-type: none"> <li>● IR-MICEの全館開業(~2058年)まで大阪市全体の展示面積を維持できる</li> <li>● 建替と併せた外観改修や機能向上など施設の魅力を高めることが出来る(来場者等への訴求も強い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建設費用、建設・休館期間、調整等のコスト負担が大きい               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 建替工事期間中の代替施設が必要(確保が困難)</li> <li>➢ 一部・全館休館期間が発生する</li> <li>➢ 現状の立地では解決できない課題(駐車場の不足、駅からの動線や周辺まちづくりの課題など)が残存</li> </ul> </li> </ul>

- なお、他の公共施設等との複合化、集約化は以下の展示会場の特性も踏まえ困難であると考える。

### ① 展示会場の施設機能要件

展示会場は、大空間・高天井・大床荷重・大型搬出入動線など、特殊かつ専用性の高い機能要件を有する。このため、庁舎・文化施設・体育施設等との無理な複合化は、双方の機能低下や設計・維持管理コストの増大を招く可能性がある。

### ② 展示会場特有の利用形態・運営時間帯

展示会等は短期間に大量の来場者・車両が集中し、早朝・深夜の搬入出作業も発生する。このため、日常的・定常的な利用を前提とする他の公共施設とは、動線・騒音・安全管理面での調整が難しい。

### ③ 防災・セキュリティ等の管理基準

展示会場では、不特定多数の来場者、企業等の展示物・高額機材を取り扱うため、セキュリティ管理や催事特有のリスク対応が求められる。管理責任の所在・主体を明確化、事故・トラブル対応の観点からも目的の異なる他施設との一体管理は難しい。

## 7.今後の改修方法の比較

# 7.1 インテックス大阪の改修方法等の比較

## 2) インテックス大阪の改修方法等の検討項目等

- 「改修」「建替」について、改修方法等の比較にあたって、複数の改修等パターンを作成・比較検討を行う。
- その際、以下の検討項目及び将来実現すべき改修等の内容・水準を踏まえて改修等パターンを作成する。

改修等の検討項目	1-6章を踏まえて将来実現すべき改修等の内容・水準
<b>展示館に求める機能等</b>	
展示面積	現在地での最大化
構造	無柱空間
構造	分割／一体利用可能
天井の高さ	催事により需要が異なる
耐荷重	5t/m以上
床仕上げ	コンクリート
諸室(主催者控室)	諸室(室数・面積)・会議室(機能)の充実化
<b>バックヤードの広さ・動線</b>	
広さ	バックヤードの拡張
動線	車両の搬出入経路の円滑化
動線	搬出入車両と一般車両動線の切り分け
<b>駐車場(事業者)の荷捌きスペース</b>	
荷捌き	荷捌きスペースの拡張
<b>周辺道路への影響</b>	
周辺搬出入経路	搬出入車両滞留による渋滞回避(特に1・2号館南側道路)
<b>公共空間</b>	
場内通路	屋内化による滞在環境の改善・打合せ等スペースの拡充
来場者動線	各展示館へのアクセス向上(2階レベルでの動線見直し等)
滞留スペース	催事開催前後の来場者滞留スペース確保
駅からの歩行者動線	デッキ整備・屋根設置によるアクセス・環境改善
<b>6号館稼働率・収益性向上</b>	
バスロータリー移設 ※ヒアリング踏まえ追記	新号館と6号館間にバスロータリーの移設(人流改善)
各展示館とのアクセス	各展示館とのアクセス改善
C・Dゾーン用途変更 ※ヒアリング踏まえ追記	Cゾーン駐車場化と新号館面積追加によるDゾーン稼働率改善
<b>建設工事と運営の両立</b>	
工事動線の確保	工事動線と来場動線の確保
休館期間の短縮	運営期間を維持する工事計画
滞留スペースの確保 ※ヒアリング踏まえ追記	工事・運営両立に必要な滞留スペース

## 7.今後の改修方法の比較

# 7.1 インテックス大阪の改修方法等の比較

### 3) インテックス大阪の改修等のパターン

- 「改修」「建替」を軸に、前ページの検討項目等を踏まえ、以下6パターンについて検討する。

図表 改修等パターンの検討における検討項目及び将来実現すべき改修等の内容・水準

改修等のパターン	コンセプト
① 既存施設改修	老朽化している建物・設備等の機能回復のみを行う。
② 一体化建替	4・5号館を一体化させた新号館(15,000㎡)として整備 ✓ 展示館の面積拡大・一体化・可変化 ✓ 会議施設の拡充 ✓ 館内の無柱化(会議室階下を除く)
③ 一体化建替+機能拡張 (大型車駐車場、会議室・セミナールーム、通路屋内化)	②に加えて、以下の機能拡張を実現 ✓ 新展示館については無柱化 ✓ 大型駐車場確保により荷捌きスペース不足を解消 ✓ 会議室セミナールーム増設により主催者ニーズに対応 ✓ 通路屋内化により来場者の滞在中の快適性向上
④ 一体化建替+機能拡張 (③をベースに実現可能性を高めた案)	③の内容のうち、展示スペースの一部を柱ありにしたうえで2階スペースを確保し、来場者の滞留スペースを確保
⑤ 一体化建替+機能拡張 (③に加えて2階スペース拡張)	③に加えて、以下の機能拡張を実現 ✓ 2階部分を拡張し、来場者のメイン動線とすることで、滞留スペースを確保
⑥ 一体化建替+機能拡張 (⑤に加えて来場者動線見直し、6号館C駐車場化)	⑤に加えて、以下の機能拡張を実現 ✓ ペDESTロリアンデッキを設置することで、駅からの来場者動線やイメージを一新 ✓ 6号館Cを大型車駐車場化し、新展示館をさらに拡張することで、全体の展示面積を保ったまま6号館の利用率を向上

## 7. 今後の改修方法の比較

# 7.1 インテックス大阪の改修方法等の比較

### 4) 各改修等パターンのメリット・デメリット(想定案策定段階での想定)

- パターン①～⑥として作成した案についてのメリット・デメリットは下表のとおり。
- これらに基づき、PEO・PCO(催事運営主体)、ゼネコン(設計・施工主体)、国際経済振興センター(現施設運営主体)に対してヒアリングを実施し、各パターンにおける課題や後年度業務への示唆を整理する。

図表 インテックス大阪の改修パターンの比較

パターン	メリット	デメリット
①既存施設の改修	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修費用を抑えることができる</li> <li>工期が最も短く・他館を含めた休館の影響も最小限</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能がほぼ改善しない</li> </ul>
②一体化建替	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示スペースが拡大(約2,000㎡)</li> <li>新展示館で無柱空間が実現(会議室階下約4000㎡を除く約11,000㎡)</li> <li>既存4号館・5号館における一体的利用がしにくい課題の解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来場者の待機スペースが屋外であること、荷捌きスペースや会議室・セミナールームの不足といったインテックス大阪が抱える本質的な課題は解消されない</li> </ul>
③建替+機能拡張	②に加えて、 <ul style="list-style-type: none"> <li>全体を無柱空間にするため無柱空間が拡大(約15,000㎡)</li> <li>入場ゲートから1,2,3,新号館までの動線が屋内化</li> <li>大型車駐車場(荷捌き)、会議室・セミナールームを新たに確保</li> <li>東ゲートに大型バス寄せを設けることで6号館へのアクセス改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能拡充により延べ床面積が大きくなるため、建築費が高くなる</li> <li>入場ゲートから6号館までの動線が、新展示館を回り込む形となる</li> <li>来場者の休憩スペース等が十分確保できない</li> </ul>
④建替+機能拡張	③に加えて <ul style="list-style-type: none"> <li>来場者の休憩スペース等が確保可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新展示館の一部(約5,000㎡)が無柱空間ではなくなる</li> </ul>
⑤建替+機能拡張	③に加えて <ul style="list-style-type: none"> <li>入場ゲートから全館の動線が概ね屋内化</li> <li>来場者動線を2階に変更し、休憩スペース等を十分に確保可能</li> <li>新展示館と1,2号館との間に距離があるため、③と比較して1～3号館の休館期間を短縮できる可能性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる機能拡張により延べ床面積が③以上に増大、建築費が③以上に高くなる</li> <li>来場者は必ず2階に上がらなければならない</li> <li>1階レベルで各展示館を行き来しづらい(新展示館の搬出入時は2階を経由して移動する必要がある。また、6号館は1階レベルでの移動はできない)</li> <li>エレベーターやエスカレーターの施工、維持コスト増</li> <li>必要となる階段幅やスロープ長の検証が必要</li> <li>搬出入動線が敷地南側に集約化されるため搬出入車両が交錯する可能性</li> </ul>
⑥建替+機能拡張	⑤に加えて <ul style="list-style-type: none"> <li>ペDESTリアンデッキにより、中心頭駅から入場ゲートまでの動線にかかる来場者の印象が大きく変わる</li> <li>6号館Cを大型車駐車場化することで6号館の稼働率向上(現状6号館D利用時にCは利用できない等の事情があり、Cが6号館全体の稼働率の押し下げ要因となっているため、駐車場化することで6号館全体の稼働率向上が見込める)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる機能拡張により延べ床面積が⑤以上に増大、建築費が⑤以上に高くなる</li> <li>6号館Cを屋内大型車駐車場化することで、換気設備や照明設備、消防設備等の施工、維持コスト増。また、新たに防火区画等が必要になる</li> <li>6号館Cの駐車場化にあたっては、耐荷重や天井高について要検証(耐荷重が不足する場合補強工事が必要)</li> </ul>

## 7.今後の改修方法の比較

## 7.2 改修方法等の比較結果

## 1) 各改修等パターンの比較評価 (1/2)

- 各改修等パターンの比較結果は下表のとおり。

各改修等パターンの比較結果

検討項目	検討項目の内容	① 既存施設の改修	② 一体化建替	③ 一体化建替+機能拡張	④ ③の実現性向上	⑤ ③+2階スペース拡張	⑥ ⑤+来場者動線見直し+6号館C駐車場化
<b>展示館に求める機能等</b>							
展示面積	現在地での最大化	×	○	○	○	○	○
構造	無柱空間	×	○	○	△	△	△
構造	分割/一体利用可能	×	○	○	○	○	○
天井の高さ	催事により需要異なる	○	○	○	○	○	○
耐荷重	5t/㎡以上	○	○	○	○	○	○
床仕上げ	コンクリート	×	○	○	○	○	○
諸室(主催者控室)	諸室等の充実化	×	○	○	○	○	○
<b>バックヤードの広さ・動線</b>							
広さ	バックヤードの拡張	×	×	○	○	○	○
動線	車両の搬出入経路の円滑化	×	×	○	○	○	○
動線	搬出入/一般来場者動線の切り分け	×	×	○	○	○	○
<b>駐車場(事業者)の荷捌きスペース</b>							
荷捌き	荷捌きスペースの拡張	×	×	○	○	○	○
<b>周辺道路への影響</b>							
周辺搬出入経路	搬出入車両滞留による渋滞回避(特に1・2号館南側道路)	△	△	△	△	△	△

## 7. 今後の改修方法の比較

## 7.2 改修方法等の比較結果

## 1) 各改修等パターンの比較評価 (2/2)

各改修等パターンの比較結果

改修等の項目	改修等の内容	① 既存施設の改修	② 一体化建替	③ 一体化建替+機能拡張	④ ③の実現性向上	⑤ ③+2階スペース拡張	⑥ ⑤+来場者動線見直し+6号館C駐車場化
<b>公共空間に求める機能等</b>							
場内通路	屋内化による滞在環境の改善・打合せ等スペースの拡充	×	×	○	○	○	○
来場者動線	各館へのアクセス向上(2階レベルでの動線見直し等)	×	×	×	×	○	○
駅からの歩行者動線	デッキ整備・屋根設置によるアクセス・環境改善	×	×	×	×	×	○
<b>6号館稼働率・収益性向上の工夫</b>							
バスロータリー移設／6号館側に車寄せ増設	【パターン④】新号館と6号館間にバスロータリーの移設(人流改善) 【パターン③⑤⑥】6号館側に新たに大型バス車寄せを増設(人流改善)	×	×	△	○	△	△
各展示館とのアクセス	各展示館とのアクセス改善	×	×	×	×	○	○
C・Dゾーン用途変更	Cゾーン駐車場化と新号館面積追加によるDゾーン稼働率改善	×	×	×	×	×	○
<b>建設工事と運営の両立</b>							
工事動線の確保	工事動線と来場動線の確保	○	○	×	△	△	△
休館期間の短縮	運営期間を維持する工事計画	○	△	△	△	△	△
<b>【参考】概算費用の試算結果</b>							
概算費用の試算①・②(億円・税込)		143~160	256~350	—	—	—	—

出所) 当社作成

## 7. 今後の改修方法の比較

## 7.2 改修方法等の比較結果

## 2) 改修基本計画の検討に向けたポイント (1/3)

- 各改修等パターンの比較結果を踏まえた示唆は下表のとおり

## 改修基本計画の検討に向けたポイント

改修等の項目	改修等の内容	今後の改修等計画に向けたポイント
展示館に求める機能等		
展示面積	現在地での最大化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建替の場合には、現状の4・5号館の合計展示面積(1.3万㎡)を超える1.5万㎡が必要。</li> <li>・ 建物の配置計画では、4・5号館以外の既存施設に影響を与えない事も可能と思われるが、その場合は既に課題となっている搬出入動線・バックヤードや一般車両との切り分けに課題。</li> <li>・ 課題を解決しつつ面積を確保するには、管理棟・会議室も含めた建替が必要</li> </ul>
構造	無柱空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建替の場合は、展示可能面積の最大化、インテックス大阪で開催される多様な催事の満足度向上、他都市の展示場との競争力の観点からも無柱空間が望ましい。</li> <li>・ 建物の配置計画(パターン④)次第では、新展示館の一部を柱有として強度を高めることで全体的なコストにも配慮しつつ会議室・飲食スペース等の課題に対処する事も可能であるため、コストと対策の優先度とのバランスにより考慮する事も必要。</li> </ul>
構造	分割／一体利用可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インテックス大阪では、産業展示会のほか、音楽イベントや検定試験など多様な催事が開催されていることから、展示場面積や利用用途など多様な主催者ニーズに応えるため、分割・一体利用を可能とする必要がある。</li> </ul>
天井の高さ	現行程度あれば可能(催事により需要異なる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インテックス大阪が現在主に開催対象としている産業展示会においては、現行程度の高さがあれば課題にはなっていない。他方で、設計段階では、吊り加重が不足する事による主催者の費用負担等の現状も聞き取りながら適切な機能とすることが求められる。</li> </ul>
耐荷重	5t/㎡以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も大阪市で主要な産業展示会を開催すること、それによる大阪経済の活性化に貢献するためには、大型重機等の展示を安心して行えるよう5t/㎡の耐荷重は必要となる。</li> </ul>
床仕上げ	コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状は、アスファルト仕上げとなっているため、改修・建替のいずれにおいても、アンカーボルトの打設に対応することが求められる。</li> </ul>
諸室(主催者控室)	諸室等の充実化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者ヒアリングにおいては、特に会議室の老朽化に対する指摘が多かった。全ての要因が老朽化ではないが、会議室の利用件数も多くないため、必要な面積・室数に加えて、各展示館からのアクセスなど配置計画も考慮する必要がある。</li> </ul>

## 7. 今後の改修方法の比較

## 7.2 改修方法等の比較結果

## 2) 改修基本計画の検討に向けたポイント (2/3)

## 改修基本計画の検討に向けたポイント

改修等の項目	改修等の内容	今後の改修等計画に向けたポイント
<b>バックヤードの広さ・動線</b>		
広さ	バックヤードの拡張	<ul style="list-style-type: none"> <li>現4・5号館については、バックヤードの狭さ(特に5号館)が指摘をされており、搬出入時の車両のすれ違いも工夫して対応している状況。建替を検討する際には、搬出入動線の円滑化に資するよう現在の敷地条件を踏まえ最大限拡幅できるよう検討する。</li> </ul>
動線	車両の搬出入経路の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、4号館への搬出入経路は、6号館の屋上駐車場への一般車両動線と敷地内出入口が共用されているため、催事開催日と4号館搬出入作業日が重複した際には、誘導に配慮しながら対応している。建替(改修においても)時には、一般車両と搬出入車両の動線計画も念頭においた計画が求められる。</li> </ul>
動線	搬出入/一般来場者動線の切り分け	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状では、4号館から3号館側に搬出入車両が通行する際は、6号館への一般来場者動線を横断する必要がある。また、本業務で検討した改修等パターンにおいても、搬出入経路と来場者動線が重複しないような動線計画を検討しているが、今後の改修等計画を検討する際には、各展示館の来場者動線に配慮した搬出入経路の検討が求められる。</li> </ul>
<b>駐車場(事業者)の荷捌きスペース</b>		
荷捌き	荷捌きスペースの拡張	<ul style="list-style-type: none"> <li>本業務で検討した各改修等のパターンについては、いずれも荷捌きスペースが確保出来る計画を検討した。現状は、十分な荷捌きスペースが確保出来ないことから、複数の催事を同時開催出来ずに稼働率を下げてしまっている状況もあり、建替を検討する際には、荷捌きスペースの確保が求められる。</li> </ul>
<b>周辺道路への影響</b>		
周辺搬出入経路	搬出入車両滞留による渋滞回避(特に1・2号館南側道路)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2号館南側には住宅街が隣接していることから、搬出入車両が道路側に滞留し、地域住民等の一般車両動線に影響を及ぼさないよう特に配慮する必要がある。</li> </ul>
<b>公共空間に求める機能等</b>		
場内通路	屋内化による滞在環境の改善・打合せ等スペースの拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は、展示館以外の共有スペースがインテックスプラザや各展示館のアクセス動線含めて全て屋外になっている。特に夏季・冬季などは来場者の屋外待機環境が厳しいため、屋内化による滞在環境の向上が求められている。加えて、来場者がインテックス大阪滞在中に、業務や打合せなどを気軽に行えるフリースペースも限定されているため、国内他展示場も参考にしつつ環境改善が求められている。</li> </ul>
来場者動線	各館へのアクセス向上(2階レベルでの動線見直し等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数館・全館利用の大規模展示会など、各展示館や会議室・レストラン等も含めた動線を見直すことで、各施設の利用・稼働率向上や、催事における来場者の交流活性化を促すことが可能。投資効果も踏まえながら、来場者動線の最適化を検討する必要がある。</li> </ul>

出所) 当社作成

## 7. 今後の改修方法の比較

## 7.2 改修方法等の比較結果

## 2) 改修基本計画の検討に向けたポイント (3/3)

## 改修基本計画の検討に向けたポイント

改修等の項目	改修等の内容	今後の改修等計画に向けたポイント
公共空間に求める機能等		
駅からの歩行者動線	デッキ整備・屋根設置によるアクセス・環境改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道によるインテックス大阪へのアクセスは、中心頭駅、コスモスクエア駅が最寄となっているが、特に最も近い中心頭駅からのアクセス(駅周辺の寂しさ等の環境も含め)については、主催者や来場者からの改善要望も多い。雨に濡れない環境やアクセス性の改善についても検討課題として残っている。</li> </ul>
6号館稼働率・収益性向上の工夫		
バスロータリー移設	新号館と6号館間にバスロータリーの移設(人流改善)	<ul style="list-style-type: none"> <li>A～Dゾーンで構成される6号館は、インテックス大阪で最も展示面積が大きい一方で稼働率が最も低くなっている。会場入り口から最も遠いことや構造上の課題(C・Dゾーンへの搬出入等)もあるが、シャトルバス発着場を6号館近くに設けるなど来場者動線の見直しも稼働率・収益性向上に貢献すると考えられる。</li> </ul>
各展示館とのアクセス	各展示館とのアクセス改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>「公共空間に求める機能等 - 来場者動線」に同じ</li> </ul>
C・Dゾーン用途変更	Cゾーン駐車場化と新展示館面積追加によるDゾーン稼働率改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>6号館3階のC・Dゾーンは、搬出入経路の課題により、C・Dで異なる催事を開催する事が難しくなっている。このため、例えばCゾーンを駐車場に用途変更し、その分の展示面積を新展示館に追加といった事も検討出来る。(建築基準法等の対応・財政負担等については検証が必要)</li> </ul>
建設工事と運営の両立		
工事動線の確保	工事動線と来場動線の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修・建替のいずれの場合でも、大阪市全体としての展示可能面積を極力維持すること(休館期間の最小化)が求められる。工事動線と来場者動線に配慮した配置計画が求められる。</li> </ul>
休館期間の短縮	運営期間を維持する工事計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の動線計画のほか、展示館とその他施設の工期切り分けなど他館への影響を最小限にする工事計画を策定する必要がある。</li> </ul>

## 8. 最適な事業手法の検討

---

- 8.1 インテックス大阪及び他都市MICE施設の運営形態/発注形態
- 8.2 インテックス大阪の改修後に想定される運営形態
- 8.3 再整備事業において想定される設計・施工・運営の発注形態
- 8.4 事業手法に関する建設会社・運営会社へのヒアリング
- 8.5 ヒアリング結果を踏まえた事業手法の考察

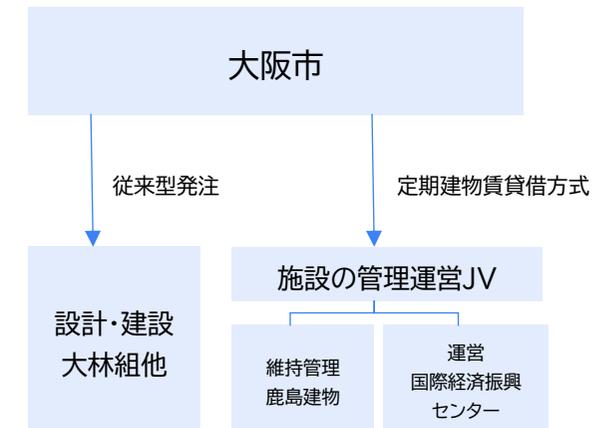
## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.1 インテックス大阪及び他都市MICE施設の運営形態/発注形態

## 1) インテックス大阪

- インテックス大阪運営共同企業体が運営。市との賃貸借契約により自由度の高い運営が可能であるが、契約期間が5年と短いため、長期運営を見据えた催事誘致や人材確保がしにくい面がある。

項目	現状
敷地所有者	大阪市
施設所有者	大阪市
施設運営者	インテックス大阪運営共同企業体(一般財団法人 大阪国際経済振興センター、鹿島建物総合管理株式会社)
発注手法(分離/一括)	分離 設計:大阪市都市整備局/株式会社東畑建築事務所 施工:株式会社大林組/株式会社松村組/鹿島建設株式会社/株式会社奥村組 維持管理&運営:インテックス大阪運営共同企業体
発注スケジュール	【開業】 1～5号館・管理棟・インテックスプラザ他:1985年5月 6号館:1993年10月 【維持管理・運営】 令和4年4月1日～令和9年3月31日(5年契約)
施設所有者と運営者との契約形態(契約期間)	定期建物賃貸借方式 (5年契約。市が適当と認める場合は再度5年間の定期建物賃貸借契約の締結が可能。)
現行の運営形態による特徴・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期建物賃貸借契約は貸主に更新義務がないため、市にとっては計画的な土地活用や再開発が可能。</li> <li>・ 事業者は契約期間内は自由度の高い運営が可能。</li> <li>・ 契約期間の短さにより事業者の人材育成や投資活動が消極的。</li> </ul>



出所) 事業運営実施協定書、定期建物賃貸借契約書等の大阪市提供資料  
一般社団法人日本建設業連合会「日建連表彰BCS賞 インテックス大阪(大阪国際見本市新会場)」, <https://www.nikkenren.com/kenchiku/bcs/detail.html?ci=370>, 2025年12月18日閲覧

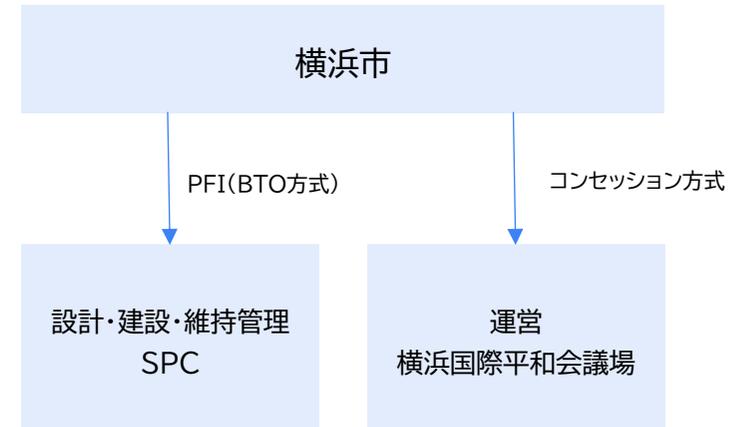
## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.1 インテックス大阪及び他都市MICE施設の運営形態/発注形態

## 2) パシフィコ横浜(ノース増築時)

- 市の外郭団体である横浜国際平和会議場が運営。コンセッション方式のため契約期間が20年間と長いため、事業者は長期的に運営リスクを負うが、長期的で安定した収益基盤の確保が可能。

項目	ノース増築時
敷地所有者	横浜市
施設所有者	横浜市
施設運営者	株式会社 横浜国際平和会議場(市の外郭団体)
発注手法(分離/一括)	設計施工・維持管理の一括発注+運営は別途運営権者を選定 設計・建設・維持管理:株式会社横浜グローバルMICE(SPC) 運営:株式会社 横浜国際平和会議場
発注スケジュール	【設計・建設・維持管理】 平成27年1月 PFI事業(BTO方式)入札公告 平成27年12月 事業契約締結 平成27年12月～令和2年3月 設計・建設 ～令和22年 維持管理 【運営】 平成28年5月 運営業務 入札公告 平成29年3月 運営業務 契約締結 ～令和22年3月 運営
施設所有者と運営者との契約形態(契約期間)	コンセッション方式 (契約期間20年間)
現行の運営形態による特徴・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期的な視点により事業者が運営を行うことから、人材育成や投資活動を行いやすい。</li> <li>● 施設利用料金は運営権者の裁量により決定できることから、催事主催者との協議による柔軟な料金設定も可能。</li> </ul>



出所)横浜市 株式会社横浜グローバルMICE「みなとみらい21中央地区20街区MICE施設整備事業に伴うみなとみらいコンベンション施設整備事業事業契約書(平成27年10月)」,  
[https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/kanko-event/mice/20mice.files/0005\\_20180920.pdf](https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/kanko-event/mice/20mice.files/0005_20180920.pdf), 2025年12月18日閲覧

横浜市 株式会社横浜国際平和会議場「みなとみらい21中央地区20街区MICE施設運営事業公共施設等運営権実施契約書(平成29年3月)」, [https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/kanko-event/mice/20mice.files/0169\\_20180920.pdf](https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/kanko-event/mice/20mice.files/0169_20180920.pdf), 2025年12月18日閲覧

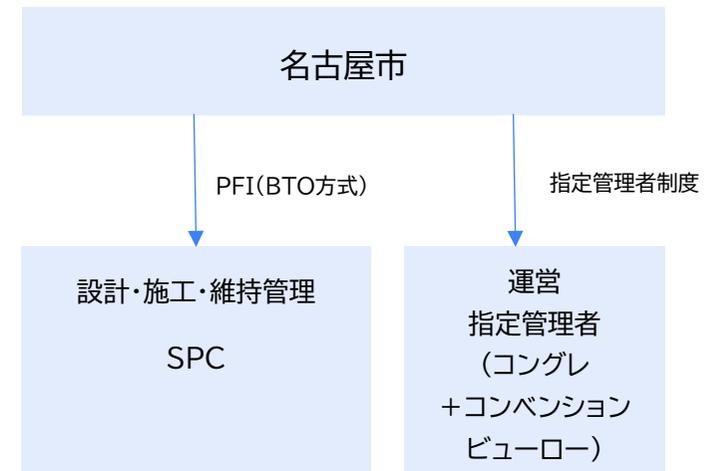
## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.1 インテックス大阪及び他都市MICE施設の運営形態/発注形態

### 3) 名古屋市国際展示場 ポートメッセなごや(第1展示館建替え時)

- PFI方式によって、事業全体の手間やコストの低減が可能。
- 指定管理期間は4年間と短いため、長期運営を見据えた催事誘致や人材確保がしにくい面がある。

項目	第1展示館建替え時
敷地所有者	名古屋市
施設所有者	名古屋市
施設運営者	株式会社名古屋モノづくりメッセ(SPC)
発注手法(分離/一括)	設計施工・維持管理の一括発注+運営は別途指定管理者を選定 (設計・建設・維持管理は竹中工務店グループが担う) (指定管理者はコングレ+コンベンションビューロー)
発注スケジュール	<b>【設計施工・維持管理】</b> 平成30年6月 設計・建設・維持管理の入札公告 平成30年12月 事業者決定 平成31年4月～令和4年6月 設計・建設 令和4年10月 維持管理開始 <b>【運営】</b> 令和3年9月 指定管理者募集 令和4年4月 指定管理開始
施設所有者と運営者との契約形態(契約期間)	維持管理:PFI事業契約(15年間) 運営:指定管理者制度(4年間)
現行の運営形態による特徴・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指定管理期間の短さにより事業者としては長期的な視点を見据えた催事誘致や人材育成がしにくい面がある。</li> <li>● 施設利用料金は条例により上限額が決められているため、事業者の判断による柔軟な料金設定はできない。</li> </ul>



出所)名古屋市観光文化交流局「名古屋市国際展示場新第1展示館整備事業における落札者の決定について(平成30年12月11日)」,  
[https://www.city.nagoya.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page/001/026/768/301211rakusatusya.pdf](https://www.city.nagoya.jp/_res/projects/default_project/_page/001/026/768/301211rakusatusya.pdf),2025年12月18日閲覧  
 名古屋市 株式会社名古屋モノづくりメッセ「名古屋市国際展示場新第1展示館整備事業 事業契約書(平成31年1月23日)」,  
[https://www.city.nagoya.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page/001/026/768/310306jigyokeiyaku.pdf](https://www.city.nagoya.jp/_res/projects/default_project/_page/001/026/768/310306jigyokeiyaku.pdf),2025年12月18日閲覧

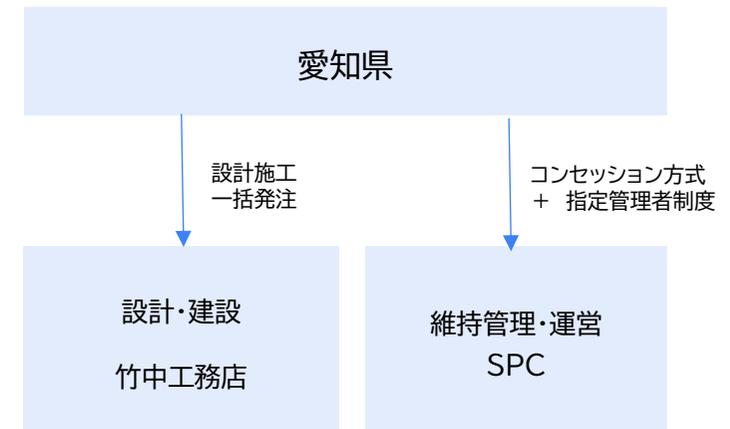
## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.1 インテックス大阪及び他都市MICE施設の運営形態/発注形態

## 4) 愛知県国際展示場 AICHI SKYEXPO(新設)

- コンセッション方式により、契約期間が長く、料金設定の自由度が高いことで、運営事業者の経営の自主性が期待できる。運営権者として実施できない行政処分(利用許可等)は、運営権者を指定管理者に指定し実施させる。

項目	新設時
敷地所有者	愛知県
施設所有者	愛知県
施設運営者	愛知国際会議展示場株式会社(SPC)
発注手法(分離/一括)	設計施工一括発注 + 運営は別途運営権者を選定 (コンセッション方式と指定管理者制度を併用) 設計・建設:竹中工務店名古屋支店 維持管理・運営:愛知国際会議展示場株式会社(SPC)
発注スケジュール	【設計施工】 平成28年10月 基本設計、実施設計・建設工事の落札者決定 【維持管理・運営】 平成29年7月 コンセッション方式による入札公告 平成30年1月 運営事業者との基本協定書締結 平成30年4月 運営事業者との実施契約(~令和17年3月) 平成31年8月 開業
施設所有者と運営者との契約形態(契約期間)	コンセッション方式(契約期間15年間)
現行の運営形態による特徴・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期的な事業者の運営を求めやすく、人材育成や投資活動を行いやすい</li> <li>・ コンセッション方式と指定管理者制度を併用しており、使用許可権限を含めて事業者に委譲。</li> </ul>



## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.2 インテックス大阪の改修後に想定される運営形態

### インテックス大阪において想定される運営形態

- 類似施設の運営形態を踏まえると、現在採用されている定期建物賃貸借契約のほか、主な運営形態として指定管理者制度、コンセッション方式が想定される。各運営形態の一般的な特徴は下表に示す通りである。
- 次項以降では、主な運営形態を提示して運営会社へのヒアリングを行い、インテックス大阪の事業特性を踏まえた上で妥当と考えられる形態について意見聴取する。

#### 施設運営形態の比較

項目	指定管理者制度	定期建物賃貸借方式	コンセッション方式
行政関与の度合い	高い 施設の所有・運営方針・料金設定などは基本的に行政が条例に規定する。	低い 行政は施設所有権を保有するが、運営方針・料金設定などは民間に決定権を委ねる。	中程度 行政は施設所有権を保有するが、運営方針・料金設定などは、民間に決定権を委ねる。行政の意向は要求水準書に反映する。
事業の継続性や安定性	長期継続は担保されにくい 指定管理期間は通常3～5年と短いことから、中長期での事業継続性や安定性が担保されない。	長期継続は担保されにくい 契約期間を長期に設定することも可能である一方、普通財産の貸付は、公用又は公共用の必要が生じた場合、解除される場合がある。	長期継続が担保されやすい 契約期間を長期に設定することも可能であり、中長期での事業継続性や安定性が担保されやすい。
施設利用料金の意思決定者	行政(及び議会) 施設利用料金を条例で定める必要があり、指定管理者の意向による料金改定には制約が大きい。	運営事業者(契約条件で制限可) 施設利用料金(貸館料金)は基本的に借家権者の意向により設定できる。	運営事業者(契約条件で制限可) 施設利用料金は基本的に運営権者の意向により設定できる。
施設改修・更新の自由度・柔軟性	小さい 施設の改修・更新は、基本的に施設保有者である行政の判断により実施される。 指定管理者が行政の承認を得て改修・更新投資を行う事も可能だが、追加投資部分の所有権は行政に帰属する。 改修投資部分を担保とした資金調達は基本的に不可。	小さい 施設の改修・更新は、基本的に施設保有者である行政の判断により実施される。 借家権者が行政の承認を得て改修・更新投資を行う事も可能だが、追加投資部分の所有権は行政に帰属する。 借家権には担保設定は認められず、改修投資部分を担保とした資金調達は基本的に不可。	大きい 運営権には物件的性質を有するため、施設の改修・更新は、運営権者の判断により実施することが可能。 運営権には担保設定(抵当権等)も認められ、運営権は追加投資部分にも及ぶため、改修投資部分を担保として資金調達することも可能。
その他(適用のための課題・制約条件等)	行政財産(公の施設)にのみ適用可能であるが、インテックス大阪は普通財産であるため適用には財産区分の種別変更が必要。	公有財産を貸し付ける場合、原則、普通財産とする必要がある。	コンセッション方式を導入する場合、PFI法に基づき、実施方針に関する条例を制定する必要がある。

## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.3 再整備事業において想定される設計・施工・運営の発注形態

## 1) インテックス大阪の4号館・5号館の再整備事業の発注形態で考慮すべき事項

### ① 施工中における設計者・施工者・運営者との調整

施工中においても4号館・5号館以外の施設は継続的に運営するため、施工者と運営者が調整しやすい事業手法が望ましい。運営しながら施工可能な施設計画を立てる必要があり、設計段階から施工者の意見を反映しやすい事業手法が望ましい。

### ② インテックス大阪全館の一元的な運営

全館を活用する催事利用への対応や各展示館の利用調整の一元化を考慮し、複数の運営者が併存しない運営形態が望ましい。

### ③ 運営者視点・催事主催者視点での施設計画

4号館・5号館の施設計画やインテックス大阪全体の動線計画に際して、運営者や催事主催者の視点から利用しやすい施設計画が反映される事業手法が望ましい。

### ④ 事業者が参画しやすい発注形態

再整備事業を公募した際に、複数の事業者からの事業参画が見込まれ競争環境が働く事業手法が望ましい。

### ⑤ 既存運営者から新運営者への事業引継ぎの考慮

既存運営者が誘致した催事等の引継ぎ期間の確保や、新運営者が運営に着手する前から新規に誘致できる契約形態を考慮する必要がある。

契約形態	: 定期建物賃貸借契約
契約期間	: 令和4年4月1日から令和9年3月31日までの5年間(契約にあたっての留意事項に記載するモニタリングにおいて市が適当と認めるとき、契約期間の満了の日の翌日を始期とする新たな定期建物賃貸借契約を締結(5年間))
賃料	: 固定賃料(702,000,000円/年)+歩合賃料(本件建物のうち展示館・会議室・駐車場において得られた年間収入額(消費税等を除く。)から前号の固定賃料に相当する額を差し引いた額の40%に相当する額)
工事に伴う 休館時の対応	: 施設の一部の館を1年以上休館する程度の大規模な改補修を実施する場合、当該工事期間の属する年度の固定賃料の金額は、直近年度休館時の対応の施設利用・予約受付状況に対する工事期間における各年度の利用実績の減少、収入額に占める賃料負担額の比率の増加状況等を考慮し、市との協議で定める。

## 8. 最適な事業手法の検討

## 8.3 再整備事業において想定される設計・施工・運営の発注形態

## 2) 再整備事業に係る設計・施工・運営の発注形態の組み合わせ

- 事業手法検討に際して考慮すべき条件を踏まえると、設計・施工・運営を分離発注とするか、一括発注とするか、発注単位の組み合わせ方が論点となる。
- 施工中においても4号館・5号館以外の施設を継続的に運営する事業の特殊性を踏まえると、**運営しながら施工可能な施設計画を設計者と施工者が運営者と調整**する視点から、設計と施工は分離しない事業方式が望ましい。

項目	従来方式 (設計・施工・運営 分離発注)	設計施工一括発注(DB) + 運営発注	設計施工運営一括発注 (DBO/BTO等)
概要	設計者・施工者・運営者をそれぞれ別に選定	設計施工者を一括で選定して運営者は別に選定	設計施工者及び運営者を一括で選定
発注／施工／運営開始の流れ	① 設計業務(発注→特定→完了) ② 施工業務(発注→特定→完了) ③ 運営・維持管理業務(発注→特定→完了) ④ 運営開始	① 設計施工業務(発注→特定→完了) ② 運営・維持管理業務(発注→特定→完了) ③ 運営開始	① 設計施工・運営・維持管理業務(発注→特定→完了) ② 運営開始
各発注形態に対する事業者の参画可能性	高い ➢ 設計・施工・運営の個別企業が容易に参入可能	中程度 ➢ 設計・施工一体のコンソーシアム組成が必要	低～中 ➢ 設計・施工・運営一体のコンソーシアム組成が必要
施設設計における行政意向の反映しやすさ	個別に仕様書に基づいて発注するため反映しやすい	性能発注となるため、従来方式よりも事業者の意向が含まれる	性能発注となるため、従来方式よりも事業者の意向が含まれる
施設設計における運営者意向の反映のしやすさ	個別に発注されるため反映しにくい	設計施工とは別途発注されるため反映しにくい	設計施工と運営が一括で選定されるため反映しやすい
運営しながら施工可能な施設設計のしやすさ	個別に発注されるため、設計と施工の調整がしにくい	設計施工が一括で選定されるため、施工計画を設計に反映しやすい	設計施工が一括で選定されるため、施工計画を設計に反映しやすい
事業者選定にかかる期間(公告～契約締結)	各発注については比較的短期 設計・施工・運営を合わせると長期	公募要項等の作成や事業者選定に約2年程度必要	公募要項等の作成や事業者選定に約2年程度必要
市のコスト縮減の可能性	小さい	一定あり	大きい

## 8. 最適な事業手法の検討

## 8.3 再整備事業において想定される設計・施工・運営の発注形態

## 3) 新規運営者への切り替え時期を考慮した発注組合せパターンの仮説設定

- 設計施工と運営の組み合わせ方に加えて、既存運営者から新規運営者への切り替え時期の適切性を検討する観点から、発注組合せとして下記3パターンを想定したうえで考えられる得失を整理した。
- 次項では建設会社及び運営会社へのヒアリングを行い、各パターンの妥当性について意見聴取する。

## 発注組合せ パターン①

【公募形態】

・設計・施工・運営一括

【運営開始時期】

・設計段階から新運営者に切り替え

## 発注組合せ パターン②

【公募形態】

・設計・施工・運営一括

【運営開始時期】

・完成後から新運営者に切り替え

## 発注組合せ パターン③

【公募形態】

・設計・施工と運営を分離

【運営開始時期】

・完成後から新運営者に切り替え

	4, 5号館の整備段階		
	設計時	解体 & 施工時	完成後
運営	新規運営者		
設計施工	新規運営者を含む事業団体		
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工者と運営者との調整が容易(他館の稼働と連携した計画を立てる等のコントロールが可能)。</li> <li>・ 運営者視点での施設計画が可能。</li> <li>・ 既存運営者の賃貸借契約満了のタイミングで一括して体制変更が可能。</li> </ul>		
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存運営者との事業引継期間を確保しにくい。</li> <li>・ 設計・施工・運営のコンソーシアム組成が必要となり参画難易度が高い。</li> </ul>		

	4, 5号館の整備段階		
	設計時	解体 & 施工時	完成後
運営	既存運営者	新規運営者	
設計施工	新規運営者を含む事業団体		
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営者視点での施設計画が可能</li> <li>・ 既存運営者との事業引継期間を確保しやすい。</li> </ul>		
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工中における施工者と運営者との調整が複雑化(他館の稼働と連携した計画を立てにくい)。</li> <li>・ 既存運営者の運営中に一部施設の稼働を停止する等、賃貸借契約の条件を一部変更する必要がある。</li> <li>・ 設計・施工・運営のコンソーシアム組成が必要となり参画難易度が高い。</li> </ul>		

	4, 5号館の整備段階		
	設計時	解体 & 施工時	完成後
運営	既存運営者	新規運営者	
設計施工	新規運営者と関係のない設計施工者		
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存運営者との事業引継期間を確保しやすい。</li> <li>・ 設計・施工と運営を分離発注することで事業への参画難易度が軽減する。</li> </ul>		
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工中における施工者と運営者との調整が複雑化(他館の稼働と連携した計画を立てにくい)。</li> <li>・ 既存運営者の運営中に一部施設の稼働を停止する等、賃貸借契約の条件を一部変更する必要がある。</li> <li>・ 運営者視点での施設計画が反映されにくい。</li> </ul>		

出所) 当社作成

## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.4 事業手法に関する建設会社・運営会社へのヒアリング

### 1) 運営形態及び発注形態に対する民間事業者の意向調査

- インテックス大阪の再整備事業に民間事業者が参画しやすい運営形態・発注形態を把握することを目的として、類似のMICE施設の整備運営事業の経験を有する建設会社及び運営会社を対象としてヒアリングを行った。
- ヒアリングに際しては、前項までで整理した、インテックス大阪の改修後に想定される運営形態、発注組合せパターンを提示した上で、再整備事業への参画に際して留意すべき点などを伺った。

#### 事業手法に関連する主なヒアリング項目

- 施設運営と建替・改修工事を同時並行で行う場合の留意点
- 設計時・施工時・運営者選定時における、設計者・施工者・運営者の望ましい組み方・留意点
- 施工者・運営者としての参画しやすさ
- 取り組みやすい運営手法(指定管理・定期借家・コンセッション等)
  - － 運営期間、料金設定自由度、改修自由度、行政関与

## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.4 事業手法に関する建設会社・運営会社へのヒアリング

## 2) 運営形態に対するヒアリング結果のポイント

### ①運営期間

- 人材確保、長期安定運営等の視点から、10年間程度が妥当とする意見が多い。

### ②運営手法

- 長期的な更新投資や収益性向上を目指す場合はコンセッションが良いという意見があるが、経験が無い事業者からは定期建物賃貸借がやりやすいという意見もある。
- 運営期間が短く自由度が低い指定管理者制度は、インテックス大阪の運営には向かないという意見が多い。

### ③料金設定

- 施設利用料を運営者の裁量で柔軟に変えられる事業手法が望ましいという意見が多い。

### 事業手法に関するヒアリング結果まとめ(1/3)

論点	改修後に想定される運営形態に対する意見
①運営期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人材の雇用を含め、長期で安定した運営のためには運営期間は最低10年は必要。</li> <li>● 運営期間について、10年ある方が安心して仕事ができる。5年では社員を採用できない。</li> <li>● 契約期間は長い方がよい。(現状の10年でも十分)</li> </ul>
②運営手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間投資を取り入れて長期の投資を認めていくなら、コンセッション方式がよい。</li> <li>● コンセッション方式は、基本的に貸館業で利益を上げるため、稼働させることが必須。市が建設費を負担せず、事業者が事業収益で返済していくのは事業者にとっては厳しい。</li> <li>● 指定管理者制度の場合は、運営事業者の自由度が低いため、運営しづらい。</li> </ul>
③料金設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンセッション方式にする場合は、現在(賃貸借契約)と同程度の運営収益が議会等から求められることになる。対応策として、事業者側が利用料を変えられる余地を残して、収益を保てるような契約内容にすることが考えられる。</li> <li>● 指定管理者制度でも、利用料金について幅を持たせられるような設定にして欲しい。</li> </ul>

## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.4 事業手法に関する建設会社・運営会社へのヒアリング

### 3) 発注形態に対するヒアリング結果のポイント

#### ①設計施工と運営の組合せ

- 設計施工に運営者の意向を反映させる観点から、一括発注が望ましいとする意見が多い。施設建設と内装工事を分離して内装を運営事業者が担う工夫についての意見もあった。

#### ②既存運営者との関係・事業への参画可能性

- 既存運営者との調整の難しさや、既存運営者がいる中で本事業への参入できるか疑問という意見があった。
- 新運営者に求める要求水準が明確になると参画判断材料になるとの意見もあった。

#### 事業手法に関するヒアリング結果まとめ(2/3)

	設計・施工・運営の発注形態に対する意見
①設計施工と運営の組合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一括発注が理想。設計施工段階から運営者意向が十分に反映されないと、運営フェーズからの回復は難しい。</li> <li>● 設計時から運営者が入れれば、早い段階でリスクを見通して行政とのリスク分担も考えられる。</li> <li>● 長期的で安定した収支を成立させるために、運営者が維持管理まで見据えて設計施工段階から携わることが理想。</li> <li>● 分離発注でも、施設建設をゼネコン、内装の一部を運営事業者が担う形にすれば、運営事業者にも初期投資が必要になり、賃貸借期間を20年に延ばすこともあり得る。</li> <li>● 工事にも運営の意図を含めるという条件を要件として提示することが必要。</li> <li>● 運営会社の意見が入っていなければ完工後の運営がしにくい、また、工事期間中の他館での催事と合わせた調整等がしやすい点でも一括発注が望ましい。</li> </ul>
②既存運営者との関係・事業への参画可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 運営も含めた一括発注では、既存の運営事業者と新規運営事業者が共存する可能性もあり、引継ぎなどの調整が複雑になる点がデメリット。</li> <li>● 既存運営者は、何十年間の運営実績の積み重ねと顧客関係を有しているため、新規事業者の参入のハードルは高い。</li> <li>● 大阪の産業振興に資する展示会を誘致・開催することを要求水準に入れておけば事業者は対応可否を判断して手を挙げられる。</li> </ul>

## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.4 事業手法に関する建設会社・運営会社へのヒアリング

### 4) 新規運営者への切り替え時期に対するヒアリング結果のポイント

#### ①新規運営者への切り替え時期

- 設計施工のタイミングから新規運営者として入った方がスムーズに移行可能という意見がある一方、設計施工の条件として施工中の運営との調整事項が明確であれば、新規運営者への切り替え時期はいつでも良いという意見もあった。

#### ②既存運営者との引継ぎ

- 既存運営者との調整期間の十分な確保や、新規運営者が催事誘致を開始する時期の整理が必要との意見があった。

### 事業手法に関するヒアリング結果まとめ(3/3)

	新規運営者への切り替え時期に対する意見
新規運営者への切り替え時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計施工のタイミングで誘致対象(産業展示会等)が明確で、そのフェーズから関わる事ができれば、4, 5号館の改修等の後もスムーズに運営が可能。</li> <li>● 運営者も設計施工の段階から参画している方が経済的である。</li> <li>● 設計施工時に条件がきちんと出ているのであれば、運営者がどのタイミングで参画しても問題ない。</li> </ul>
既存運営者との引継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存事業者との調整期間を十分に取らなければ、完工後に引き渡してもスムーズな運営は難しい。設計施工段階から入り、準備がしっかりできることが望ましい。</li> <li>● 催事の予約タイミングの整理等が必要。休館期間が発生するため、段階的に運営権を譲渡する必要が出てくる。</li> </ul>

## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.5 ヒアリング結果を踏まえた事業手法の考察

### 1) ヒアリング結果を踏まえて想定される運営形態

- インテックス大阪の事業特性として、長期的な経営視点から地域産業振興目的による催事誘致の推進と、施設稼働率向上に向けた利用促進のバランスを取る必要がある。
- 長期的視点での事業運営や稼働率向上に向けた柔軟な料金設定が可能な事業方式として、**定期建物賃貸借方式かコンセッション方式**が運営形態の候補と考えられる。

#### ①運営期間

- 大阪の産業振興に資する展示会等を戦略的・継続的に誘致していくためには、長期安定的な事業運営の関与できる運営形態とすることで、催事主催者との関係性の構築や、将来を見据えた人材確保が可能な契約とすることが望ましい。
- これを踏まえると、いずれの運営形態においても、**契約期間が最低10年**は必要と考えられる。

#### ②運営手法

- インテックス大阪の事業運営に際しては、事業目的に資する展示会誘致を進める観点や、稼働率向上による収益確保により持続可能な運営を進める観点から、**公共事業として市の政策に沿った事業運営や、自由度の高い料金設定、積極的な更新投資等を可能とする観点では、コンセッション方式**の検討余地がある。
- 一方で、現行の運営形態である定期建物賃貸借方式を変更することにより、これまでコンセッション方式の経験があまりない運営会社の対応が難しくなることも考えられるため、**定期建物賃貸借方式を継続した上で、契約期間を従来の5年間より長期間化**することも考えられる。

## 8. 最適な事業手法の検討

# 8.5 ヒアリング結果を踏まえた事業手法の考察

## 2) ヒアリング結果を踏まえて想定される発注手法

- ヒアリングを踏まえて、施設計画への運営者の意向反映や、施工中における施工者と運営者との円滑な調整という観点で本事業への適性を整理した。

### ヒアリング結果を踏まえて想定される発注手法事業手法

	発注形態・運営移行タイミング	ヒアリングを踏まえた本事業への適性
発注組合せ パターン①	【公募形態】 ・設計・施工・運営一括 【運営開始時期】 ・設計段階から新運営者に切り替え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設計段階から運営者の意見が反映され、維持管理まで見据えた設計施工が可能になるため、<b>運営上のリスク軽減、運営フェーズへのスムーズな移行ができる点で、運営者にとって望ましいパターン。</b></li> <li>・ 一方、(設計施工業者、運営事業者のいずれかが参画できず)コンソーシアムを組むことができない、既存運営者が選ばれない場合の調整が複雑なため<b>参入ハードルは高い。</b></li> </ul>
発注組合せ パターン②	【公募形態】 ・設計・施工・運営一括 【運営開始時期】 ・完成後から新運営者に切り替え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設計段階から運営者の意見が反映され、維持管理まで見据えた設計施工が可能になるため、運営上のリスク軽減ができる。</li> <li>・ 一方、4号館・5号館の完成後に運営者を切り替える場合、パターン①のように既存施設の運営から<b>段階的に運営範囲を拡大して事業運営に慣れていくプロセスを経ることができない</b>ため、新運営者としてはリスクが高いという意見もある。</li> </ul>
発注組合せ パターン③	【公募形態】 ・設計・施工と運営を分離 【運営開始時期】 ・完成後から新運営者に切り替え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設計施工のみ運営のみでも参入可能であり、<b>既存運営者も含め複数の事業者の参画が見込める点で現実的なパターン。</b></li> <li>・ 分離発注のデメリットである設計施工への運営者の意向反映ができない点については、<b>設計施工業務の要件として運営者意向の反映や工事中的調整等を提示</b>しておくことで回避・軽減することが可能。</li> </ul>

未来を問い続け、変革を先駆ける

**MRI** 三菱総合研究所